

洋諸國間に於ける平均純利率の相違は迅速に減少しつつある。之は交通の一般發達の結果である。殊にこれら一切諸國の大資本家が株式取引所證券を多額に保有し、これらの證券は全世界を通じて同一年收を生じ實際上同日に同一價格をもつて之を賣却するといふ事實の結果である。

吾々は後に貨幣市場を論ずる段に於て、直接使用のための資本供給が時によつて著しく増減する原因は何であるか、及び時によつて銀行家その他が擔保が確實で必要な場合に迅速に貨幣を自家の掌中に回收し得るに於ては、極度の低利率に満足する原因は何であるかを研究すべきであらう。かゝる場合には、彼等是一流の擔保を有せざる借主に對してすら餘り高くない利率をもつて短期貸附を行はうと欲する。蓋し彼等は借主側に少しでも弱點の徴候があると思ふ場合には貸替を拒む力があつて、ために彼等の損失の危険は著しく減少するからである。而かも確實な擔保による短期貸附は單に名目價格を收めるに過ぎないから、彼等が借主から收める利子は殆んど全部危険保険料と彼等自身の煩勞の報酬とである。併し他方に於てかゝる貸附は實質上借主にとつて

餘り低廉でない。かゝる貸附は借主の周圍に多くの危険を集め、借主はこれらの危険を避けるために往々高い利率を支拂はんと欲することがあらう。蓋し何等かの災厄が借主の信用を傷けるか、或はもし貨幣市場の變調によつて貸附資本の一時的窮乏を來すならば、彼は忽ちに非常な窮境に陥るかも知れぬからである。従つて名目上低利率の對商人貸附は、短期のみについて言ふならば、實質に於て右に論じた一般原則の例外を成すものではないのである。

六 利率といふ言葉を舊投資に適用するには注意を要する。

資力投下の流動量は生産上に於けるその資力の共通源泉から流れ出るものであつて二つの流れから成り立つてゐる。小なる流れは蓄積された在來量の新増加部分である。大なる流れは單に破壊部分を補充するに過ぎぬ。その破壊部分には食物・燃料その他の場合の如く直接消費によるものと、鐵道の鐵の場合の如く消耗によるものと、草葺屋根或は商工人名錄の如く時の経過によるもの

利率は嚴格に新當資にのみ當てられ、舊當資の値は其の配入に支さるる。

のと、これら總ての結合によるものとあるが、その何れによるを問はない。この第二の流れの年流動量は、英蘭に於ける如く資本の主要形態が耐久的である國に於てすら恐らく全資本高の四分の一位なものである。従つて今の場合、資本一般の所有者は大體に於て資本一般の形態を時の正常條件に順應せしめ、もつて各種の投資より生ずる純所得を均等ならしめ得たものと推定しても不當ではない。

資本一般はその一切形態に對する均等の純利子の期待の下に蓄積されつゝあると言つて差支ないが、吾々がかく言ひ得るは右の推定の下に於てのみである。蓋し繰返して切言する通り、『利率』といふ辭句は極めて狭い意味に於てのみ舊投資に適用し得るものだからである。例へば吾々は恐らく、約七十億の營利資本が約三步の純利子で我國の各種の業に投下されてゐると推定するところがある。併しかゝる言ひ表はし方は——幾多の目的には便宜且つ正當であらうが——精確でない。精確には次の如く言ふべきである。即ちこれら生産業の各々に於ける新資本の投下——即ち限界投下 *marginal investment*——に對する純利

率を約三步と見れば各種生産業への投下營利資本の全體から生ずる總體純所得は之を三十三年買にて(即ち三步の利子を基数として)資本に還元すれば約七十億磅に達すべき高であると言ふべきである。蓋し土地改良或は建物建築、鐵道敷設或は機械製作に既に投下されてゐる資本の價值は、その推算未來純所得(或は準地代 *quasi-rent*)の總體割引價值であつても、もしその期待所得發生力が減退すればその價值も従つて低下し、この低下所得の資本還元價值 *capitalized value* から減價を差引いた高となるであらう。

七 貨幣購買力の變化と利率の變化との關係。

本書全體を通じて吾々は——特に反對の叙述なき限り——一切の價值は一定不變の購買力ある貨幣をもつて言ひ表はされるものと假定する。恰かも天文学者が現實の太陽によらず、中數太陽 *mean sun* が一律に空を運行するものと假定し之によつて日の始めと終りとを決定するを教へたと同じである。なほ貨幣購買力の變化が貸附の條件に及ぼす影響は、短期貸附市場——その附帶事情の多

名目利子に對するもの
對立するもの
の正利子に對するもの
將來の利子に對するもの
購買力に對するもの
購買力に對するもの
基いて推定するもの

くに於て他の如何なる市場とも異なる市場に於て最も著しく、その影響の詳論は之を後に譲らねばならぬ。併し序ながら茲に兎も角抽象理論の問題として之を一言しておくべきである。蓋し借主の支拂はんと欲する利率は彼がその資本使用より收め得ると期待する福利を測定するとは言ふが、かく言ひ得るは、その資本の借入時と返済時とに於て貨幣購買力が同一であるとの假定の下に於てのみだからである。

例へばある人が年末に百五磅を返済する契約の下に百磅を借入れると假定する。もしその間に貨幣購買力が一割高まれば(或は同じ意味になるが一般物價が一対一〇の比をもつて下落すれば)この人は年初に於けるよりも十分の一だけ貨物を多く賣らなければ返済金百磅を作り得ない。即ち彼の取扱ふ物品と物品一般との相對價値に變化がなかつたと假定すれば、彼は借入金百磅に利子を附して返済するためには年初に百十五磅十志の價ありし貨物を年末に賣らねばならぬ。従つてその保有する貨物が一割五歩半増加しない限り損したることとなる。彼は貨幣の使用に對し名目上五歩を支拂ひながら實質上一割

短期に於ては、正利
子に於ては、物
もつては、最
とすは、善
貨幣の
騰貴は、目
利率は、名
利率は、目
高からしめ

五歩半を支拂つたのである。

之に反してもし物價が著しく騰貴してその年内に貨幣購買力が一割低下し年初に九十磅の價ある物をもつて百磅を作り得るとすれば彼は借入金に對し五歩を支拂つたのでなくて實質上は貨幣保管料として五歩を受取つたこととなるのである(13)。

(13) Fisher, *App ecation and Interest*, 1896 及び *The rate of Interest*, 1907 殊にその第五章第十四章及びその關係附録參照。

吾々は後に商業活動の膨張期沈滞期交替の原因を論ずる場合に明かにする通り、この期間の交替は貨幣購買力の變化によつて生ずる實質利率の變化と密接に關聯してゐる。蓋し物價が騰貴しやうとすれば人は争つて貨幣を借入れ財を購入し、よつて物價騰貴を助成し企業は膨張してその經營は無謀・浪費的となり、借入資本をもつて作業する者は借入高よりも少ない實質價値を返済し社會の損害に於て私腹を肥すからである。その後に至つて信用動搖し物價が下落し始めるに至れば、人は吾先に貨物を手放して迅速に價値を高めつゝある貨

幣を手に入れんと欲する。ために物價は愈々迅速に下落し、物價愈々下落すれば信用は更に一層萎縮し、かくて長年月に亘つて物價下落のために物價が下落することゝなるのである。

後に明かにする通り、物價の變動が貴金屬供給の變動によつて生ずるは極めて輕微の度に限り、また通貨の本位として金のみを採用せずして金銀を採用するともこの變動の程度は左程減少しまい。併しこれらの變動によつて生ずる害悪は甚大であるから、これらの變動を少しでも減少するために多大の努力を用ふるは利益である。さりながらこれらの害悪は人の自然支配力の變化に從ひ來る貨幣購買力の徐ろな變化に必ずしも固有のものではない。かゝる變化は一般に得失相半してゐる。大戦争に至る迄の五十年間には、生産技術は進歩し豊富な原料供給源泉への交通便宜も進歩したため、人がその欲望する物の多くを取得するに費す勞働の能率は倍加した。假りに貨物をもつて言ひ表はすソエレン譯者一譯者の購買力が人の自然支配力の増進に——事實としては伴つたが——伴はずして靜止的であつたとすれば、勞働階級の人々の中慣習によつて貨

幣貨銀に著しい影響を蒙る者は損害を蒙つたかも知れなかつた。

し企業にして倒壊死滅するものが少なくない。殊にある種の産業組合形態について然りである。

(2) 第四編第八章を見よ。

この點に關聯して吾々は雇主その他の企業者を、新改良企業方法を案出する開拓的企業者と既に開拓された道を行く追隨的企業者との二種に分けたい。後者が社會に致す奉仕は主として直接であつてまた全福の報償を收めぬやうな場合は稀であるが、前者については全くさうでない。

例へば最近製鐵工業の一部の部門に於ては鐵鑛を最終の形態にする迄の金屬灼熱度數を減じて新たに生産上の經濟を收めるに至つたが、これらの新發明中にはその性質上特許を受けることも秘密とすることも出来ないものがある。かゝる場合に一工業家が五萬磅の資本をもつて正常時に年四千磅の純利潤を收め、内千五百磅はその經營收入、残り二千五百磅は利潤中の他の二分子に屬すると見ていゝとする。該工業家は從來近隣同業者と同一の方法を用ひて作業し來り、その能力は大ではあるが右の如く異常に困難な地位に當る者としては

正常能力或は平均能力以上に出でないと假定する。即ち年千五百磅はその營み來つた種類の作業の正常收入 *normal earnings* であると假定する。併し時の經過に従つて彼は從來慣習的に行つてゐた灼熱度數を一回だけ減少する途を工夫し、その結果生産失費を増加せずして生産高を増加するを得この増加高の純賣價二千磅を收め得るに至る。従つて彼が從來の價格で商品を販賣し得る限り、彼の經營收入は年二千磅だけ平均經營收入を超過し、社會に致す奉仕の全幅の報償を受けるであらう。さりながら近隣同業者も亦た彼の考案に倣ひ恐らく當分の間平均以上の利潤を收めるであらう。併し間もなく競争は供給を増加して彼等の商品の價格を下落せしめ、遂に利潤は略ぼ以前の水準に下るであらう。蓋し一度コロムブスの考案が人に知れ渡つた以上は、何人ももはや卵を立て、普通以上の高い賃銀を受け得ないからである。

幾多企業家の發明は結局に於て世界のために殆んど價格に測り得ぬ價值を有してゐたのであるが、彼等がその發見によつて得た所はミルトンが『失樂園』により或はミレーが『御告の祈』によつて得た所に比してさへも少なかつた。

然るに他方には至要の公共奉仕を盡す非凡能力に基かず寧ろ僥倖によつて巨大の富を成した者が少なくない。よつて新たな途を開いた開拓的企業家は、假へ巨萬の富を遺して死んだとしても、往々一身の利得に到底比すべからざる多大の福利を社會に與へたといふことも有り得るのである。然らば各企業者の受ける報償は彼が直接に社會に致す奉仕に比例する傾あるは明かとしても、この一事のみをもつてしては社會の現存産業組織が吾々の考へ得る最善の組織であることを立證するには足らぬ。吾々の到達し得る最善の組織であるといふことすら立證するに足りない。また吾々の當面の研究範圍が現存社會制度の下に於ける、企業經營收入決定原因の作用に關する研究に限られてゐることを忘れてはならぬ。

吾々は先づ初めに通常労働者職工長及び各等級の雇主が社會に致す奉仕の對價として受ける報償の適合如何を究明して、代用原理が凡ゆる方面に作用するを知るであらう。

二 代用原理が經營收入に及ぼす影響を例解するため、

第一に職工長の奉仕と通常労働者の奉仕、第二に企業主の奉仕と職工長の奉仕、最後に大企業主の奉仕と小企業主の奉仕とを比較する。

職工長の奉仕の需要の通常の場合と労働者の比較する

既に述べた通り、小企業に於ては企業主自ら營む作業の大部分も、大企業に於ては俸給使用人たる部長・支配人・職工長その他が企業主に代つて營んでゐる。この點を糸口として辿つて行くと當面の研究を利する點が少なくない。その最も單純な場合は通常職工長の收入であるから先づこの場合から始めることにしやう。

例へば今假りに鐵道請負業者或は船渠會社支配人が労働者二十人毎に職工長一人を配するを最適當と考へ、職工長の賃銀は労働者賃銀の二倍であると假定する。之は何を意味するかと言へば、彼が労働者五百人と職工長二十四人とを雇用してゐる場合には、通常労働者二人を増加するよりも職工長一人を増加

する方が同じ失費をもつて作業を稍や増加するであらうし、之に對して労働者四百九十人と職工長二十五人とを雇用してゐる場合には寧ろ労働者二人を増加するに如かずと考へるであらうといふことを意味する。もし職工長の賃銀が労働者賃銀の一倍半であるとすれば、恐らく彼は労働者十五人に一人の割合で職工長を用ひるかも知れぬが、事實としては職工長の數は労働者數の二十分の一であつてその需要價格は労働者賃銀の二倍に當るものとする(3)。

(3) 以上の所論は之を第六編第一章七の所論と比較するもいゝ。

例外の場合には職工長はその監督の下に在る労働者を酷使して己れの賃銀を得る場合もあるかも知れぬ。併し今の場合としては職工長は企業細目の組織改善により正當に企業の成功を助けるものと假定する。従つて組織整頓して失態少なく、改廢の餘地も少なく、各労働者が重量物の移動その他の場合に要する助力も常に準備されてをり、機械・工具は一切秩序整然として何人も不十分な要具によつて時間・強力を浪費せず、その他秩序は總て整頓せるものと假定する。この種の作業に當る職工長の賃銀は經營收入の大部分の典型と見るべく、

社會は個々の雇主を介して一定限界に達する迄職工長の奉仕に對し實效需要を提起するものである。その限界とは他業の労働者を増員する方が同額の生産失費を要すべき職工長を増員するよりも産業の總體能率を増進するであらうといふ點である。

以上は競争が雇主を介して生産因素を工夫し配合する作用を營み、よつて最小貨幣費用をもつて極大直接奉仕——貨幣測度をもつて評定する——を致すものと見て來た。即ち雇主をもつて競争を仲介する作用力と見た。併し次に雇主自らの競争の直接作用が——勿論右の如く秩序的ではないが——雇主自身の作業を工夫し配合する状態を見なければならぬ。

三

然らば次に職工長及び俸給使用人たる支配人の作業が常に企業主の作業と比較秤量される状態を見る。之がためには小企業が漸次發展増大する順路を檢するをもつて興味ありとする。例へば一人の大工が著々として道具の所有

組織能力の
需要の適合
大工の地位
漸進をもつ
て例解する

高を増し遂にさゝやかな工作場を借入れ私人の求めに應じて時々の仕事を受けるに至る。経営作業及び僅かながらの危険負擔の任務は大工と注文者が分擔し、この分擔は注文者にとつて多大の煩勞となるから、注文者は大工の経営作業に對し高率の支拂をなすを欲せぬのである(4)。

(4) 第四編第十二章三参照。

小棟梁とし
業の彼の作

よつて彼は第二段に進んで凡ゆる種類の小修繕を引受けるに至る。茲に於て彼は一個の棟梁に出世したのである。もしその企業が擴大するならば彼は漸次筋肉勞働を廢め、ある程度迄は細目の監督すらも廢めて了ふ。彼は自己の作業に代ふるに雇用勞働者の作業をもつてし、自己の利潤を計算するに先つて先づ雇用勞働者の賃銀を自己の受取高中から差引かねばならぬ。彼が今回新たに入つた産業等級の正常水準に達する企業能力を有せざるに於ては、恐らくその得たる小資本を忽ちに全然喪失し暫く惡戰苦闘した後やがて従前分相應に成功してゐた一段下層の産業等級に下るであらう。その能力が略ぼ右の水準にあるならば、平均の幸運によつて地位を維持し恐らく多少地位を進めるで

企業の規模
の増大に從
つてその作
業の性質は
一變する

あらうし、彼の受取高が支出に超過する高は彼の産業等級に於ける正常經營收入の代表的な場合となるであらう。

もし彼の能力が大であつてその等級に於ける正常能力以上ならば、彼は競争者の大多數よりも少ない賃銀その他の失費をもつて競争者と同じの結果を収めることが出來、競争者の支出の一部に代へて自己の普通以上の組織を代用し、その經營收入は彼が節約した支出の價值をも包含するであらう。かくて彼は資本と信用とを増大し、一層低い利率で一層多額の資本を借入れ得るに至るであらう。彼は營業上の知人と營業關係との範圍を廣め、材料過程に關する知識を廣め、大膽にして聰明有利な冒險の機會を得、遂には筋肉作業を廢めた後に於てすらなほ彼の全時間を奪つてゐた任務の殆んど全部を他に移して了ふであらう(5)。

(5) 多數勞働者を雇用する雇主は近代軍隊の指揮將校の行ふ所に倣つて精力經濟を行ふべきである。蓋しウィルキンソン氏 Wilkinson, The Brain of an Army, pp. 42-6 の言ふ通り『組織といふことは、各人の任務が限定され各人が自己の責任とする所を確知し各人の權限がその責任範圍と同一なることを意味する。』(獨逸軍隊では)大尉級以

上の指揮官は總て數單位から成る一隊を指揮しその各單位内部の事項については毫も容喙せず、直接その責にある將校の失態ある場合に干渉するのみである。…軍團を指揮する大將は直接には僅か二三の幕僚を指揮するのみである。…彼は一切種類の單位の状況を檢閲統監するけれども…能ふ限り細目の煩勞を避ける。彼は冷靜に決斷し得る。』ベヂオット Bagehot, Lombard Street, ch. VIII. は特徴ある一流の筆致をもつて、もし大企業主が『非常に忙しいとすればそれは既に何處かに具合の悪い點がある證左である』と言ひ、また(Essay on the Transferrability of Capital)原始的雇主は『クトル或はアキレスが喧嘩の仲間入りをするに比すべし』とし、典型的の近代的雇主は『電信線の遠い一端にある人—二三書類の上に頭を垂れるモルトケ伯—が敵軍の戦死状態を知り戦勝を収める』に比すべしとしてゐる。

四

大規模企業
家と小規模
企業との
収入の適合

以上職工長と通常労働者との収入の適合を檢し、更に雇主と職工長との収入の適合を檢した。以下大規模の雇主と小規模の雇主との収入を研究したい。

右の大工は極めて大規模の棟梁となつたからその企業は非常に多數且つ大となつて、もし小規模の雇主が之を營むとすれば數多の企業は一切細目を監督するに數十人の雇主の時間精力を要する程となるであらう。吾々はかくの如き大小企業間の生存競争を貫いて代用原理が常住不斷に作用するを見る。大なる雇主は小雇主の作業に代へて自身の僅少の作業と俸給使用人たる支配人・職工長の多大の作業とを代用した。例へば一建築物の入札あるときは、大資本を有する建築業者は遠方に在る場合ですらなほ且つ往々競争入札に加はるるを利益とすることがある。地方的建築業者は既に建築現場に近く工場と信頼する雇用労働者とを有する點に於て多大の經濟を収める。之に對して大資本を有する前者は、大規模の材料購入により、機械殊に木材加工機械の使用により、また恐らく資本を一層輕微な條件で借入れ得るによつて何等か利益する所がある。これら二様の利益は屢々略ぼ相互平衡して優劣のないことがあつて、雇用分野の奪取戦は往々に兩者の相對的能率如何に繫つて來る。即ち小建築業者が一心不亂の精力を盡すのと、大建築業者が之よりも有能でありながら、多忙のために輕微な監督を行ふのみであつてその餘は地方支配人・本店事務員の作業をもつて補ふのと、何れが相對的能率あるかに繫つて來るのである(6)。

五 多額の借入資本を用ふる企業家の地位。

以上吾々は自家資本を企業に用ふる者の總經營收入を考察した。自家資本を用ふる者は資本の借入を要せぬ。従つて自ら資本を企業に用ふるを好まぬ資本所有者から資本支配力を集めて、之を十分の企業用自家資本なき者に移さねばならぬ場合に要する直接・間接の費用を要せず、この費用に等しい利益を自ら收め得るのである。

併し生産業の種類によつては、主として自家資本によつて作業する企業家が生存競争に優勝する場合もあり、主として借入資本によつて作業する企業家が生存競争に優勝する場合もある。以下吾々は之を考察せねばならぬ。企業用資本の貸主は人的危険に對する報償を要求するのであるが、この人的危険はある程度迄個々の借主の境遇によるのみならず企業の性質によつて同じくない。ある場合にはこの危険は非常に大である。例へばある人が電氣事業の一新部

借入資本によつて作業する企業家は、自家資本を用ふる者より、生存競争に優勝するに於て、利益を立つた地は、

併し生産業に於ては、主要な地位を占める

門を興す場合の如きである。この場合にはその準據すべき過去の經驗が誠に乏しく、資本の貸主は借主の事業の進歩について容易に自家獨立の判断を下し得ない。總てかゝる場合には借入資本によつて作業する者は非常に不利益の地位に立ち、利潤率は主として自家資本を用ふる者の競争によつて決定される。或は場合によつて自家資本を用ふる多數者がこの業に入る便を有せぬことがないではない。この場合にはこの競争は左迄激しくならず、利潤率も高いかも知れぬ。即ちその利潤率は純資本利子と企業の困難、尤もこの困難は平均以上で大であらうが、一に相應する經營收入とを合せたものよりも著しく高くなるかも知れない。

更に生産業の種類によつては變動が緩慢であつて播種と收穫との間に長い時を要するものがある。かゝる生産業に於ては自家資本に乏しい新企業家は不利益の地位に立つ。

併し大膽不屈の企業心をもつて迅速な收穫を收め得る一切産業、特に高價品の再生産費を安くして暫くの間多額の利潤を收め得る場合は、新企業家がその

特色を最もよく發揮し得る領域である。この企業家こそは、迅速な決断と老巧な對策とを有し且つ之に生來の猪突的性質も若干加はり、他の競争者をして顔色なからしむる底の人である。

またこの種の企業家は非常な不利の下に立つてもなほ往々頑強に自己の事業を固守することがある。蓋しその地位の自由と尊嚴とは非常に彼を引付けらるからである。即ちあるかなしかの土地迄多額の抵當に入れてゐる自作小農及び所謂『苦汗制雇主』 *sweater* 或は『屋根部屋親方』 *garret mntser* といふ低廉な價格をもつて下職を營む小企業家は、往々通常労働者以上に精勵であつて通常労働者以下の純利潤に甘んじてゐる。また比較的少額の自家資本をもつて大企業を營む工業家は、自身の勞働・心勞を殆んど何とも思はぬであらう。蓋しかゝる企業家は何はともあれ自己の生活のために働かねばならぬを知り、而かも他人に使役されるのを肯んじないからである。従つて多大の産を成して引退し資本の利子をもつて安樂な餘生を送り得る富裕な競争者が、業務生活による身心の消耗をこれ以上凌んで果して利益ありや否やを疑ふ場合にも、これら

僅小の報償に甘んじて精勵するからであるか

の小企業家は少しも疑ふ所なく、富裕な競争者が一顧をも與へぬ小利に甘んじて猛烈に働くであらう。

一八七三年に最高潮に達した物價騰貴は一般債務者特に企業者を利しその以外の社會員を犠牲とした。従つて新企業家は樂々と企業界に入り、當時既に企業によつて産を成し或は之を相續してゐた者は樂々と活動的作業から引退し得た。即ち略ぼその當時に執筆しつゝあつたパヂオットは、新企業家の増加は英吉利企業界を益々民主的ならしめると論じた(7)。また一面に『變化性は動物界に於ても社會に於ても共に等しく進歩の原理である』と認めてゐながら、商人王の家系が連綿として盡きなかつたらば英國の利益は如何程増進してゐたか知れないことを指摘して之を痛歎した。併し近年に至つて稍や反動が起つた。一には社會的諸原因に基き一には連年の物價下落に基く。企業家の子は一時代前に比すれば父の職業を繼ぐを誇りとする傾向強く、彼等の奢侈品需要は増大する一方であつて、企業界を引退してはその所得をもつてこの需要を満すこと愈々困難となつたのを悟るに至つた。

六 株式會社。

株式會社

併し被傭者の奉仕従つて収入と企業家の經營收入との比較はある點に於て株式會社に關聯して例解するを最もよしとする。蓋し株式會社の場合には大部分の經營任務は俸給使用人たる取締役—自らも少數の株を所有する—と俸給使用人たる支配人その他の下級事務員—大多數は如何なる種類の資本をも殆んど又は全然所有せぬ—之を分擔し、これらの人々の収入は殆んど純然たる勞働收入であつて、結局に於て通常職業に於ける同等困難同等不愉快の勞働の収入を支配する一般原因に支配されるからである。

既に述べた通り(8)、株式會社には種々の障害がある。内部の摩擦、株主と社債所有者、普通株主と優先株主、これらの人々と取締役との間の利害衝突、及び精細な引合せ、再引合せの制の必要等がこれである。株式會社は個人企業に於ける如き企業心、精力、目的統一、行動敏速を有すること稀である。併しこれらの不

利益は生産業の種類によつては比較的に重要でない。かの公表主義は工業及び投機的商業の多くの部門に於ては株式會社の主要短所の一であるが、普通銀行及び保險その他の類似企業に於ては積極的長所である。他面株式會社はその無限の資本支配力をもつて、右の銀行業、保險業及び交通産業—鐵道、電氣、鐵道、運河及び瓦斯、水道、電氣供給—の大部分を殆んどその獨特の領域とする。

(8) 第四編第十二章九・一〇を見よ。

強大な諸株式會社が共同一致して事業を營み而かも直接・間接に株式取引所の投機的冒險に捲き込まれず或は競争者撲滅戰乃至強制合併戰に没頭しない場合がある。かゝる場合には株式會社は一般に遠い將來を先見し遠大な—必ずしも敏速ではないが—政策を追求する。株式會社は一時の利得のために名聲を犠牲にするを多く欲せず、被傭者に對し極度に苛酷な契約條件を強ひ被傭者の奉仕を低下して不評を招くやうなことはせぬものである。

七 近代的企業方法は經營收入を作業の難易に適合せ

しめる一般傾向がある。

近代的企業經營體
法は總體
於ては
收入を經營
の難易に
の收入を
合せしめる
傾向が強い

即ち然らば幾多の近代的企業方法にはそれぞれ利害得失がある。この方法は一定限度に達する迄凡ゆる方向に向つて應用される。その限度とは即ちその用途についての特殊長所がもはやその短所に及ばなくなる限界である。或は同じ意味を別の言葉で言へば、一特定目的のためにする各種企業組織方法の有利性限界は一線上の一点と見るべきでなく、企業組織の一切可能線を順次不規則な形で横断する一境界線と見るべきである。これらの近代的方法は、一にはその種類の多様なるため、一にはまたその多くが無資本の企業能力者に活動の地を與ふるため、企業・經營收入と之を收める者の奉仕とを著しく密接に一致せしめる。その一致する程度は資本所有者以外の人が殆んど資本を生産に用ひなかつた原始制度に於て一般に兩者一致する程度よりも著しい。蓋し原始制度に於ては、世人の必要する奉仕を致し或は生産業を營むための資本と機會とを有する者が、同時にその任務に要する性向・能力を有するといふことは一の

偶然に過ぎなかつたからである。併し現在の状態としては、一貨物の正常生産費中通例利潤に屬すると看做されてゐる部分は、凡ゆる方面に於て代用原理の作用に制せられてゐる。ためにこの部分は所要資本の正常供給價格、企業經營に要する能力・精力の正常供給價格、最後に適切な企業能力と必要資本とを結合する組織の供給價格との三を合せたものと長きに亘つて異なり得ないのである。

企業能力の供給は大且つ彈力的である。その供給範圍が廣大だからである。人は各々自己の生活上の業務を持つ。もし人が企業經營に天賦の資質を有するならば、この業務の裡に於て既に企業經營の訓練を幾分か受け得る。従つて苟くも有益な非凡能力は高い報酬を受けるのであるが、この企業能力程、習得のために特に用ひられた勞働・失費による所少なく『天賦素質』による所大なるはない。且つまた企業力は著しく非専門的である。何となれば大多數の生産業に於ては、技術的知識・熟練の如きは判断・敏速・機略・綿密・堅忍不拔等の一般的非専門的才幹に比して日々重要な度を減じつゝあるからである(9)。

企業能力の
供給範圍が
廣大であつ
て専門化し
てゐない

(9) 第四編第十二章一二。生産形態が少数單純でなくなれば「人は資本家なるが故に雇主となるといふことはもはや眞ではない。人が資本を支配するは労働を有利に雇傭する資格を有するからこそである。かゝる産業將校 *captains of industry* は即ち……資本・労働がその任務を盡す機会を求めて集まる所である」(Walker, *Wages Question*, ch. XIV.)

元より小企業にあつては企業主は労働者中の首位者と殆んど違はないから、専門的熟練の極めて重要なるは眞である。また『各種の生産業には各々固有の傳統がある』ことも眞である。この傳統は『決して書き誌されたことがない。否恐らく書き誌し得なかつたものである。たゞ斷片的に學び得るものであつて、未だ精神定まらず思想の成らない幼い時代に學ぶに如かぬ。併し近代商業上の各生産業は補助生産業・近似生産業をその周圍に集め、これらは人の想像を中心産業に親しましめその内狀を知らしめるものである』(10)。のみならず近代企業家の特色たる一般才幹は企業の規模の増大するに従つて愈々重要となる。この一般才幹こそは即ち企業家をして人の指揮者たらしめる所以である。また企業家はその處理すべき實際問題の核心に直入し宛ら本能的に事

物の相對的輕重を識別し賢明遠大の政策を案出し斷々乎として沈著に之を實現するも亦たこの一般才幹あるからこそである(11)。

(10) Bagehot, *Postulates*, p. 75.

(11) バチオット(上記引用書九四―五頁)は言ふ。近代の大商業は『その一切種類に通有な一般原理を持つ。もし人がこれらの原理を體得し之に適する資質を有するならば、その一以上の種類の業に於て非常に役立つ人物となり得る。併し商業上に於けるこの共通分子の發生はやがて商業の規模の大なるを示す一示徴たるは政治上に於けると同様であつて、原始商業は總て小規模であつた。原始の種族には専門の人の業を營む者は之を外部の者に分らぬやうに努め、事實少しも分らなかつた。各職業に要する知識を有する者は少数者であつて、この少数者はこの知識を秘め、かゝる獨占的な面かも往々相續的な才藝の外には何等役立つべきものなく、「一般的企業知識は全然なかつた。一般營利術といふ觀念は極く近代的のものであつて、昔の營利に關する事は殆んど總て個々の特定のであつた』。

企業能力の場合には一生産業に於て支拂はれる企業能力價格を精密に確知するの困難があるため、企業能力の供給需要の適合は多少之に妨げられることあるは元より認めなければならぬ。煉瓦積工或は鍊鐵工の賃銀を見出すは比

各種生産業の眞正經營者を知るに困難を有する

較的容易である。能率程度を異にする人々の得る賃銀の平均を取り之に雇傭の中斷性を斟酌すればいい。併しある人が收めつゝある總經營收入を見出すには、彼の企業の眞正利潤を綿密に計算しその中から資本利子を控除する外ない。然るにその企業の精確な實狀は企業主自身さへ往々之を知らない。同業の他の企業主さへも多くは之を精確に推知し得ない。寒村に於ては今日に至つてさへ、人は各々隣人の實狀を知悉するとは言へない。クリフ・レスリーの言つたやうに『村の宿屋・居酒屋或は小賣店は僅かな産を成しつゝあるものであるが、これらは自己の利潤を隣人に教へても競争を招かない。營業の思はしくない者がその營業狀態を曝露しても債権者は少しの戒める色もなす』(21)。

(21) *Fortnightly Review*, June 1879. 氏の *Essays* 中に再刷。

併し個人營業者の經驗の教ふる所を觀破するは困難であるには違ないが、その生産業全體の教ふる所は之を完全に陰蔽し得ず、到底之を長く陰蔽し得ない。勿論渚に寄せる僅か五六の浪を見たとして決して潮汐の干満如何を知り得ないのであるが、なほ極く僅か忍耐すればこの問題は解決される。同様に一生産業

この困難は左迄大でない

大體に於ては、これらに於ては、作業の收入と、輕重の可成り適合である。

の平均利潤率の高低は遠からずして必ず一般の注目を引くことは企業家の一般に認める所である。そして企業家が轉業によつて自己の將來を改善し得るや否やを察知するは熟練労働者の場合よりも時には困難なることもあるが、なほ企業家は他の生産業の現在將來に關して察知し得る限りの事項を悉く發見する機會多く、轉業を希望する場合には一般に熟練労働者よりも容易に轉業し得るであらう。

然らば大體に於て次のやうに結論していい。天賦能力の非凡性と作業訓練の高價性とは正常經營收入を左右するものであつて、恰かも熟練労働の正常賃銀を左右すると殆んど同様である。何れの場合にも、收める所得が増加すれば該所得を收め得る者の供給を増加する傾ある諸力を發現せしめる。何れの場合にも、一定の所得増加によつて供給の増加する程度は、之を供給する者の社會的・經濟的條件に依存する。蓋し同等能力の二人の企業家にあつても、一人は巨額の資本と優良な營業關係とをもつて出立し他はこれらの利益を持たずして出立するとすれば、前者の經營收入は恐らく後者よりも大となるが、同等能力の

自由職業者が社會的利益を等しくせずして出立する場合にも同様に所得の不
均等—小ではあるが—が生ずるからである。また勞働者の賃銀すらもその父
が彼の教育に投じ得た失費の如何によると殆んど同程度に生活發足の状態に
もよる所あるからである(13)。

(13) 第六編第四章三を見よ。企業の主要責任の負擔者の一般機能については Brentano,
Der Unternehmer, 1907 を見よ。

第八章 資本及び企業力の利潤 續論

一 次に利潤率均等の一般傾向ありや否やを究めねば
ならぬ。大企業に於ては經營收入の一部は俸給の
中に入り、小企業に於ては多額の勞働賃銀が利潤の
中に入つてゐる。その結果小企業の利潤は實質以
上に高く見える。

所謂利潤率
均等の一般
傾向につい
て

經營收入支配原因は最近五十年に至る迄は未だ綿密に研究されなかつた。
それ以前の經濟學者はこの方面に於て餘り業績を遺してゐない。何となれば
彼等は利潤の構成分子を十分に明別せずして只管ら平均利潤率 average rate of
profits を支配する單純な一般法則—場合の性質から見て存在し得ない法則—
を求めたからである。

大企業に於

利潤支配原因の分析に當つて吾々の當面する第一の困難はある程度迄言葉

りも低いやうに見えても、正しく評定すれば前者が反つて後者よりも大となる傾がある。蓋し同一生産業に於て競争する大小二個の企業を比較すれば、大資本企業は殆んど常に一層安價に仕入れることが出来、熟練の専門化機械の特化その他の方法によつて小企業の到底企及し得ない多くの経済を利用し得るに反して、小資本企業の有し得べき唯一獨特の長所は顧客に一層接近してその個人的欲望を懇切に取扱ふ便宜が一層大なる點にあるからである。ある種の生産業に於ては右最後の長所は重要でない。殊に一部の製造工業にあつては大企業は小企業よりも有利な價格をもつて販賣し得る。この種の産業では前者の支出はそれに比例して減少し受取高はそれだけ多くなる。従つてもし兩者の場合に何れも同一分子を算入して利潤の計算を行ふならば、前の場合の利潤率は後の場合の利潤率よりも高からざるを得ない。

併しこれらの生産業こそは即ち獨占或は鋭い競争の行はれる生産業である。これらの生産業に於ては大企業は先づ小企業を破砕し後相互合同して有限獨占の利得を收めるか、然らずんば相互に鋭い競争を行つて利潤率を非常に低く

大資本に多
資の技術的
益を與へ
る生産業
は小企業
の利潤は
低く其の

することが極めて多い。繊維工業、金屬工業、運輸業の多くの部門に於ては、大資本を持たなければ全然企業を興し得ない。之に對して中資本をもつて始める企業は、他日大資本の用途を求めることが可能であらうし、之によつて資本の割合には低くとも總體として高い經營收入を收める時が来るであらうとの希望をもつて、多大の困難と戦ふのである。

ある種の生産業では、非常に高級の能力を要しながら、大企業の經營が容易であつて中企業の經營と略ぼ同じである。例へば展鐵工場では細目作業は殆んど全部之を劃一作業 routine たらしめ得べく、一人の有能企業家は之に投下した百萬磅の資本を容易に管理し得る。製鐵工業中細目に關する不斷の考慮工夫を要する部門では二割の利潤率は必ずしも非常に高い平均利潤率ではないが、この利潤率はかゝる工場の所有者に年十五萬磅の經營收入を與へるであらう。また之よりも一層著しい場合は、近時重鐵工業の諸接續部門に起つた大營業の合併である。その利潤は經濟界の狀況に應じて著しく變動するけれども、總體額の巨額なるに拘らず平均して低率であると言はれてゐる。

ある種の生産業に於ては最高級能力を要すること甚だ少なく、優良な營業關係と大資本とを有する株式会社或は個人企業は、常識の健全な適度の敢爲力ある勤勉家に經營される限り、新來者に對抗して自己の立場を守り得る。この種の生産業の殆んど總てに於ては利潤率は低い。また右様の人々は基礎の堅い株式会社にも或は個人營業―そは使用人中の最有能者を何時でも社員に引上げやうとする―にも少なしとしないのである。

然らば大體に於て次の如く結論していい。第一に大企業の真正利潤率 *true rate of profits* は一見して思ふ以上に高い。何となれば大小企業の利潤率を比較する際には先づ通例小企業の利潤中に算入されてゐるものゝ一部を他の項目の下に入れなければならぬからである。第二にこの修正を加へてもなほ通例の計算法による利潤率は一般に企業の規模の増大するに従つて低くなる。

- 二 固定資本に比して流通資本の大なる場合には使用資本の正常年利潤率は高い。大規模生産の經濟も

一産業全體に一般に普及せる場合には該産業の利潤率を高めない。

年利潤は一般に經營困難な産業に於ては、大なる生産危険を伴ふ。

資本の割合に經營作業の困難な場合には、正常經營收入は資本の割合に大であり従つて資本の年利潤率も高いのは勿論である。その經營作業の困難なるは、或はその作業が新方法の組織工夫に多大の心的緊張を要するためであり、或はその作業が多大の不安危険を伴ふためであり、且つこれら二種の理由は屢々同時に起つて來る。元より個々の生産業はそれぞれ特質を持つてゐるから、この題目に關する一切原則には重大な例外がある。併し以下の諸一般命題は他の事情等しい限り妥當であり、また各種生産業正常利潤率の不均等を説明するに足りるであらう。

第一に一企業に必要な經營作業の程度は固定資本の高に依存せずして寧ろ流通資本の高に依存する。ある種の生産業では耐久的營業施設の割合が非常に大であり而かもこの施設は一旦建設した以上はもはや殆んど煩勞注意を要

資本が相対的に高く、貸銀が相対的に低く、大なる對場的な場合にも然る。

せぬ。従つてこの種の生産業では利潤率は低下する傾がある。既に明かにした通り、これらの生産業は動もすると株式會社の掌中に歸し易いものであつて、鐵道會社・水道會社の場合には取締役・高級事務員の俸給總額の割合は使用資本に比して甚だ少ない。運河・船渠・橋梁を所有する會社の場合には更に一層著しい。

なほ一企業の固定資本・流通資本の割合を與へられたものとするれば、原料費及び在庫品の價值に比して賃銀支拂高が重きを爲せば爲す程、一般に經營作業は愈々困難であつて利潤率は愈々高い。

高價原料を取扱ふ生産業では、成功は一に繋つて好運と賣買能力とにある。そして明敏な精神の持主は價格を左右すべき諸原因を正しく解釋し、そのそれぞれの輕重を適切に判斷するものであるが、かゝる人は稀であつて高い收入を收め得る。この點についての斟酌は生産業の種類によつては極めて重要である。ために一部の米國學者は利潤をもつて單に危険のみの報酬であるとし、總利潤中から利子・經營收入を差引いた殘高であると看做すに至つた。併し利潤

利潤及び
費用として
の分子費
と危険

といふ言葉をかくの如く用ふるは大體に於て利する所がないと思ふ。何となればかゝる用法によれば經營作業は單なる劃一作業的監督と類を同じくするに至る嫌があるからである。勿論人が危険な企業に著手するに當つては彼の著手し得る種々の生産業について公平な保險數學的推算を試み、その蓋然利得から蓋然損失を差引いて右危険企業が他の生産業よりも利益なるを期待しなれば、他の事情等しい限り、原則として之に著手しないのは眞である。もし右様の危険に少しも積極的害悪がないとすれば、誰も保險會社に保險料を支拂ふ者はない筈である。この保險料は人の知る通り、危険の眞正保險數學的數値以上に上るものであつて、その超過高は保險會社の莫大な廣告・經營失費を十分に支拂つてなほ利潤といふ餘剰を生ずるやうに計算されてゐるものである。危険を保險に附しない場合には結局に於て保險會社—企業危険保險の實際的困難に打克ち得るものとして—の要求すべき保險料と略ぼ同じ金額をもつて埋合せをしなければならぬ。併しそれだけではない。聰明・敢爲力をもつて困難な企業を經營するに最適任者たるべき人々は、大損害に堪へるだけの自家資

る原料・石炭その他の價值を控除すれば以上の不均等は多く消失する。綿密な統計家が一國の工産高を推算するに當つては通常この方法を用ひて(例へば)織絲と織布とを二重に計算するを避けてゐる。同様の理由によつて吾々は一國の農産物として家畜と飼料作物とを二重に計算するを避くべきである。さりながらこの方法は未だ必ずしも十分でない。蓋し論理上織絲を控除すると共に製布工場の買入れる織機をも控除すべきだからである。更にもし工場自體が建築工業の一生産物として計算されてゐるならば、その價值を製布工場の(數年間に亘る)生産物から控除すべきである。農場建築物についても同様である。農場用家屋は必ず計算に加ふべきでない。ある目的のためには商業用の家屋も亦た然りである。さりながら原料だけを控除する方法もその不精確なことを認めておく以上は用ひてもいい。

非凡の能力精力を有する工業家は競争者よりも勝れた方法を應用し、また恐らく一層優良な機械を用ひ、その企業の工業方面と販賣方面とを一層巧に組織し、この兩方面の關係を一層良くするであらう。彼はこれらの手段によつてその企業を擴大し、従つて勞働營業施設の兩者の特化によつて競争者以上に大なる利益を收め得るであらう(4)。かくて彼は收穫を遞増し利潤をも遞増するであらう。蓋しもし彼が多數生産者中の一人に過ぎないならば、彼の生産増加高

一産業の正
常利潤率の
生産増加率
の増進が下
つて低減に
よつてある
ことである

は左迄彼の財の價格を低落せしめず、彼の經濟の福利は殆んど全部彼自身に歸するからである。もし偶々彼がその従事する産業部門の部分的獨占を有するならば、彼はその生産増加高を調節して獨占利潤を増加するであらう(5)。

(4) 上記第四編第十一章二―四を見よ。

(5) 原著四八三頁(分冊三、三一―九頁)を見よ。

併しかゝる改良が一二の生産者のみに限られてゐない場合がある。或はその改良が需要の一般増加と之に應ずる生産高の一般増加によつて生じ、或は該産業全體に用ひらるべき生産方法又は機械の改良によつて生じ、或は補助産業の發展及び『外部』經濟一般の増大によつて生ずる場合がある。かゝる場合には生産物の價格は低い水準に近づくのであつて、この水準はその種産業に正常利潤率を與へるに過ぎぬ。またその間には該産業は恐らく種類を一變して正常利潤率が前よりも低くなつてゐる。その理由は該産業が以前に比して一律單調となり心的緊張も少なくなつたことにあり、また一言ひかへただけで意味は略ぼ同じであるが、該産業は寧ろ株式組織經營に適するに至つたことに

ある。即ち一産業に於ける生産物の量の割合が資本・労働の量に比して一般的に増加すれば、利潤率は恐らく之に伴つて低下する。之はある見地から見れば、価値で測定する收穫遞減と見ていい(6)。

(6) 原著三一九・三二〇頁(第四編第十三章二末尾)参照。

三 各生産業部門にはそれぞれ慣例的或は公正資本運轉利潤率がある。

以上年利潤を論じたから以下資本運轉利潤の支配原因を検したい。正常年利潤率には生産業によつて大差ないに反して、資本運轉利潤には生産業によつて甚だしい不均等があるのは明白である。何となれば資本運轉利潤は資本運轉に要する時の長短と作業量の大小とに左右されるからである。即ち卸賣商は一取引毎に多量の生産物を賣却し非常に迅速に資本を運轉し得るから、その平均資本運轉利潤が一步以下であつても巨額の産を成すことがあり、例外的場合即ち株式取引所の大取引の場合には平均資本運轉利潤率が僅々一步の數分

資本運轉利潤は平均年利潤率より著し
資本運轉利潤は平均年利潤率より著し
資本運轉利潤は平均年利潤率より著し

の一到過ぎなくさへも巨額の産を成すことがある。之に反して造船業者は船舶に労働材料を投じ碇泊所を設けてから船舶を賣却する迄に長日月を要し、また一々細目に注意せねばならぬから、自己の労働と資本固定とを償ふにはこの直接・間接の支出に非常に高い歩合を課せざるを得ない(7)。

(7) さりながら造船業者の資本の中には船舶建造の初期の部分に投下した部分がある。彼はこの部分に對しては高率の年利潤率を課する要はないであらう。蓋しかゝる資本は一旦投下してさへおけばもはや特に彼の能力・勤勉を要するものでなく、彼の支出を高率の複利で『積算』accumulateすれば十分だからである。併しこの場合には彼自身の労働の價值を初期支出の一部として計上せねばならぬ。之に反して生産業の種類によつては投下資本の一切部分について略ぼ均一の繼續的・頻勞といふ經費を要するものがある。かゝる生産業がある場合には『複利利潤率 compound rate of profit』(即ち複利と同じく幾何的に増加する利潤率)を加算して初期投下部分の『積算』value accumulated valueを算出するも當然である。この方法は單純であるため、理論上必ずしも正確でない場合にすら往々實際上に用ひられてゐる。

更に纖維工業では、原料を購入して完製品を製作する營業と、紡績のみ或は製布のみ或は仕上げのみを行ふ營業とがある。右第一種に屬する營業の資本運

轉利潤率はその他の三種の各々に屬する營業の資本運轉利潤率の合計に等しくなければならぬは明白である(8)。更に小賣商が流行の變化に關せず一般需
 要ある物から收める資本運轉利潤は往々僅か五歩或は一割に過ぎない。之は
 賣上げの多い上に必要貯藏品が少なく、之に投下した資本の運轉が非常に迅速
 であつて、その運轉の煩勞少なく危険もないからである。之に反してある種の
 嗜好品の場合には賣行極めて遅く、多様の貯藏品を取揃へねばならず、陳列に廣
 い場所を取り、流行が變化すれば損をして賣る外ない。この種の嗜好品の小賣
 商は殆んど十割に近い資本運轉利潤率を得なければ收支償はぬ。魚類・果物類・
 花類・野菜類の場合には往々この高率よりも更に高いことさへある(9)。

(8) 嚴密に言へばこの三者の合計よりも少しく大である。第一種の場合にはその他
 の場合よりも長い期間に對する複利を含むからである。

(9) 勞働者住宅區域にある魚屋・八百屋は高い利潤率をもつて小さな商ひをしやうと
 特に努める。何となれば個々の購買高は非常に少額であつて、顧客は遠方の安い店
 に行かずして最寄りの高い店で買ふからである。従つて小賣商は例へば半片以下で
 買入れた物を一片で賣つても餘り裕かな生活を送つてゐないかも知れぬ。さりな

がら漁業家或は農家は右の物を恐らく一フアーピング(四分の一片)或はそれ以下で
 賣つたのであつて、この後の差額は多く運送・損失・保險のための直接費用によるもの
 ではないであらう。即ち世間の輿論が、これらの業に於ける仲介商人は團結によつ
 て變則的に高い利潤を收めるに特に便利な地位にあると言ふも一理あるやうであ
 る。

四

然らば資本運轉利潤均等の一般傾向の存しないことが分る。併し各生産業
 及び各生産業中の各部門にはそれぞれ「公正」率或は正常率 fair or normal rate
 と看做されてゐる―多少とも―明確な資本運轉利潤率の存することがあり、ま
 た事實の問題として存してゐる。勿論これらの率は各生産業の方法の變化す
 る結果常に變化して止まぬ。かゝる方法の變化が起り來るは、資本運轉利潤率
 を従來の慣例よりも低くし資本年利潤率を従來よりも高めて取引を大ならし
 めんと欲する個人から起り來るを一般とする。さりながらもしこの種の大變
 化がないとすれば、生産業の傳統は特定種類の作業に課すべき一定資本運轉利

併し各生産業
 部門に慣
 例的運轉
 資本率
 或は公正
 利潤率
 なる

潤率を定めてゐるのであつて、この傳統はその生産業に在る者にとつて實際上甚だ役立つものである。かゝる傳統は多大の經驗の成果である。その經驗の示す所によつてこの利潤率を課すれば、その特定目的のために生じた一切の費用(直接費・間接費)を適宜斟酌することゝなるのみならず、その種企業の正常年利潤率をも得ることゝなるのである。もし彼等がこの資本運轉利潤率よりも甚だ低い率を課して價格を安くすれば殆んど繁榮し得ない。もし彼等がこの利潤率よりも甚だ高い利潤率を課するならば、他の同業者は彼等よりも安價に賣り得るに至るから顧客を失ふ危険に陥る。これ即ち「公正」資本運轉利潤率 fair rate of profit on the turnover であつて、正直な人が豫め價格の約束なくして註文品を製作する場合に課するものと期待される率である。また之は賣買當事者間の爭議に際して法廷の認許する利潤率である(10)。

(10) かゝる場合に専門鑑定人の下す鑑定は多くの點に於て經濟學者を教ふる所が多い。特にその生産業の慣習について中世的の辭句を用ひる點である。之はこれらの慣習の發生原因を多少とも意識的に認知し、慣習を永く維持するにはこの原因の在る所を知つておかねばならぬを示してゐる。そしてその鑑定は最後には常に次

の點に歸著する。即ちもし甲種の仕事の「慣例的」(customary)資本運轉利潤率が乙種の仕事の場合よりも高ければ、その理由は甲が現に乙よりも長く資本を固定せしめるを要する(或は少し前迄要した)か、或は甲が高價な要具殊に迅速に減價し或は不斷に使用し得ず従つて比較的少數の仕事によつて收支を償はねばならぬ物)を乙よりも多く使用してゐるか、或は甲が乙よりも困難或は不愉快な作業を要するか、或は甲が企業者の注意を乙よりも多く要するか、或は甲が若干の特殊危険分子を含み之を保障せねばならぬかにある。かくの如く慣習には之を正當づける根拠があるが、これらの慣習は鑑定人自身の心の奥底に深く隠れて殆んど彼等自身にも分らぬものであつて、鑑定人も右の如き慣習の根拠を明かにし得ない。その明かにし得ないことによつて察すると、吾々は次のやうに信ずる根拠を得るのである。即ちもし吾々が中世の企業家を生き返らせて之を深く追究して問ひ糺せば、利潤率が特定場合の緊急事情に適合したのは、歴史家の教へるよりも著しく半意識的であつたことを知るであらう。歴史家の多くはその言ふ慣例的利潤率が果して一定資本運轉利潤率であるか、或は結局に於て一定資本年利潤率を與ふる如き資本運轉利潤率であるかを明かにしてゐない。勿論中世の企業方法は著しく均一であつたから、可成り均一の資本年利潤率がある一方に近代企業に避け難い資本運轉利潤率の大不均等を來すことはなかつたであらう。併し例へ右二種の利潤率中の一種が略ぼ均一であつたとしても、他の一種は均一でなかつたかも知れぬは依然明かである。中世經濟史に

關しては多くの述作があるが、この二種の區別を明に認知せず、またこの二種の各々に關聯する慣習の甚く窮極根據の區別を明かに認めなかつたから、これらの述作の多くは稍や價値を落したやうに思ふのである。

五 利潤は正常供給價格の一構成分子であるが、既に物的形態或は熟練の習得に投下されてゐる資本から生ずる所得はその生産物の需要に支配される。

利潤は正常供給價格の一構成分子である

以上總てこの研究では吾々は主として經濟力の終極的即ち長期即ち真正正常結果 *ultimate, or long-period or true normal results* を問題とした。吾々は資本支配力ある企業能力の供給が結局に於てその需要に適合せんとする状態を考察した。また欲望満足のために高價を支拂ひ得る者がこの企業能力の致す奉仕を高く評價し従つてこれら奉仕は結局に於て高い報償を得るから、企業能力はかゝる奉仕を致し得る一切企業及び一切企業の一切經營方法を不斷に求めて止まぬ所以を明かにした。その動機力は企業者の競争である。各企業者は凡

ゆる機會を試みる。そのためには將來の蓋然的事件を豫想し之が輕重を正しく判断し、ある企業の受取高が企業に要する支出高以上に何程の餘剰を残すべきかを考究する。その一切期望利得は該企業者を引付ける利潤の中に入る。彼はその資本精力を投下して、將來の生産のための要具を製作し「非物質的」資本 *immaterial capital* たる營業關係を築くのであるが、この資本・精力の一切投下は投下以前に豫めその有利なことが明かとならねばならぬ。企業者がこれらの投下から期待する利潤の全部は彼が結局に於てその冒險から期待する報償の中に入つてゐる。またもし彼が正常(正常とは即ちその種の作業に正常な)能力ある人であり、その冒險を試みるか否かに迷ふ限界 *margin of doubt* に立つてゐるならば、この利潤は今問題としつゝある奉仕の(限界)正常生産失費 (*marginal normal expenses of production*) の眞に代表的なものとしていふ。即ち正常利潤の全部は真正即ち長期供給價格 *true or long-period supply price* 中に加はるのである。

賃銀と利潤

人とその父とは資本勞働を投下して技術工として自由職業者として或は企

の諸分子と
正常分配す
るを原因とし
て互に似て
る

業家としての作業の準備を行ふ。之を投下せしめる動機は一企業の物的營業施設と組織とに資本・勞働を投下せしめる動機に似てゐる。何れの場合にも資本・勞働の投下は(人の行爲が苟しくも計慮的動機に支配されてゐる限り)一定の限界迄行はれる。その限界とは即ちこれ以上投下してもはや利得を生ぜず、利用は『非利用』 *disutility* を超過せず、即ち利用の餘剰を生ぜぬと思はれる點である。従つてこの一切投下の報償として期待される價格はこの投下の致す奉仕の正常生産失費の一部である。

さりながらこれらの一切原因が全幅の作用を現はし例外的成功と例外的失敗とが互に相殺するには長期間を要する。一方には大成功者がある。彼等は投機的企業に附帶する特定事情に際し或はその企業の一般發展の好機會に當つて、非凡の能力を發揮し或は稀有の好運に會した者である。然るに他方には失敗者がある。彼等は精神的・道德的の無能力者であつて自己の訓練と有利な生活發足點とを善用し得ない者である。彼等は自己の職業に格別の才を有せぬ者である。運拙くして投機に失敗した者である。或は彼等の企業は競争者

の侵入によつて押へられて了ひ、或は需要の潮流が彼等を捨て、他の方向に流れ去つたため坐礁して了つたのである。

その價值變
動を支配す
る原因より
も一層似て
ゐる

これら攪亂の原因は正常收入・正常價值に關する問題では右の如く度外視して、いゝが、特定個人の特定時に收める所得に關しては最も重要であつて最も力強い影響を與へる。そしてこれらの攪亂の原因が利潤及び經營收入に作用する状態は通常收入に作用する状態と非常に異なるから、一時的變動及び個々の附帶事情を論究する際には、利潤は通常收入と異なつた取扱をすることが科學的に必要である。元より市場變動に關する諸問題は更に研究を進めて貨幣信用・外國貿易の理論を論じた後でなければ適切に取扱ひ得ないのであるが、今としてみても右に述べた攪亂の原因が利潤と通常收入とに作用する状態に次の如き對照點があることだけは明かにし得るのである。

六

利潤とその以外の收入とを價格の變動、個人間の相違及び全收入中の努力收入たる部分と天賦能力收

入たる部分との割合についてそれぞれ比較する。

第一の相違
利潤は且つ格
と共以上につ
動格に上るに

併し被備者
賃銀は且つ格
に後れ且つ格
動格に上るに

先づ第一に企業者の資本(その企業組織を含む)と彼自身の労働と被備者の労働との生産物たる物の價格に少しでも變動があれば、企業者利潤は先づその最初の撃動を感ずるものである。その結果として企業者利潤の變動は一般に被備者賃銀の變動に先ち且つ之よりも激しい。蓋し他の事情等しい限り、彼の生産物の賣却價格が比較的僅かに騰貴しても彼の利潤は數倍増加せぬとも限らず、或は恐らく損失が利潤に一變せぬとも限らぬからである。かくの如く騰貴すれば彼はその機を逸せず價格騰貴の利を收めやうとし、彼の被備者が彼を棄て、去りはせぬか或は作業を拒みはせぬかを恐れるであらう。従つて企業者は高い賃銀を支拂ふ力も支拂はんと欲する度も前よりは増すであらうし、賃銀は高まる傾を持つであらう。併し經驗の示す所によれば、賃銀は滑尺賃銀制によると否とを問はず、價格に比例して高まること殆んどなく、従つて利潤に略ぼ比例して高まることもない。

この同一の事實には他の一面がある。即ち經濟界が不景氣の場合には最も不利益の地位にある被備者は收入皆無となつて自身及び家族を養ふことも出来ぬ。併し雇主の支出高は恐らく受取高を超過する。特に多額の借入資本を使用する場合にさうである。この場合には企業者の收める總經營收入すらも負量となる。即ち彼は資本を損失しつゝある。之は景氣の非常に悪い場合には企業者の多數―恐らく大多數―について起ることである。他の人よりも不運であり無能であり自己の特殊の業に不適當である者については殆んど絶え間なく起ることである。

七

第二の相違點に移る。企業成功者の數は全體の一小部分に過ぎない。この少數者の掌中には人數に於て之に數倍する他の多數者の資産が集中する。この多數者は自ら貯蓄し或は他人の貯蓄を相續して企業に失敗し、その貯蓄と自己の努力の果實とを共に悉く失つた人々である。従つて一生産業の平均利潤

第二の相違
個人に利潤
が異なること
とは通常收
入よりも著
しく資本全
損入が計た

推値めその平均
算は過大に
される

を見出すには該生産業の總體利潤を現にこの利潤を收めつゝある者の數で除してはならぬ。またこの數に失敗者の數を加へて之を除してもいけない。先づ成功者の總體利潤から失敗者一恐らく斯業を退いてゐる一の總體損失を差引いて、その殘高を成功者失敗者數の合計で除さねばならぬ。眞正總經營收入即ち利潤が利子に超過する高は、單に成功者のみを觀察して一生産業の有利性を推算する人が考へる程に大でなく、平均してその二分の一を出でぬ。一部の危険な生産業に於てはその十分の一をも出でない。之は有り得べきことである。なほ營業危険は大體に於て増加せずして減少しつゝありと考ふべき理由がある(11)。

(11) 一世紀前多くの英吉利人は多大の資産を携へて印度から歸來したため、世人は印度の平均利潤率は莫大であると信ずるに至つた。豈に計らんやハンター卿 W. Hunter, Annals of Rural Bengal, ch. VI の指摘する通り、失敗者數は甚だ多く、たゞ「大富籤の當り籤を抽き當てた者だけが歸來してその成功談を吹聴した」に過ぎない。そして一方にかういふ事が起つてゐたその當時こそは、丁度英蘭では、富豪の家族と駁者とは恐らく三代目に地位を轉倒すると俗に言はれてゐた時である。之は元より一には當

時の若い相續者に通有な豪奢に因り、一には彼等の資本の確實な投下法を求めものが困難であつたのに因る。英吉利富豪階級は、資本投下法の發達に因ると殆んど同程度になほ節制と教育との普及によつて安定を加へて來た。この投下法の發達によつて、富豪の富の相續者は一この富を作つた人の企業能力を相續しない迄も一その富から確實恒久の所得を收め得るに至つた。さりながら英蘭のある地方では今日に於てすら、工業家の大多數は労働者或は労働者の子である。米國では馬鹿げた豪奢は恐らく英蘭程に普通でないが、なほ世態の變轉性は英蘭よりも大であり企業を時勢に伴はしめる困難も一層大であるため、俗に家族は三代の中に「裸一貫から裸一貫」from shirt sleeves to shirt sleeves になると言ふに至つた。ウエルス Wells, Recent Economic Changes, p. 351 の言ふ所によれば、「自己の計算によつて企業を營む人の全數の九割が成功せぬといふことは、一個の見識を持つ人々の間では古くから大體意見の一致した所である」。またウォーカー H. Walker (Quarterly Journal of Economics, Vol. II, p. 448) は一八四〇年乃至一八八八年に於けるマサチューセツツ州ウスター Worcester の主要産業に従事せる工業家の出身・經歷に關する若干の詳細な統計を示してゐる。これら工業家中十分の九以上は年期上り journeymen 出身である。一八四〇・五〇・六〇年の工業人名録に載つてゐた者の子で一八八八年迄幾分の財産を有し或は幾分でも財産を遺して死んでゐた者はその一割に足りない。佛國についてルロア・ポリュ I 氏 Leroy Beaulieu, Répartition des Richesses, ch. XI の言ふ所によると、百の新興企業中の二

十は殆んど直ちに消滅し五十乃至六十は存続するといふだけで發達もせず衰微もせず、十乃至十五のみが成功する。

八

第三の相違
技術工及
自由職業者
の所得は
通常に
分るべき
部分に入
るべき
が、企業
で正業
でない
は、家
業であ
る。

次に利潤と通常収入との變動の第三の相違點に移りたい。既に明かにした通り、技術工或は自由職業者の作業に要する熟練の習得に未だ自由の資本・労働が投下されてゐない間は、之から生ずると期待される所得は利潤の性質を帯びる。尤もこの所要利潤の率は往々高い。之には二つの理由がある——支出を爲す者が自らこの支出に基く收穫の大部分を收めぬこと及び支出者は屢々餘裕のない境遇にあつて非常な克己を行はなければ到底遠い收穫のために投下する力がないことである。また既に明かにした通り、技術工或は自由職業者が一旦作業に要する熟練を得て終へば、その収入の一部は將來に向つては實質上準地代である。即ちその作業の準備のため、また生活發足點・營業關係及び一般に才能利用の機會を得るために投下した資本・労働の準地代である。その所得の

殘部だけが眞正努力收入 true earnings of effort である。併しこの殘部は一般に全體の大部分を占める。茲に對照點がある。蓋し企業家の利潤を同様に分析すればこの割合が違つてゐるからである。企業家の場合には大部分が準地代である。

大規模企業の企業者が企業に投下した物的・非物的資本から收める所得は多大且つ變動的であつて多額の負量と巨額の正量との間に激變するものである。故に企業者は往々自己の労働を殆んど考に入れない。有利な企業の場合に會へば彼は之から收める收穫を殆んど純粹の利得と見る。その營む企業を一部だけ操業しても全幅力を盡して操業しても彼の煩勞には殆んど相違がないから、彼は原則として自身の労働増加分を特に別個に分けてこれらの利得から差引かうといふ考を殆んど起さぬ。企業者はこれらの収益を別に特別の疲勞増加によつて得た収入とは思はないのである。假へさう思つても技術工が特に時間超過作業によつて得た収入増加高を見るのと同じくない。一般世人は否一部の經濟學者さへも——正常利潤と正常賃銀との決定原因の根柢に在る基本

的統一を完全に認知してゐないが、その主な原因は即ち右の事實にあるのであつて、また之をある程度迄恕すべき理由も茲にある。

第四の相違點は右の相違點と極く似てゐる。技術工或は自由職業者が非凡の天賦能力を持つ場合がある。之は人間の努力によつて作られたものでもなく、將來の利得のために行つた犠牲の結果でもない。この場合にはその人は之によつて餘剰所得 surplus income を收める。即ち通常の人が教育生活發足點のために同様の資本勞働投下を行つて同様の力作から期待し得る所得以上に上る餘剰所得である。即ち地代の性質を帶ぶる餘剰である。

併し前章の末尾に述べた點に歸つて論ずれば、企業者階級は高級天賦能力の所有者の中でも比較にならぬ大なる割合を占めてゐる。それはこの階級内で生れた有能者以外に、それ以下の産業層に生れた最優秀の天賦能力を多數に包有してゐるからである。即ち教育に投下された資本の利潤は一階級として見た自由職業者の所得中殊に重要な一分子である。之に對して非凡天賦能力地代 rent of rare natural abilities は—企業家を個人として考察する限り—企業家の

第四の相違點は功業家の天賦能力の非凡大に於ては、餘剰所得である。

所得の殊に重要な一分子である。(正常價值については、既に明かにした通り、この非凡能力の收入すら本來の地代 rent proper と見ずして準地代と見るべきである)。

併し右の原則には例外がある。凡庸の企業家が優良な企業を相續し辛うじて之を維持するだけの力量を有する場合にも年數千磅の所得を收めるかも知れぬ。この所得は殆んど非凡天賦資質地代を含有してをらぬ。他方に例外的成功を收めた辯護士、著述家、畫家、歌手、騎手の收める所得の大部分は非凡天賦能力地代と見ていい。少なくとも彼等を個人として見る限りは然りである。また右數多の職業は憧憬を持つ青年に華々しい成功の期望を與へその職業に於ける勞働の正常供給はこの期望に依存するものであるが、この點を考量外に於く限り然りである。

特定企業の所得は往々産業環境機會或は時運の變化によつて非常に左右される。併し同様の影響は幾多の勞働者階級の熟練から生ずる特殊所得をも左右する。コーンウォール Cornwall 出身の鑛山勞働者の熟練の收入力は—彼等

産業環境の變化の影響は、個人々々の収入よりも、大に有利である。

が故郷に止まつてゐた間は—アメリカ・濠洲に豊富な銅山が発見された結果低下した。之に反して新地方に既に移つてゐた鑛山労働者の熟練の収入力は新地方に豊富な鑛山の新発見ある毎に高まつた。更に演劇趣味が発達すれば一面に俳優の正常収入は高まり俳優の熟練の供給増加を招致し、他面既にその職業に在る者の熟練の収入力は高まる。この収入の大部分は個人の見地から見れば非凡天賦資質に基く生産者餘剰である(12)。

(12) 故人ウォーカー Walker は一面に賃銀を支配し他面に經營收入を支配する原因を説明して著しい業績を擧げた。併し氏は (Political Economy, § 311) 利潤は工産物の價格の一部を構成せぬと主張し、この説を短期のみに限つてゐない。既に明かにした通り、短期については一切熟練—その例外的なると否と、雇主の熟練なると労働者の熟練なるとを問はぬ—から生ずる所得は準地代と見ていゝのである。氏は實に「利潤」といふ言葉を無理な意味に用ふるものである。蓋し氏は利子を全然利潤から除外して、『無利潤雇主』No-Profit employer は「全體に於て或は結局に於て、彼が他人に雇はれるとすれば賃銀として受けると期待し得る高」を収めると推定してゐるからである (First Lessons, 1889, § 190)。即ち「無利潤雇主」は彼の資本の利子以外に、彼の能力の如何を問はず彼と能力を同じくする者の正常經營收入を収めるといふのである。即ち

ウォーカーの言ふ意味での利潤は英蘭で利潤の中に普通入れてゐるものゝ五分の四を除外する(この割合は米國では英蘭よりも稍や小、大陸では之よりも稍や大であらう)。故にこの説は、雇主の所得の中その例外的能力或は好運に基く部分は價格の中に入らぬといふことだけを意味するのことも思ふ。併し各職業—雇主の職業たると否とを問はぬ—の當り籤と空籤とは共にその職業を求める者の人数と彼等がその作業に注ぐ精力とを決定するに與つて力がある。従つて正常供給價格の中に入るのである。結局に於て最高利潤を収める最有能の雇主は原則として労働者に最高賃銀を支拂ひ消費者に最低價格をもつて賣るものである。之は重要な事實である。この事實を高唱したのは即ちウォーカーの功であつて、氏は主としてこの重要事實の上に論を立てゝあるやうである。併しこの事實と等しく眞であり、之よりも一層重要な事實がある。それは最高賃銀を受け労働者は原則として雇主の營業施設・原料を最も利用し(第六編第三章二を見よ)、之によつて雇主は自ら高い利潤を収め得ると共に消費者に安く賣り得るといふ事實である。

九 同一生産業内殊に同一企業内の各種労働階級間の利害關係。

同一生産業

次に同一生産業に従事する各種産業階級相互の利害關係を考察しやう。

この利害連帯は一般的事實—即ち一貨物の數生産要因に對する需要は結合需要 joint demand であるといふ一般的事實の一の特殊場合である。よつてこの一般的事實に關し第五編第四章に掲げた例解を引用したい。同所で明かにした通り(假りに)左官の労働の供給に起る變化は建築業に於けるその以外の一切部門の利害を同様の状態に左右するが、その左右する程度は一般世間を左右する程度よりも一層強い。事實として家屋・キアジョ—その外何でもいゝの生産に従事する一切の各種産業階級に屬する特化資本・専門熟練から生ずる所得は該生産業全體の一般景況に依る所が甚だ多い。その然る限りに於ては、この所得は之を短期についてはその生産業全體の合成所得或は結合所得 composite or joint income の取得分と見ていゝ。この總體所得が各階級自體の能率増進により或は何等かの外來原因によつて増加すれば、各階級の取得分も増加する傾がある。併し總體所得が靜止的な場合に何れか一階級が從來よりも多い取得分を得るならば、他の階級を犠牲とせざるを得ぬ。之は一生産業に従事する者の全體について眞である。同一營業内に共に労働して生命の大部分を送つた

者についても亦た特殊の意味に於て眞である。

一〇

企業の一部は利益を得るが、その一部は利益を得ない。この利益を得ない部分の損失は、その利益を得る部分の利益に等しい。

成功企業の収入は之を企業家自身の見地から見れば、第一に彼自身の能力の収入、第二にその營業施設その他の物的資本の収入、第三にその得意或は企業組織・營業關係の収入の總計である。併し實はこの合計よりも大である。蓋し彼の能率は一には彼がその特定企業に在るといふことに依存するものであつて、もし該企業を公正な價格で賣却して他の企業に従事するならば彼の所得は恐らく激減するからである。彼がこの企業を運營しつゝある場合の營業關係の全價值は時運、價值或は機會價值、Conjuncture or Opportunity value の著例である。それは多少好運に因る所もあらうが、主として能力と労働との産物である。その中可讓の部分で個人或は一大合併營業の購入し得る部分は之を買ふ者の生産費中に入らなければならぬ。ある意味に於て時運、費用或は機會費用、Conjuncture or Opportunity cost である。

さりながら雇主の見地はその企業の利得全部を包括してはゐない。彼の被
 傭者に属する他の部分が別にあるからである。實にある場合に、またある目的
 のためには、一企業の所得の殆んど全部は準地代と見ていい。即ちその時とし
 てはその商品市場の状況によつて定まる所得である。作業に用ふる種々の物
 と人とを準備する費用には殆んど無關係な所得である。言ひかへれば合成準
 地代、composite quasi-rentである(13)。その企業に従事する人々は契約により合せ
 て慣習及び公正の觀念によつて之を分割する。之はある原因によつて生じた
 結果である。その原因は、文明初期に於て土地から生ずる生産者餘剰を殆んど
 永久的に耕作團體の手に入らしめて單獨個人の手に入らしめなかつた原因に
 稍や類同してゐる。即ち一企業の主任事務員は人と物とについて深い知識を
 有し場合によつてはこの知識の使用をその競争者に高價に賣り得る。併し場
 合によつてはその知識は現に彼が従事する企業以外には全然無價値である。
 この場合に彼がその企業を罷めればその企業は恐らく彼の俸給の價値に數倍
 する損害を蒙り、他面彼も亦た他の企業に於ては恐らく舊俸給の半ばをも收め

得ないであらう(14)。

(13) 第五編第十章八参照。

(14) 一營業が特有の専門的特色を持つてゐる場合には、その通常労働者さへも多くは
 その營業を離れれば賃銀の大部分を失ひ、同時にその營業も大損害を蒙るであらう。
 主任事務員はその營業の擔當社員に引上げられることがあり、被傭者全體はその收
 入を利潤分配によつて受けることがある。併し之が行はれると否とを問はず、被傭
 者の収入は彼等と雇主との間の契約によつて定まること多く、競争と代用法則の直
 接作用とによつて定まることは少ない。この契約の條項は理論上に於ては隨意的
 なものである。さりながら實際上に於てはこの條項は恐らく「正しき」を爲さんとす
 る願望に支配されるであらう。即ちそれぞれの被傭者の能力・勤勉・特殊訓練の正常
 収入を表はす支拂額を協定しその營業が好運な場合には之に若干を加へ、不運な場
 合には之から若干を減ずるであらう。

茲に肝要なのは、かゝる被傭者の地位と一大生産業中の如何なる企業にも殆
 んど同等の價値ある奉仕を致す被傭者の地位とが如何に相違するかを明かに
 することである。既に明かにした通り、これら被傭者中の一人の或る週の所得
 は、一部はその週間の作業によつて生じた疲労の報酬であり一部はその専門熟

なかゝる被傭者の損失
 は、その標準の地に
 熱練の準備に依る
 代業は一般の生
 産業に依る存
 ずるに依る

練能力の準地代である。競争が完全に有効に行はれると假定すれば、この準地代を決定するものは、その週間に於けるその商品市場の状況に於て彼の現在の雇主—その外何れの雇主でもい—が彼の奉仕に對して支拂はんと欲する價格である。一定種類の一定作業の對價として支拂はねばならぬ價格はかくの如くその生産業の一般状況によつて定まるのであるから、この價格は直接支出の中に入つてゐる。即ちその時の該特定營業の準地代を確知するためには、その生産業の總收入中から直接支出を差引かねばならぬが、右の價格は即ちこの直接支出中に入つてゐるのである。併しこの準地代が増加しやうと減少しやうとそれは被備者の少しも與る所でない。さりながら事實に於ては競争はかく迄完全に有効に行はれてをらぬ。同一機械による同一作業の對價として市場全體を通じて同一價格が支拂はれてゐる場合に於てすら、一營業が繁榮してゐれば、その生産業全體としては市況緩慢の際にも各被備者の昇進の機會は増加し繼續的雇傭の機會も増し、その好況の際には雇主の熱望に任せて時間超過作業の機會が増加する。

利潤分配

即ち殆んど一切の企業とその被備者との間には事實上 *de facto* 既に一種の損益分配が行はれてゐる。それは確定契約に體現される場合もあるが、それよりも寧ろ同一企業内に協同作業する者の利害連帶を滿腔の誠意ある寛量によつて眞の友愛感の結果であると認める場合をもつてその最高至上の形式とする。併しかゝる場合は餘り普通でない。原則として雇主被備者間の關係は利潤分配制度 *system of profit-sharing* の採用によつて經濟的にも道德的にも一段向上する。殊にその採用が之よりも更に一層高級な—併し—一段困難な眞の組合的協同 *co-operation* に到達する一階梯と看做される場合にさうである。

ある生産業に於ける雇主が協同動作を取り被備者も亦た然かするときは、賃銀問題の解決は決定不可能となる。その時の受取高が支出高に超過する高を雇主と被備者とに分割するに當つて、その精密な取得分を決するはたゞ契約による外ない。廢滅に向ひつゝある産業は暫く論外であるが、賃銀引下げによつて多くの熟練労働者を他市場に驅逐し甚だしい場合には他種の生産業に驅逐して彼等の熟練の特殊収入を放棄せしめる如きは、決して雇主の永久の利益と

雇主の團結
と被備者の
團結

はならぬであらう。平均年の賃銀は青年をその生産業に誘引するに足るだけに高くなければならぬ。これ即ち賃銀の最低限度である。資本・企業力の供給についても之と同じく誘引するに足るだけのものが必要である。この必要が即ち賃銀の上方限度を定める。併しある時に於てこの兩限度の如何なる點をとるべきかは駆引以外に之を定める途はない。さりながらこの駆引は倫理的・節義的考慮によつて幾分緩和される。殊にその生産業に優秀な労働爭議調停裁判所 *court of conciliation* の存する場合に於て然りである。

右の問題は實際上は更に一層複雑である。蓋し各被傭者團は恐らくそれぞれ自己の組合を作つて自家の利益のために戦ふからである。その間にあつて雇主は緩衝機の任に當る。併しその一團の行ふ賃銀引上げ罷業は結果に於て雇主の利潤を減ずると殆んど同程度に他團の労働者の賃銀を減ずることがある。

雇主と被傭者との間、商人と工業家との間に行はれる職業團結・同盟對抗同盟の原因結果を研究することは今その所ではない。これらは繪畫的事件と小説

的變化とを逐次開展し來つて世人の注意を惹き、吾々の社會制度の種々の方面に來るべき變化を指し示すやうに見える。これらは確かに非常に重要であつて而かもその重要な度は愈々急速に加はりつゝある。併し動もすると誇張され易い。蓋しこれらの多くは實に進歩の表面に常に亂れて動く渦巻に過ぎないからである。尤も近代に於てはこれらの渦巻は舊時に比して規模も大であり顯著でもあるが、なほ運動の主要部分が正常分配交換に依存するは今も昔も同じである。この正常分配交換は黙々として流れ而かも力強くして深い基流であつて、『目にこそ映らぬ』ものではあるが、『目に映る』挿話的事件の進路を支配するものである。蓋し労働爭議の調停仲裁に於てすら何をもつて正常水準——裁判所の決定は之と甚だしく相違してはならぬ、相違すれば自らの權威を失墜する——とすべきかを見出すことが即ちその中心困難をなすからである。

は人の行為によつて之を改めることが出来、極端な場合には全然之を一變し得る。併し土地改良は、一般に適用し得るものとしても徐々に行はれ徐々に消費するものであるから、土地改良に基く所得に課する租税は短期間に於ては土地改良の供給従つて改良による生産物の供給を左迄左右しまし。その結果この租税は主として土地所有者の負擔に歸する。借地人は今暫く土地を抵當に入れた所有者と看做す。さりながら長期間に於てはこの租税は、土地改良の供給を減少し、生産物の正常供給價格を高め、消費者の負擔に歸することゝなる。

二

さて第四編に論じた農業上の收穫遞減傾向の研究に歸る。前と同じく土地所有者が土地を耕作すると假定するから、吾々の推理は一般的であつて土地耕作の特定形式に附帶する事項を全然離れたものである。

吾々は資本・労働の逐次充用分の收穫が最初の少數充用分を投ずる間こそ増加するが、土地が既に良く耕作されてゐる場合には漸次遞減し始める所以を明

收穫遞減傾向に關する第四編論の要點を適

かにした。耕作者は充用資本・労働を増加してある一點に達する迄之を續ける。その點とは即ち收穫が辛うじて支出を償ひ彼自身の作業に報ゆるに過ぎぬ點である。この點に於ける充用分は即ち耕作限界 *margin of cultivation* に立つ充用分であらう。この充用分が優等地に充用されると劣等地に充用されるとは問ふ所でない。この充用分の收める收穫に等しい量は即ちそれに先行する各充用分が收支償ふために要する量であり收支償ふに十分な量であらう。總生産物 *gross produce* がこの量を超過する高は即ち耕作者餘剰である。

彼は能ふ限り遠い將來を見るものであるが極めて遠い將來を見得る可能は稀である。彼は先づ一定時に於て永久的改良の結果たる土壤の豊度 *richness* を悉く既定視して問はぬ。これらの改良から生ずる所得(即ち準地代 *quasi-rent*)と土壤の原性質に基く所得とを合せたものが即ち彼の生産者餘剰(即ち生産者地代を構成する。すればその以後はたゞ新投下から生ずる所得のみが収入及び利潤として現はれて来る。彼はこれらの新投下を有利性限界 *margin of profitability* に達する迄行ふ。その生産者餘剰(即ち生産者地代は、改良地から生ずる

總所得が年々充用される資本労働新充用分をして收支償はしめるに要する高に超過する高である。

この餘剰は、第一に土地の豊度、第二にその賣却品と購入品との相對價値に依存する。土地の豊度或は地味は、既に明かにした通り、絶對的には測定するを得ないものである。蓋しそは栽培作物の性質により、耕作の方法と收約度とによつて同じくないからである。二箇所の土地が同一人により資本労働の同等經費をもつて耕作されてゐる場合に於てさへ、この二地の大麥收穫高は或は等しいとしても小麥收穫は恐らく同じくない。また耕作が粗放なるか或は原始的なる場合の小麥收穫高は或は等しいとしても、耕作が收約的なるか或は近代的方法による場合の小麥收穫高は恐らく同じくない。なほ各種農場用品の購入價格と各種生産物の賣却價格とは産業環境に依存し、この産業環境の變化は間斷なく各種作物の相對價値従つて位置を異にする土地の相對價値を變化して止まない。

耕作者は正
最後に吾々は耕作者がその盡すべき職分とその時所の事情とに相當する正

常能力を有する
業心を有する
定るものと假
らぬねばな

常能力を有するものと假定する。彼の能力がこれ以下ならば、彼の現實の總生産物は土地から正常に生ずべき筈の生産物以下となり、彼は土地の真正生産者餘剰以下を收めてゐるであらう。之に反して彼の能力が正常能力以上ならば、土地に基く生産者餘剰以上に非凡能力に基く若干生産者餘剰を得てゐるであらう。

三 生産物の實質價値の騰貴は一般に餘剰の生産物價値を高め、餘剰の實質價値をそれ以上に高める。生産物の労働價値と生産物の一般購買力との差別。

農業生産物の價値の騰貴は一切の土地から生ずる生産者餘剰—生産物をもつて測定する—を増加するものであるが、殊に收穫遞減傾向の作用の極く弱い土地から生ずる生産者餘剰を増加する。吾々は既にその増加状態を稍や詳細に究めた(2)。一般的に言へば農業生産物の價値の騰貴は優等地に比して相對的に劣等地の價値を高める。言ひかへれば人が生産物の價値の騰貴を豫想す

生産物の騰貴
實質價値の騰貴
餘剰の一般生産
物價値を高める

る場合には一定貨幣額を現在の價格に於て優等地に投下するよりも劣等地に投下した方がその未來所得は大であると期待していゝのである。この點も既に明かにした(3)。

(2) 第四編第三章三。生産物の價值が(十二圖・十三圖・十四圖)OH'からOHに騰貴して、騰貴前には資本・勞働一充用分の收支を償ふに生産物OH量を要したものが、騰貴後にはOH'量で足るとする。すれば十二圖の表は第一種の土地は收穫遞減傾向の迅速に作用する土地であるから、この場合には生産者餘利は少しく増加するであらう。第二種の土地(十三圖)に於てはこれ以上に増加し、第三種(十四圖)に於ては三種中最も多く増加するであらう。即ち吾々はこの點を明かにしたのである。

(3) 同章四。二箇所の土地(十六圖・十七圖)があつて、收穫遞減傾向の作用は兩者同様であるが、第一は優等地であり第二は劣等地なる場合を比較して次の點を明かにした。即ち生産物の價格がOH'對OHの比率で騰貴した結果として生産者餘利がAHCよりAH'C'に高まる程度は第二の場合に割合上遙かに大である。

次に生産者餘利の實質價值 real value 即ち生産者餘利を一般購買力をもつて測定する價值は、生産者餘利の生産物價值 Produce value に比して相對的に高まるであらう。その高まる割合は同様に——一般購買力をもつて——測定する生産

その實質價
値をそれ以
上に高める

生産物の勞
働價值の變
化と生産物
の一般購買
力の變化を
區別すると
必要とする

物の價值の騰貴の割合に同じである。即ち生産物の價值の騰貴は生産者餘利の價值の二重の騰貴を來すのである。

生産物の『實質價值』といふ言葉は實に曖昧である。歴史的には消費者の見地から見た實質價值の意味に用ひられた場合が最も多い。かゝる用法は何れかと言へば危険である。蓋し研究目的によつては生産者の見地から實質價值を考究する方がいゝ場合があるからである。併しこの點に注意しなへすれば、『勞働價值』Labour-value といふ言葉を用ひて生産物をもつて買ふ一定種類の勞働の量を言ひ表はし、『實質價值』といふ言葉を用ひて一定量の生産物をもつて買ふ生活必需品・快適品・奢侈品の量を意味するものとしていゝ。土地産物の勞働價值の騰貴は生活資料に對する人口の壓迫の増大を意味することがある。この原因に基いて土地から生ずる生産者餘利が増加すれば、この増加は國民の生活低化を伴ひこの増加はこの低化の一種の測度となる。併し之に反して土地生産物の實質價值の騰貴が農業以外の生産技術の改良によつて生ずることもある。この場合にはこの騰貴は蓋然的に賃銀の購買力の増加を伴ふ

四 改良が地代に及ぼす結果。

以上總ての場合に明かであるが、土地から生ずる生産者餘利は、フィジオクラ
ットが主張し一層變形された形式に於てアダム・スミスの主張した如く、自然の
恵の大なることを證するものではない。否反つて自然の恵の制限を證するも
のである。併し最良市場に對する位置の相對的不均等は生産者餘利の不均等
を來す力強い原因であつて絶對的生产性の不均等と力を同じくするを記憶せ
ねばならぬ(4)。

(4) 英蘭は國狭くして人口稠密であるから、販賣の迅速を要する牛乳・野菜の如きすら、
否場合によつては嵩高な乾草の如きすらも、左迄高くない失費をもつて全國に輸送
し得べく、他方耕作者は重要生産物・穀物・家畜に對して略ぼ同一の純價格を收め得る。
この理由があるため、英吉利經濟學者は地味を農業地價決定原因中の第一位に置
き、位置を第二次的のものとして取扱つた。従つて彼等は往々、土地の生産者餘利或
は收益價値 *rental value* をもつてその土地から生ずる生産物が耕作限界に立つ程の劣

改者餘利が生
良結果に及
ぼす結果に
關する説に
關する説に
關する説に
表す結果に
粗漏れは往
が思ふはあ
底ありて綿
密

等地に―同等熟練をもつて―充用された同等資本・労働の收穫たる生産物を超過す
る高であるとした。その二箇所の土地が近隣地でなければならぬことも、或は販賣
失費の差異を特に考量せねばならぬことも、之を明言する勞をとつてくれなかつた。
併し新國にあつては、最優等地と雖も市場に遠いために耕作されなかつたのもあるか
ら、新國の經濟學者が右のやうな言ひ表はし方を取らなかつたのは自然である。彼
等から見れば土地の位置は土地の價値を決定する上に於て少なくとも地味と同様に
重要である。彼等の見る所では耕作限界に立つ土地は市場から遠い土地、殊に良市
場に通ずる鐵道から遠い土地である。彼等にとつては生産者餘利は位置良好な土
地の生産物の價値が同等の労働・資本(及び熟練)をもつて位置最も劣等な土地から得
べき生産物の價値に超過する高である。必要あらば勿論地味の差異を考量するの
である。この意味に於ては合衆國はもはや新國と見るを得ない。蓋し最優等地は
悉く耕作されその殆んど總ては低廉な鐵道によつて良市場に通ずる便を有するか
らである。

右の眞理并にその主たる歸結―その多くは今日餘りに明白であるが―を初
めて明かにしたのはリカードであつた。彼は好んで、總ての場所に實際上無限
に供給されてゐる自然の賜を所有しても何等の餘利を收め得ないと論じた。
特に一切の土地の地味・交通便宜が等しく土地の供給が無限ならば土地は何等

の餘剰をも生ぜぬと論じた。彼はこの論究を一步進めて次の點を示した。即ち一切土壤に等しく應用し得る耕作技術の改良—之は土地の自然的地味の一般増加に等しい—は、一定人口に土地生産物を供給する土地から生ずる總體穀物餘剰 aggregate corn-surplus を略ぼ確實に減少するであらうし、その土地の總體實質餘剰 aggregate real surplus を必ず減少するであらうといふのである。彼はなほ次の點をも指摘した。即ち改良が既に最優等なる土地に主として關係を及ぼすならばこの改良は總體餘剰を高めるかも知れず、この改良が最劣等種の土地に主として關係を及ぼすならば總體餘剰を甚だしく減ずるであらうといふのである。

今日英蘭の土地耕作技術の改良は英蘭の土地から生ずる總體餘剰を増加すべきを認容するは右の命題に合致して毫も矛盾する所がない。何となればこの改良は生産物價格を左迄下落せしめずして生産物を増加するからである。この改良に伴つて英蘭へ土地生産物を輸入する諸國に同様の改良が起らぬ限り、或は—この場合同じ意味になるが—改良に伴つてこれら諸國との交通手段

が改善されぬ限り然りである。而してリカード自ら言ふ如く、同一市場に生産物を供給しつゝある一切の土地に均しく應用される改良は、「結局地主の莫大な利益となる。それは人口に多大の刺戟を與へ同時に吾々は勞働を少なくして一層劣等な土地を耕作し得るに至るからである」(5)。

(5) その第三章脚註。

土地の價值の中、人の勞働の結果たる部分と自然の本源的恩恵に基く部分とを區別せんとする企てには若干の興味がある。土地の價值の中には、公道その他一國の一般目的のための改良であつて一國農業のための特殊施設でない改良に原因する部分がある。リスト List、ケリー Carey、バステイア Bastiat、その他學者は之を考量に加へて、土地を原状態から現状に至らしめる失費は土地が今日有する價值の全體を超過すると主張し、従つて土地の價值は悉く人の勞働に基くと論ずる。彼等の擧げる事實については議論の餘地はあるかも知れぬが、それは兎に角としてその事實は彼等の結論に適切でない。彼等の論證に要するのはそれらの事實に非ずして次の一事にある。即ち土地の現在價值は土

土地の本源的性質と後得的性質

地を原状態より今日に於ける如く地味あり且つ一般農業用に供し得る状態に至らしめる失費—この失費が農業のための失費たる限り—に超過すべきでないとの一事である。土地に起つた變化の中には、土地を極く舊式な農業方法に適せしめるために行はれたものが多く、土地の價值を高めずして反つて低下したもののすらある。のみならずこの變化を行ふ失費は純失費でなければならぬ。即ち漸次的支出に對する利子を加算する外に、初めから終り迄その改良に基く生産物増加量の總體價值を差引いた純失費でなければならぬ。人口稠密な地域の土地の價值は一般にこれらの失費よりも遙かに大であつて往々數倍に達することがある。

五

地代の中心學理は殆んど一切の土地耕作制度に適用し得る。併し近代の英吉利制に於ては地主分と耕作者分との嚴密な分界も亦た科學上最も重要である。第十二附録を見よ。

以上の論究は土地耕作制度に適用し得るに於て

以上本章の論究は何等かの形式に於て土地の個人所有を認める一切の土地耕作制度に適用し得る。蓋し右の論究は生産者餘剰を問題としたものであつてこの餘剰は土地所有者が自ら土地を耕作する場合には所有者に歸し、彼自ら耕作せざる場合には耕作企業を營む共同營業と見るべき所有者とその耕作者とに歸するからである。即ち慣習或は法律或は契約により、一方に耕作費分擔法、他方に耕作果實分割法が彼等の間に如何様に定められるにしても右の論究は眞である。また右の論究の大部分は今日吾々の到達した經濟發展階段にも亦た無關係であつて、生産物の市場販賣が殆んど又は全然なくとも、また實物徵課が行はれる等のことがあつてすらもなほ妥當である(6)。

(6) ペティ Pety は地代法則に關する著名な叙述(Taxes and Contributions, IV, 13)を爲すに、一切の土地耕作形式及び一切の文明階段に適用し得るやうに言ひ表はしてゐる。「ある人が自ら手を下して一定面積の土地に穀物を栽培し得るものと假定する。即ちその土地の經營に要するだけ掘り返し犁き返し、畑を均らし草を取り、刈入れ取り入れ穂を抜き篩ひ分けるを得、なほその土地に蒔くべき種子を有するものと假定する。すればこの人はこの種子を收穫高から控除し、なほ彼自ら食用に供した高及び

衣服その他の自然的必需品と交換に他人に與へた高をも之から控除する。その殘餘の穀物は即ちその年のその土地の自然的眞正地代 *natural and true Rent* であつて、七年間の中數 *medium* 或は寧ろ四年と豐年とが循環周期を成すだけの年限の中數はその土地の通常穀物地代 *ordinary Rent in Corn* となる。

現時英蘭の一部地方では土地使用契約の上に慣習情味の力が最も弱く自由競争・企業心の力が最も強くなつてゐるが、この地方に於ては地主は徐々に行はれて徐々に消耗する改良を供給しある程度迄之を維持するものと通常諒解されてゐる。地主が之を行ふときは、地主はかく改良された土地が正常收穫・正常價格の年に與ふべき生産者餘剰を評定し、この餘剰全部から正常利潤をもつて農業家の資本を填補するに足る高を控除して、その残りの高を悉く農業家に要求する。農業家は不作の年には損失し豐年には利する地位に立たしめられる。かくの如く生産者餘剰を評定するに當つては農業家はその種類の農法譯者トに見よに正常な能力・企業心を有するものなるを暗に推定してゐる。従つて彼がこの標準以上に出れば自ら利益を收むべく、この標準以下に下るならば損失を蒙り恐らく結局その農場を放棄するであらう。言ひかへれば土地から生ずる所

英吉利地主に於ける耕作地分と耕作地分との區別は最も重要である

得の中、地主の取得する部分は——中位の長さの一切期間について——主として生産物市場の如何によつて支配され、この生産物の栽培に用ふる各種要因を供する費用には殆んど關係なく、従つて地代の性質を帯びる。その所得中、耕作者の留保する部分は——短期についてすら——生産物の正常價格に直接入り來る利潤と見るべきである。何となればこれら利潤の生ずる期待がなければその生産物は栽培されないからである。

従つて純英吉利風の土地耕作制の特色が全幅の發達を遂げれば遂げる程、耕作者分と地主分との分界と經濟理論上最深最重要の劈開線とが一致することにも眞に近づくのである(7)。恐らくこの事實こそは——一切の他の事實に勝つて——十九世紀初頭に於ける英吉利經濟理論が最も優勢の地位を占めた原因であつた。この事實に助けられたからこそ英吉利經濟學者は、諸國の學者を遙かに抜いて前人未踏の域を開拓したのである。ために現代の如く諸外國が擧つて經濟研究に多大の知的活動を傾倒しその熱心は英蘭に於けると少しも異ならぬに至つてさへ、殆んど一切の建設的新思想は昔の英吉利經濟書に潛める思想

の開展に過ぎない有様なのである。

(7) 學術語をもつて言へば、之は準地代と利潤との區別である。前者は中位の長さの期間について生産物の正常供給價格に直接入り來らざるものであり後者は直接入り來るものである。

この事實自體は恰かも偶然の事實であるかの觀があるが恐らくさうでなかつた。蓋しこの特定劈開線はその以外の如何なる分界線よりも、摩擦最も少なく時間の冗費最も少なく引合せ再引合せの煩勞最も少ないものだからである。所謂英吉利制なるものが持續し行くや否やには疑があるかも知れぬ。この制には多大の不利益があり、將來の文明階段に於ては必ずしも最善の制ではないかも知れぬ。併し之を他の諸制と比較して見れば、初めてこの制が英國に多大の強味を與へた所以を悟るであらう。自由企業的發展上に於て世界の進路を開拓し従つて已むに已まれずして衝迫的に自由と活力、弾力性と強力とを與ふべき一切變化を採用した國としては誠に故あることである。

第十章 土地耕作制

一 古の土地耕作形式は一般に共同出資を基礎としその條項は意識的契約によらず慣習によつて定まつてゐた。所謂地主は一般に匿名出資者である。

古の形式は地耕作
土地共同基礎
一般意識的契約
を以てし
資に依り
約し慣習
れずさ
た配され
み

古い時代には—また現代に於てすら一部の未開諸國に於ては—一切財産權は精確な法律と證書とに依らずして一般的合意に依つてゐる。これらの合意を明確な言葉に言ひ改め近代業務上の用語をもつて言ひ表はし得る限りに於ては、その合意は一般に次のやうな意味である—即ち土地所有 ownership of land は一個人に屬せずして、一員或は一團の匿名出資者 sleeping partner と一員或は一團(一家族全體たることもある)の業務擔當員 working partner とから成る共同出資體に屬する(1)。

(1) 匿名出資者は村落共產體 village community たることもある。併し最近の調査殊にシ

1 ボーム Seeborn 氏の調査の結果、共產體は往々土地の「自由」且つ終極の所有者でない
と信ぜられるに至つた。村落共產體が英吉利史上に如何なる力を持つてゐたかに
ついでに論争の大略を知らんとする讀者はアシュレー Ashley, Economic History 第一卷
第一章を参照されたい。土地分有 divided ownership の原始形態が如何に進歩を妨げ
たかは既に第一編第二章二に一言した。

その匿名出資者は或は國家の主權者である。或は一個人である場合もある。
即ち土地の一定部分の耕作者からこの主權者に納める年貢を徵收する義務で
あつたものが黙々として時の経過する間に段々變じて一多少とも明確な多少
とも絶對的な—所有權 right of ownership と化したものを一個人が相續する場
合これである。もし一般の場合のやうにこの個人が國家の主權者に對して依
然一定年貢を納める義務を有するならば、この共同出資體 partnership は三員よ
り成り、中二員は匿名出資者であると見ていゝ(2)。

(2) この場合中間者が介在して一團の耕作者から年貢を徵收し、之から一定取等分を
差引いて之を共同出資體主に渡すとすれば、共同出資體は更に擴大する。この中間
者は英蘭で通常用ひらる言葉の意味での取次人ではない。即ち確定的な年貢徵收
契約期間の終了と共に解任される下受人ではない。彼は共同出資體の一出資者で

所謂地主は
一般に匿名
出資者であ
る

あつて、土地に對しては主出資者と實質上全く同じ權利を有する。たゞその權利の
價値が劣つてゐることがあるかも知れぬといふだけである。なほ之よりも一層複
雜な場合の存することがある。即ち現實耕作者と國家から直接に土地を受けて保
有する者との間に幾多の中間保有者のあることがある。現實耕作者も亦た利害の
性質を非常に異にしてゐる。ある者は定額地代による耕作權 right to sit at fixed rents
を有して全然地代の増徴を免れる。ある者は所定の條件の下に於て、なければ増
徴し得ない地代による耕作權を有する。ある者は單に一年一年の耕作者たるに過
ぎない。

匿名出資者—或はその數人なるときはその中の一人—は一般に財産所有者
proprietor 或は土地保有者 landholder 或は地主 landlord と呼ばれ或は土地所有者
landowner とさへ呼ばれる。併し右様の言葉を用ふるは正しくない。蓋し彼は
法律により或は略ぼ法律に等しい強制力を持つ慣習の制限により制限されて
ゐるのであつて、任意に年貢の増徴を貪り、或はその他の手段によつて耕作者を
その耕作地外に驅逐し得ないからである。この場合には土地財産は獨り彼の
みに屬せずして共同出資體の全體に屬してゐる。彼は單にこの出資體の匿名
出資者たるに過ぎない。その業務擔當員の納める年貢は決して地代ではなく

地主の生産
物の分は
正地代で
ない

共同出資體の約法上支拂の義務ある一定額であるか或は——場合によつては——總收得高の一部である。これらの年貢を定める慣習或は法律が固定的であり不可變なる限り、地代理論は殆んど直接之に適用し得ないのである。

二

併し慣習は一見して思ふよりも遙かに伸縮的である。近時の英吉利史さへ之を示してゐる。リカード一流の分析を近代の英吉利土地問題に適用するには古の土地制度に適用する場合と同様注意を要する。古の制度に於ける共同出資體の條項は漠然として伸縮的であり多くの點に於て無意識に之を變更し得た。

年貢・公課は慣習により固定すると想像されてゐるが、事實の問題としては殆んど常に精確に定義し得ぬ分子を含んでゐる。また年貢・公課について口碑の傳へる所は、曖昧漠然たる印象に残るだけであり——最善の場合でも——科學的精

併し慣習は一見して思ふよりも遙かに伸縮的である

密を期せぬ言葉に言ひ表はされてゐるに過ぎぬ(3)。

(3) メイトランド Maitland 教授は Dictionary of Political Economy 所載の "Court Rolls" の項下に言つてゐる「吾々はこれらの文書を檢して見なければ中世土地耕作者の耕作權が如何に不安であつたかは決して分らぬであらう」と。

吾々は近代英蘭に於てすら、地主耕作者間の合意の漠然たるによつて生ずる影響を檢し得る。蓋しこれらの合意は常に慣習の力を借りて解釋されてゐたものであり、この慣習は時代と共に變化する緊急事情に應ずるため常に目に見えぬ程づゝ發達衰微して止まなかつたからである。吾々は吾々の祖先以上に迅速に慣習を變更し、吾々の變化を一層良く意識し、また慣習を成分法に變じて一樣ならしめんことを一層欲してゐる(4)。

(4) 即ち一八四八年ビュージー氏下院委員會 Pusey's Committee of the House of Commons in 1848 は次の如く報告してゐる。「國內各地の縣・郡にはそれぞれ古くから違つた慣行があつて、解約耕作者に與へる農耕上の勞務要求權も種々である。…これらの地方的慣行は耕作權契約或は合意中に入つて來た…たゞ合意の條項が明示或は默示にかゝる推定を否認する場合は別である。國內の一部地方には近代的慣行が發生して、解約耕作者に上記以上の…一定失費回收權を與へてゐる。…この慣行は多額の資本

近時の英吉利史を示してゐる

支出を伴ふ活氣ある新式農場制度から發達して來た觀がある。…これらの(新)慣行は漸次或る地方の郡に於て全般的に認められ、遂にその地に於ては國の慣習と認められるに至つた。これらの慣行の多くは今日法律によつて強行されてゐる。下記一〇を見よ。

今日に至つては法律は細密となり契約は綿密となつて來たが、地主が農場建築物その他の改良の維持・擴張のために時々投下する資本額如何については不確實な餘地が依然として大である。これらの點こそは即ち寛大廣量の地主がその人格の特色を現はす點である。恰かも對耕作者の直接貨幣關係に於けると同じである。また本章の一般論究のために殊に重要な一事がある。それは即ち耕作者側が要求する實質純地代 *real net rent* の變更は貨幣地代 *money rent* の變更によつて行はれることもあるが、また農場經營失費中の地主負擔分と耕作者負擔分との適合を穩かに改めて行はれる場合もあることである。即ち法人及び多くの大個人土地所有者は土地の實質貸借價值 *real letting value* が變化しても往々貨幣地代を變更せず年々耕作者の耕作を許すことがある。また耕作權契約によらない多くの農場に於ては一八七四年に最高頂に達した農業膨

今日に於ては土地の貨幣地代と土地の適合は暗黙のうちに暗黙のうちに無意識に認められる

張時代及び之に續いた沈滯時代を通じて地代は名目上變化しなかつた。併しその初期に於ては、地代の低廉に失するを知つてゐた農業家は、地主に強要して排水或は建築物新築に—或は修繕にすらも—資本を出さしめ得ず、遊獵その他をもつて地主の歡心を買はなければならなかつた。之に反して今日は、確定借地人を持つてゐる地主は合意中に約束してない幾多の事項を行つて借地人を手放すまいとする。即ち貨幣地代には依然變りはないが實質地代は變化したのである。

この事實は次の一般命題の重要な一例解である。即ち地代に關する經濟理論—時にリカードの地代理論と稱せられてゐる—はその内容及び形式の二つながらに多くの修正・制約を加へなければ近代の英吉利耕作制に當嵌まらぬこと及びこれらの修正・制約を一層擴大するに於ては、この理論は中世及び東洋の一切耕作形式—何等かの個人所有を認めてゐる限り—に適用し得ることこれである。その間の相違は單に程度の差に過ぎない。

即ちリカードの地代理論は近代の英吉利耕作制に適用するに必要とする

古の土地制
に於ては
適用地制
も用す

併しこの程度の差こそは甚だ大なる差である。その理由は一には原始時代及び未開諸國に於ては慣習の支配力が一層強いことにある。また一には科學的歴史がないため命短かい人間として慣習が果して靜かに變化しつゝありや否やを確めるのは困難であつて、恰かも今日生れて明日は死ぬ蠅が自分の留つてゐる植物の生長を知るのが困難なると選ぶ所がないことにある。併しその主な理由は、共同出資體の諸條件が殆んど精密に定義し測定し得ない言葉で言ひ表はされてゐることにある。

蓋し出資體中の上級員—或は簡單に地主と言つていゝ—の取得分は(生産物一定分取得權を有するときと有せぬときとあるが)一般に一定勞役、公課、通行税 tolls、獻品の要求權を含むからである。彼がこれらの各項目の下に收めた高は時により場所により地主によつて同じくなかつた。耕作者が一切種類の年貢を收めた上なほ自身及び家族の生活必需品及び慣習上定まつてゐる快適品奢

蓋し古の土地制に於ては、共同出資體の條項は、然るに、縮めて、多量の、於ては、無點に、に於ては、得たる、か、更

侈品以上に少しでも餘裕があれば、地主は多くその優勢な力を用ひ何等かの形式によつて年貢を引上げた。もしその主たる年貢が生産物の一定分であれば、彼はその一定分を増加するかも知れぬ。併し之は多く暴力の觀を呈するから彼は重要ならざる些細の徵課物の個數、重量を増加するであらう。或は土地耕作を一層收約ならしめ、多大の勞働を要し且つ多大の價值を有する作物の栽培面積を大ならしむべきを要求するであらう。かくの如くして變化は—多くは滑かに—時計の時針のやうに黙々として殆んど目に見えずに進行した。併しこの變化は結局に於ては甚だ徹底的であつた(5)。

(5) 即ち一定日數作業の奉仕の價值は、一には勞働者が地主の乾草畑に召集された際に自己の乾草畑を離れる迅速及彼がその作業に投ずる精力如何に依存する。勞働者自身の權利は伸縮的であつた。例へば森林伐採權、芝地刈取權の如きである。地主の權利も同様であつた。例へば鳩の群を放つて自由に勞働者の穀物を喰ましめる權利、勞働者の穀物を地主の製粉場で製粉せしめる權利、地主の橋梁及び市場で通行税を徴する權利の如きである。次に耕作者は冥加料 Tithe、或は獻品—印度ではアブワブ abwalas と言ふ—の納入の請求を受けることがあるが、之も單に量のみでなく徴

收の機会も多少伸縮的であつた。蒙古人の治下に於ては直領耕作者 *tenants in chief* は名目上定額であつた生産物一定分の外に往々右の如き多数の公課を納めねばならなかつた。彼等は更に之を増加しその上に自身の徴する公課を附加して、彼等の下に位する耕作者に轉嫁した。英國政府は自ら之を課しはなかつたが、非常の努力をしたにも拘らずなほ直領耕作者の壓迫に對して下位耕作者を保護し得なかつた。例へばハンター卿 *Sir W. W. Hunter* はオリッサ *Orissa* の一部地方に於て、耕作者が慣例地代の外に三十三種の種々の特殊税 *cesses* を納めてゐるのを知つた。彼等はその子女の一人が結婚するとは納め、築堤・甘蔗栽培・チャッガーノート *Juggernaut* 祭列席その他の許可を受けるとしては之を納めた (*Orissa, I, 55-9*)。

慣習の保護

元より慣習が耕作者に與へた保護は、これらの公課についてさへも決して重要でなかつたのではない。蓋し耕作者は常にある特定時に如何なる要求を受けけるかを可成り良く知つてゐたからである。耕作者の周囲を圍む道徳心——高きも低きもある——は地主に對して彼を保護してゐたから、地主は通例認められてゐる年貢・公課・通行税・冥加料等を突然無體に増徴し得なかつた。かくして慣習は變化の鋭い刃の角をとつたのである。

それのみではない。地代中の右の如き漠然可變の分子は一般に全體中の一

小部分であつたことは眞である。また非常に長い年月に亘つて貨幣地代が一定不變であつて、耕作者が一種の土地共同出資權を持つてゐた場合が必ずしも非常に稀でなかつたことも眞である。彼がこの權利を得たのは、一には土地の眞正純價値の騰貴した場合に地主の寛量に因る所もあるが、また一には慣習與論の制止力にも因る所がある。この制止力は窓枠の下端に雨滴を留める力にある程度迄似てゐる。雨滴は窓を激振する迄完全に靜止してをり、激振すれば落ちし了ふ。同様に長く潜在してゐた地主の法律上の權利も、一大經濟變動期には時に突如として發現することがある (6)。

() 今日印度には同名異制・異制同名の種々雑多の耕作制が雜然として行はれてゐるのを見る。地方によつてはライヤト *Ryots* と呼ばれる耕作者とその上に位する上級保有者とが土地所有權を分有して政府に確定公課を収めてゐる。ライヤトの地位は安全であつて追放される懸念もなく、暴力を恐れる念から已むなく上級保有者に對し餘剰の中から慣習上嚴として定まつてゐる取得分以上を支拂ふ要もない。この場合には既に述べに通り、ライヤトの納める年貢は、共同出資體の受取高の中共同出資體の不文律によつて彼に屬する取得分を單に出資體中の他の出資者に引渡すに過ぎない。それは決して地代ではない。さりながらこの耕作形式はベンゴ

ル Bengal の一部にのみ現存してゐる。即ち近時の人口大混同が起らず、警察が活動的であり廉直であつて、下級保有者に對する上級保有者の暴虐を防ぎ得た地方に限つてゐる。

印度の大部分に於ては、耕作者は直接政府との耕作權契約によつて土地を保有し、時々その契約條項を改修して行く。この耕作權契約の基礎を成す原理は、納むべき年々の年貢を土地の蓋然餘剩生産物に適合せしめることにある。殊に北西部地方及び北東部地方の如く新開地の開墾が行はれつゝある地方に於てさうである。但し右は、處の慣例とする程度に従つて耕作者の必需品及び僅少の奢侈品を控除するのであつて、また耕作者がその處に正常な精力・熟練をもつて耕作するものと推定してのことである。即ち同じ場所の人と人とを比較して言へば右の公課は經濟地代 *economic rent* の性質を帯びる。併しこの地方の地味が等しい場合にも、一は活力ある人口によつて耕作され他は無氣力の人口によつて耕作されてゐれば、この二地方の公課は同じくないであらうから、右の適合方法は地方と地方とを比較して言へば、地代の性質を帯びずして租税の性質を帯びる。蓋し租税は現實に收得される純所得に割付けられ、地代は正常能力ある個人なら收得するであらうといふ純所得に割付けられるものと推定されてゐるからである。成功商人は同等に有利な營業建築物に住み等額の地代を支拂つてゐる隣人の十倍の現實所得に對して十倍の租税を收めるであらう。

英蘭の田舎は戦争・饑饉・悪疫が跡を絶つて以來穩かに安定してゐるが、印度の全歴史はかゝる安定の状態を殆んど記録してをらぬ。殆んど常に廣汎な運動が進行しつゝあつたやうである。之は一には饑饉が度々襲來した結果に因り (*Statistical Atlas of India* の記載する通り、十九世紀中少くとも一回の大饑饉に襲はれなかつた地方は極く少ない)、一には征服者が交々來り戦つて忍従的な人民を蹂躪したことに因り、一には最肥沃地も極めて迅速に深い藪に變ずることに因る。最大の人口を養ひ來つた土地は即ちその住民が離散すれば最も迅速に野獸・マラリアの巢窟と化する地である。これらは離散民が舊地に歸ることを妨げ、離散民をして定住地を下する迄に遠く彷徨せしめる。住民が土地を棄て、離散すればその土地の支配權を有するもの——政府であると私人であるとを問はぬ——は他の地方から耕作者を誘引するために非常に有利の條項を提供した。この耕作者誘引競争は遠い地方の耕作者對上級保有者の關係に非常に影響する。従つて一面に慣例的耕作制の變化は——ある時を取つて見れば目に見えないとしても——常に進行しつゝあつたが、そのみでなく殆んど如何なる場所にも時々新時期が到來して舊慣習の連続性さへも斷ち切れ、鋭い競争が最優力の力となつたのである。

これら戦争・饑饉・悪疫の擾亂力は中世の英蘭には屢々あつたが、これ程の暴威は振はなかつた。のみならずもし印度の人生一代の平均の長さが英蘭の寒冷な氣候に於けると同じならば、印度に於ける殆んど一切變化の運動の速度はかく迄に急速で

はないであらうが、事實同じでないから急速であつた。従つて印度の人口は平和と繁榮とによつて一層迅速に災禍から復興し得るのである。父及び祖父の慣行に於いての代々の口碑は英蘭に於けるやうに遠く遡らぬ。従つて比較的近時に成立した慣行も、宛ら古來の故實であるかと信ぜられ易い。變化は變化と認められずして一層速かに進み得るのである。

近代的分析は之を印度その他の東方諸國の耕作制に適用していゝ。之に關する典據—之は檢し得るのみならず突つ込んで再檢し得るから—を研究すれば、中世土地耕作制に關する漠然たる斷片的記録—之は檢し得ることは檢し得るが突つ込んで再檢し得ない—に光明を投ずることゝなるであらう。勿論近代的方法を原始狀態に適用するは甚だ危険である。動もすると正しく適用するよりも誤つて適用し易い。併し全然之を有益に適用し得ないと言ふ主張は—時々出て來る主張ではあるが—本書その他の近代著作に説く分析の目的、方法、結果に關する觀念と殆んど共通する所のない分析觀念に基くものである。Economic Journal, Sep. 1892 誌上の A Reply を見よ。

四 分益農法と自作小農法との利害。

耕作者が土地使用の代償として納める支拂が金納なるか物納なるかの問題

分益農法即ち持分耕作

は、印度についても英蘭についても共に興味を増しつゝある問題である。併し吾々は今暫くこの問題をおいて、之よりも根本的な區別を考察したい。それは地料による『英吉利』制 English system of rental と新世界に於て所謂『持分』による土地保有制 system of holding land on shares 即ち舊世界に所謂『分益農法』 Metayer system (7) との區別である。

(7) 本來分益農と云ふ言葉は地主が生産物取得分を折半する場合にのみ當嵌まるのであるが、通例は地主取得分の割合を問はず、總てこの種の制度に用ひられてゐる。分益農は資本附耕作權制度 Stock lease system と區別せねばならぬ。この制では地主は少なくとも資本の一部を出してゐたが、耕作者は全然自己の危険に於て農場を經營し、たゞ土地資本に對する定額の年支拂を地主に納めるのみであつた。中世の英蘭にはこの制が廣く行はれた。分益農法も知られて居なかつたのではないやうである。(Rogers, Six Centuries of Work and Wages, ch. X を見よ)。

ラティン歐洲の大部分では土地は農地 holding に分割され耕作者は自身と家族との勞働により時には—稀であるが—二三雇用勞働者の勞働によつてこれらの農地を耕作し、地主は之に對して建築物・家畜—時には農具迄も—を支給

歐洲及び米國にはその幾多の形態がある

する。米國には抑も農業地貸借制は如何なる種類のものも甚だ少ないのであるが、この少ないものゝ三分の二は小農地であつて、貧民階級の白人或は解放された黒人が之を借り受け何等かの方法で生産物を労働と資本との間に分益してゐる(8)。

(8) 一八八〇年には北米合衆國の農場の七割四歩は所有者自ら耕作してをり、一割八歩即ち殘餘の三分の二以上が生産物分益制の貸地である。英吉利制農場は僅かに八歩に過ぎぬ。所有者以外の人が耕作する農場の大部分は南部諸州にある。場合によつて、土地所有者—米國では之を農業家 farmer と呼ぶ—は馬・騾馬のみでなく飼料をも支給する。この場合には耕作者—之は佛國では分益農と呼ばれず農奴の頭 Manure Valet と呼ばれるであらう—は殆んど分益取得分をもつて支拂を受ける雇用労働者の地位にある。恰かも例へば雇用漁夫が漁獲の一部の價値を報酬として受けるが如くである。耕作者取得分は事情によつて同じくない。土地が豊饒で穀物も労働を要すること少ない種類であるときは三分の一、多大の労働を要し地主の供給資本が少ない處では五分の四である。かゝる取得分契約の基礎たる種々の制を研究するは非常に有益である。

右の制によれば殆んど自家資本を有せぬ者も他の如何なる途をもつてするよりも低廉に資本を使用するを得、また雇用労働者としてよりも一層の自由と

この制は無
組に組
無若
資本者
組合生
へる利
益を與

併し多大の
摩擦を伴ふ

地主の監督
が行届かな
ければ耕作
は粗略であ
る

責任とを有し得る。即ち右の制は組合 Co-operation、利潤分配 Profit sharing、出來高拂 Payment by piece-work と云ふ三近代制度の長所を多く兼備してゐる(9)。併し分益農は雇用労働者に比して多くの自由を有するだけで英吉利農業家 farm-er に比しては自由が少ない。地主は耕作者とその作業を怠らぬやう—自身或は代理者を雇つて—多大の時間と煩勞とを費さねばならず、この時間・煩勞に對し多額の代償を課さねばならぬ。この代償は名こそ違ふが實質に於て經營收入である。蓋し耕作者が土地に投ずる資本・労働各充用分の收穫の半ばを地主に納めねばならぬ場合には、一充用分の全部收穫が耕作者の收支を償ふに足る高の二倍に達しなければ之を投ずるは彼の利益とはならぬであらう。然らばもし耕作者が自己の欲する儘に耕作する自由を有するならば、彼の耕作は英吉利制による場合に比して遙かに粗放となり、耕作者は收支償ふに足る高の二倍以上の收穫を生ずるだけの資本・労働のみを充用するに止まるであらう。ためにこれらの收穫についてさへも、地主の受ける取得分は定額支拂法の場合に比して少なくなるであらう(10)。

(9) 『利潤折半』法 Half-profits system による出版者對著者の關係は多くの點に於て地主對分益農の關係に似てゐる。

(10) 之は第四編第三章に用ひたのと同種の圖形を用ひれば最もよく明かにすることが出来る。ACの上方のODの高さの二分の一(或は三分の二)の所に耕作者取得分曲線 tenant's-share curve を引けばこの曲線の下方の面積は耕作者取得分を表はし、その上方の面積は地主取得分を表はす。前と同じくOHは耕作者が一充用分の收支を償ふに要する收穫であるから、もし耕作者が自己の思ふ儘に耕作するとすれば、耕作者取得分曲線がHCを切る點迄しか耕作を行はぬであらう。従つて耕作は英吉利制に於けるよりも粗略となり收穫中の地主取得分は英吉利制に於けるよりも少ない割合となるであらう。この種の圖形を用ふれば、土地から生ずる生産者餘剩の支配原因に關するリカードの分析を如何にして英吉利制以外の耕作制に適用するかを例解するにいと。またこの圖形に少しの變化を加へると波斯に在るやうな慣習にも之を適用し得るであらう。波斯では土地自體は殆んど價值を有せぬ。『收穫は之を五分し、その一分をそれぞれ(一)土地(二)灌漑用水その他(三)種子(四)勞働(五)牡牛の各々に分配する。地主は一般にその二部分を有するから收穫の五分の二を得ることになる』。

歐洲には實際上耕作權が固定的になつてゐる地方があつて、これらの地方では右の結果を來してゐる。かゝる場合には、不斷の干涉による外、耕作者の農場

投下勞働量を増加せしめ、農場家畜の用務外使用——耕作者はこの使用の果實を地主と分益せぬ——を制限し得ないのである。

併し最も靜止的 stationary な地方に於てすら、慣習上地主の支給する資本の量と質とは、目には見えぬが間斷なく變化して需要供給關係の變化に順應しつつある。もし耕作者の耕作權が固定してゐなければ、地主は耕作者の投ずる資本、勞働量と自ら支給する資本量とを計慮的且つ自由に定めて個々の特殊の場合の緊急事情に順應して行くことが出来る(11)。

(11) 右は既に米國では行はれてをり、佛國の多くの部分にも行はれてゐる。一部の識者は、右の慣行を大いに廣めれば、少し前途廢類的制度と看做されてゐた分益農法に新生命を與へるものと考へてゐる。もしこの制が徹底的に行はれるならば英吉利制に於けると同等の結果を得るであらう。即ち土地の地味・位置・資本量、農場經營希望者の正常能力・企業心等の等しい場合には、耕作の程度も地主の所得も英吉利制に於けると同じであらう。

佛國の分益農法の伸縮性については Economic Journal, March 1894 誌上のヒッグス、ラム、ヘラン Higgs and Lambell 兩氏の論文及び Leroy-Beaulieu, Répartition des Richesses, ch. IV. を見よ。前註と同様に考を進めて、OD上に距離OKを取り、之をもつて地主の支給する流通資

併し監督が
有れば結果は
れ、英吉利制
は、大差ない
かとも知れぬ

本を表はすものとする。すれば―地主は量OKを自由且つ自己の利益のために管理し、耕作者との契約によつて耕作者の投下労働量を定め得るものとする―地主はこのOKを適宜調節して英吉利耕作制の下に於けると同程度に耕作者の耕作を収約的ならしめ、従つて地主取得分も英吉利制の下に於けると同じくなるであらう。之は幾何學的に證明し得る。もし地主が量OKを改め得ない迄も耕作者の労働量を依然左右し得るとすれば、生産物曲線の形状如何によつては耕作は英吉利制によるよりも収約的となるであらうが、地主取得分は幾分少なくなるであらう。この矛盾的な結果は科學的には稍や興味があるが、實際上には殆んど重要でない。

然らば農地が非常に小であつて耕作者が貧しく地主が些細の事についての多大の煩勞を厭はぬ場合には、分益農法の利益の大なるは明かである。之に反して農地が廣大で、責任ある有能耕作者をして企業心を發動せしめるに足る場合には、不適當なることも明かである。この制は通常自作小農法 *system of peasant proprietorship* と結びついてゐる。以下之を考察したい。

五

自作小農は

自作小農 *peasant proprietor* の地位は人を引きつける多大の誘引力がある。

多くの美點
と幸福の多
くの源泉と
を有する

彼はその好む所を行ふ自由を有し地主の干渉に煩はされず、他人が自己の作業・克己の果實を奪ふ心配もない。彼の所有感情 *feeling of ownership* は彼に自重心を與へ品性の安定を得せしめ、その習性を慎み深く節制ならしめる。彼は殆んど怠ることなく、自己の作業を單なる苦役と見ることもない。總ては彼が愛して止まぬ土地故である。

併し彼は吝
高つては吝
反つては吝
し精勵は吝
るが無能は吝
ある労働者
な勞働者で
ある

『所有の魔力は砂を化して黄金とする』 *The magic of property turns sand into gold* とアーサー・ヤング *Arthur Young* は言つた。自作小農が例外的精力家であつた多くの場合にさうであつたのは疑ふ迄もない。併しかゝる人々はもしその展望區域が自作小農の狭い希望の内に限られてゐなかつたならば、恐らく之と同様に否之よりも一層、好結果を收めたかも知れぬのである。蓋し右の繪畫には實に他の一面があるからである。『土地は労働者にとつて最善の貯蓄銀行である』と言はれてゐる。時には之は第二の最善である。自作小農はその土地に熱中する餘り、往々その以外を殆んど顧みない。自作小農の最富裕者の多くさへも、自己及び家族の食物を切詰める。彼等は邸宅家具の立派なことを誇りと

するが、臺所の中は儉約一方であつて、實際に於てその住居は英吉利農業労働者 cottager 中の優良階級にも劣りその食は遙かに劣つてゐる。自作小農の最貧者に至つては星を戴き月を踏んで刻苦精勵するが、勞多くして效が少ない。何となれば彼等の食は最貧の英吉利労働者にも劣るからである。彼等は富といふものがたゞ單に幸福といふ眞實の所得を得る手段としてのみ有用である所以を解してをらぬ。彼等は手段のために目的を犠牲にしてゐるのである(12)。

(12)『自作小農』といふ言葉は非常に曖昧な言葉である。その中には勘定高い結婚によつて數代の艱難辛苦と粒々たる貯蓄との結果を一手に集めた多數者も入つてゐる。佛國ではこれらの人々の中には對獨大戦役後多額の政府公債に應募し得た者もある。併し通常自作小農の貯蓄は非常に零細であつて、四中の三迄、彼の土地は資本の缺乏に飢ゑてゐる。彼は臍繰り金を貯へ或は投資してゐるかも知れぬが、往々多大の貯蓄をなすこともあると信ずるには十分の根拠が未だ缺けてゐる。

また茲に銘記せねばならぬことがある。それは英吉利労働者は英吉利制の成功を示さずしてその失敗を語つてゐるといふことである。これら労働者は數代に亘つて有利な機會を利用しなかつた人々の子孫である。然るに當時有

獨佛の自作小農中には富裕な者もあるが之は新對しては英吉利に對する舊世界に於ける利

労働者の多數は孫たる多數を對しめねばならぬ

能冒險的な人々はこの機會を捉へて國內に在つては指導的地位に登りつゝあり—之よりも一層重要であつたのは—地球表面の大部分の無條件相續權 simple を獲得しつゝあつたのである。英吉利民族をして新世界の最大所有者たらしめた原因は數あらうが、最も重大な原因は豪放なる企業心である。この企業心あるが故に、自作小農となるに足る富を有するものは、一般に自作小農の平凡な生活と貧弱な所得とに甘んずるを肯じなかつたのである。この企業心を養つた原因は數あらうが、その最も重大なる原因は、自作小農法が主として行はれる地方に於て往々青年の精力を鈍らせた誘惑がなかつたことである。その誘惑とは即ち僅かな遺産の相續を待ち、自由な個人的選擇を行はずして財産のために結婚せんとする誘惑を言ふのである。

米國の『農業家』 farmer が—自己の手をもつて自己の所有地を耕作する労働階級の人であるに拘らず—『自作小農』と違ふのは、一にはこれらの誘惑のない結果である。彼等は自己と子との精力を發達せしめ、この精力は彼等の資本の主要部分を成してゐる。蓋し彼等の土地は一般に依然として餘り價値を持

米國の農業家

たぬからである。彼等の精神は常に活動的である。尤も中には農業上の技術的知識を殆んど有せぬ者も多いが、その明敏と自在力とによつて殆んど誤ることなくその直面する問題の最善の解決を見出し得るのである。

その問題とは一般に彼等の使用し得る土地の潤澤な割合には少ないとしても投じた労働の割合には多い生産物を得ることである。さりながら米國の一部地方では土地に稀少性價値 *scarcity value* が生じ始めてをり、良市場に接續する地域では收約耕作が有利にならうとしつゝある。これらの地方では農場經營方法及び耕作制は英吉利式に基いて改まりつゝある。而して最近數年に至り土著米國人が西部地方の農場を新來の歐洲系の人々に委ねんとする傾向の兆が現はれて來た。恰かも彼等が既に東部地方の農場を委ねたる如く、また極く古くは纖維工業についても然りし如くである。

六 英吉利制によれば地主は資本の中容易有效に責に任じ得る部分を支給するを得、また—他の産業部門

に於ける程ではないが—淘汰力が著しく自由に働く。

然らば轉じて英吉利耕作制を論ずる。英吉利制は多くの點に於て缺陷を有し、また人情味を缺いてゐる。併し企業心・精力を刺戟し節用した。この企業心・精力こそは—英蘭の地理上の利益と破壊的戰禍を免れたことと相待つて—英蘭をして工業技術殖民施策上に於てまた—程度はこれ程に著しくはないが—農業上に於て世界の指導者たらしめた所以である。英蘭は農業の上に於ては諸外國殊に和蘭に學ぶ所があつたが、全體に於て學べるよりも遙かに多くを教へた。肥沃地—エーカー—當りの生産量の大きな點に於ては、今日如何なる國と雖も—和蘭を除いて—英蘭に比すべき國はない。歐洲の如何なる國と雖も投下労働の割合にかく迄多大の收穫を收める國はないのである(13)。

英吉利制は
人情味が多
く、
大の力を與
へる

(13) 英蘭の肥沃地—エーカー—當りの生産物は和蘭に比してさへ多い—尤もこの點には稍や疑がある—かの觀があるであらう。和蘭が産業企業心發展の上に於て英蘭

を指導した點は他の如何なる國にも勝つてゐるのであつて、この企業心は諸密集都市から廣く全國に普及したのである。併し和蘭は英蘭と同密度の人口を養つてなほその上に多大の農業生産物を輸出してゐるといふ通説は誤つてゐる。蓋し白耳義はその食料の大部分を輸入し、和蘭さへも—その非農業人口は少ないに拘らず—その輸出食料額と同量の食物を輸入してゐるからである。佛國の農場收穫は英蘭本土の收穫に比して平均約二分の一に過ぎない。馬鈴薯すらさうである。また佛國の牛・羊の重量は面積の割合から言へば英蘭の僅々約二分の一に過ぎない。他面佛國小耕作者は家禽・果實その他その絶好の氣候によく適する小生産部門に於て勝れてゐる。

英吉利制の最大長所は次の點にある。地主が投下する財産中には管理に當つて自身を煩すことも耕作者を惱ますことも殆んどなく、また投下に當つては企業心と判断との兩者を要しつゝも些細の細目に不斷の監視を要せぬ部分がある。即ちこの制によれば地主はこの部分—またこの部分のみ—についての責任を自ら負擔し得るのである。地主の出資分は土地・建築物・永久的改良であつて、英蘭に於けるその平均高は農學家出資分の五倍に達する。この企業にこの大資本を投じて地主の收める純地代は殆んどその費用の三步の利子にも當

蓋しこの地制に本効
主は資本の有効
に容易に任じ
中容に部分
に得るべき
支給する
からである

らぬのであるが、地主は喜んでこの多大の出資分を支給するのである。これ程の低率で所要資本を借入れ得る場合は他の如何なる企業にもない。率は兎に角として、往々これ程迄に自己の資本の大部分を借入れ得る場合は他の如何なる企業にもない。如何にも分益農は之よりも多大の部分を借入れるではないかと云へるかも知れぬ。併しその率は之よりも遙かに高いのである(14)。

(14) 長期について言へば地主はその企業の一業務擔當員であり主たる出資者である
と見ていゝ。短期について言へば彼は寧ろ匿名出資者の地位にある。彼の企業心
が如何なる力を持つかについては Duke of Argyll, Unseen Foundations of Society 殊に三七四頁
参照。

英吉利制の第二の長所は一部分第一の長所から出て來るのであつて、次の點にある。即ちこの制によれば地主は責任ある有能耕作者の淘汰に當つて著しい自由を持つ點である。土地經營—土地所有に對して言ふ—の點から見れば、出生といふ偶然事は英蘭に於ては歐洲の他の如何なる國に於けるよりも意義を持つことが少ない。併し既に明かにした通り、近代英蘭に於てさへ、一切種類の企業の支配的地位に就くにも自由職業者となるにも、否熟練筋肉労働者とさ

また淘汰
が著しく自
由に働くか
らである

へなるにも、出生といふ偶然事に重大な意義がある。英吉利農業に至つてはこの偶然事は之よりも稍や重大な意義を持つ。蓋し地主の資性は―善きも悪きも集まつて―嚴密な商業主義に基く耕作者の淘汰を妨げ、また地主は耕作者を廣く遠方より招くことが左迄多くないからである(15)。

(15) 地主の習性が現存耕作制と結びついて如何なる程度迄新小農地の形成を妨げるかについては、未だ(一九〇七年)非常に意見の相違がある。この小農地を形成すれば、聰明な労働者は容易に―技術工が小賣店及び金屬品その他の物品の修繕業を興し得ると同程度に容易に―自營の獨立企業を興す機會を得るに至るかも知れぬ。

七

農業改良は
徐々に來る

農業技術進歩の上に一步を進める機會を有する人は甚だ多數である。また農業の各種部門間の一般性質の相違は工業の各種部門間に於ける如く大でないから、農業上の新著想は迅速に續々と現はれ速かに普及するであらうと期待する人があるかも知れぬ。併し反對に進歩は遅かつた。蓋し最も企業的な農業家は都會に流入するからである。田舎に踏み止まる者は多少とも孤立の生

活を送り、自然淘汰と教育との結果としてその精神は常に都會人よりも鈍重であつて、新らしい途を發案するは愚か之に追隨するさへも都會人の如くでない。のみならず工業家は同業者の用ひて効果を擧げた方法を殆んど常に安全に模倣し得るが、農業家はさうでない。各農場はそれぞれ少しづつ、特徴を持つてゐるからである。之がため近隣に於て効果を擧げた方法を盲目的に採用しても恐らく失敗する。この失敗を見て、從來の古い途を踏襲するをもつて最善の途とする信念が愈々強くなるのである。

更に農場にあつては細目が種々雑多で一様でないから、適切に農場簿記を記帳するは甚だ困難である。農業には結合生産物 *joint products* が多く副産物 *by-products* が多い。各種の作物飼養法の借方貸方關係は複雑且つ不定である。

ために通常農業家は―事實としては簿記計算を嫌つてゐるが今假りにその嫌ふ程度を逆にした程に之を好むとしてさへ―生産物の一定增收を収めるに丁度收支償ふ價格如何を確知するは至難であらう。半ば本能的の推算による外ない。彼はその直接費を可成確實に知つてゐるかも知れぬが、その真正全部費

精密な農場
簿記帳の
困難

用を殆んど知らない。この事實が即ち、經驗の教訓を迅速に觀破しその力を借りて進歩する困難を大ならしめるのである(16)。

(16) この困難は小農地に於ては一層大である。蓋し資本主義的農業家は兎に角直接費だけは之を貨幣によつて測定するからである。之に反して自ら作業を營む耕作者は往々その土地に自己の力に及ぶと感ずる限り精一杯の作業を投じて、その貨幣價值と生産物との關係を綿密に評定しない。

尤も自作小農はその雇用者よりも少ない報償に甘んじ而かも一層勤勉である。この點は他の小企業主に似てゐる。併し自作小農は雇用労働者を増加して利益ある場合に於てさへ往々之を増加しない。この點は工業上の小企業主と違つてゐる。もし彼等自身及び家族が全力を盡しても未だその土地に十分でなければ、その土地は一般に耕作不足となる。もし足る以上なれば、その耕作は往々収益ある限度を超えてゐる。通例の原則として本業の餘暇をもつて副業を營む者は往々この副業の収入を如何に低くとも一餘分の利得と見る。彼等は非常に低い賃銀—この副業を本業として之によつて生活を維持する者にとつては餓死賃銀 starvation wage たるべき賃銀—よりも以下で働くことすら時々ある。殊にこの副業が耕作業であつて、狭い地所を不備の用具で—には樂しみとして—耕作する場合に於てさうである。農業と工業との第二の相違點は競争の作用様式の上にある。もしある工業

ある企業者

の能力は工業に於けるが如く、他の企業が補はれぬ

家が非企業的であれば、他の工業家は彼の残す空所に踏み入り得る。併しある土地所有者が彼の土地の資源を最善の状態に發現せしめない場合には、他の所有者はこの缺陷を補ひ得ない。補はうとすれば收穫遞減傾向を生ぜしめる。ためにある農業家が聰明企業心を缺くといふことは、即ち之を缺かない場合よりも(限界)供給價格を少しく高めることである(17)。さりながらこの二つの場合の相違が程度の相違に過ぎないのは眞である。一工業部門に従事する主要營業の能力・企業心が減退すればその部門の發達は見る見る衰へるからである。主要の農業改良は、地主であつて自ら都會人であつたか或は少なくとも都會人と密接な連絡を有する人、及び農業の補助業を營む工業家によつて行はれた(18)。

(17) 第六編第二章五及び同處に示した參照部分を見よ。

(18) プロセロー Prochero, English Farming, Ch. VI. は變化に對する永續的抵抗に關する若干事例を擧げ、英蘭に於いては一六三四年に至つても、なほ「犁の後尾をもつてする耕作を禁止する」ため "against ploughing by the tail" 一條例を發布する要があつた程であると附言してゐる。

八 大農地と小農地。産業組合。

農業上は於ける人力は收穫遞増法則に従ふ

自然は一般に一定能力の労働増加量に對して比例以下の收穫を與へる。それにも拘らず人力は工業上に於ても農業上に於ても一般に收穫遞増法則に従ふ(即ち労働者數に比例する以上にその總體能率は増進する)⁽¹⁹⁾。併しなほ大規模生産の經濟はこの二つの場合に於て必ずしも全く同じくない。

(19) 第四編第三章五・六を見よ。

農業は地方産業たる高度の特化産業たることをもたぬ

併し之を工業的生產方法に近づかしめんとす

第一に農業は廣大な土地の上で營まなければならぬ。工業家の場合には手元へ原料を運んで之を工作し得るが、農業家は出で、作業を求めなければならぬ。第二に土地の上の労働は季節に應じて作業を順應せしめねばならず、全然一種の作業にのみ専らなり得ることは稀である。その結果農業は——英吉利制の下に於てさへ——工業的生產方法に向つて急進し得ないのである。併しそれにも拘らず農業をこの方向に押進めやうとする強い力がある。發明の進歩は絶え間なく有用な——併し——高價な機械を増加しつつある。その大

る刀がある

多數は小農業家が之を使用しても極く短期間のみ用ひ得るだけである。小農業家は或はこれらの機械の若干を借用してもいい。併し之を用ふるには近隣農業家と協働しなければ用ひ得ない場合が多く、また天候が不確實であるからこの案は實際上では到底圓滑に行はれぬのである⁽²⁰⁾。

(20) 英蘭に於ては多くの諸外國に於けるよりも、馬匹力は蒸氣力、筋肉力に比して相對的に高價である。英蘭は耕地用蒸氣機械改良の魁をした。馬匹力が安價であれば一般に極小農場に不利で中農場に有利である。併し蒸氣力及び石油その他による「發動」力が安價であれば巨大農場に有利である。

更に農業家が時代の變化に伴つて行くには、自身と父との經驗の結果以上に進まねばならぬ。農業科學上、農業實務上の運動に後れず追隨して、その實際的應用の主たるものを自己の農場に用ひ得なければならぬ。總て之を適切に行ふには訓練ある多能の精神を要する。これらの素質を有する農業家は數百エーカー否或は數千エーカーの農場の經營一般方針を定める時間を有し得るであらう。細目事項に關してその労働者の作業に加へる單なる監督の如きは彼の適しない所である。大工業家は補助者を雇用して容易に微細な監督を爲さ

農業は知識の不斷の増進を要する

しめ得るから、かゝる監督のために自身の力を用ひない。即ち右農業家の正に爲すべき作業はこの大工業家の作業と同様に困難である。かゝる高級作業を爲し得る農業家が幾組かの労働者を雇傭してその各組にそれぞれ責任ある組長をつけておかないとすれば、彼が營むには惜しい作業にあたらその力を空費しつゝあるに相違ない。併しかゝる力量を發揮せしめる農場の數は決して多くない。従つて眞實有能な人材を農場企業に誘引する力は甚だ弱い。國の最優秀の企業家、有能人材は一般に農業を避けて他の業に行く。そこには一流の有能人材を入れる餘地があつて高級作業以外は何も營む要なく、而かもこの高級作業を多く營み従つて多大の経営収入を收めるのである(21)。

(21) 非常に大規模な農場經營の實驗は至難・高價である。何となれば農場建築物及び通信手段の特設を要し、且つ一必ずしも不健全でない一慣習・人情から來る多大の抵抗に打克たねばならぬからである。その危険もまた大であらう。蓋しかゝる場合には開拓的經營者は往々失敗するからである。尤も一旦成功して開拓者の行く道が踏み堅められた曉には、その道は最善・最安全の道となるかも知れぬ。もし一部の個人或は株式會社或は組合的團體が所謂「工場制農場」(Factory farms) 二

三の綿密な實驗を行つて呉れたらば、幾多の論争點に關する吾々の知識は啓發され、吾々は將來に對する貴重な規準を得るであらう。この工場制農場案によれば、中央に一團(一團以上でもいゝ)の建築物があつて、之から四方に道路―場合によつては輕便電車さへも―が通ずる。これらの建築物には工場管理上の原理として認められたものを應用し、機械を特化し節用し、材料の空費を避け、副産物を利用する。分けても最優秀の熟練と經營力とを雇傭し、適材を適所以外には用ひない。

夫婦が作業を共にする小農場は經濟的である

今假りに農業家は平素その労働者と共に出で、作業せず労働者に交つて之を督勵せぬもの―之は近代の風である―と假定する。すれば生産經濟のためには農場の大きさを現存土地耕作制の條件の下に於て實現し得る限り成るべく大ならしめるを最善とするやうである。かくすれば高度特化機械を使用する餘地も生じ、農業家もその偉大な能力を振ひ得る。之に反して農場が餘り大でなく、また―往々見るやうに―農業家の能力及び精神活動が工業上の職工長の優良階級に普通な程度に止まりこれ以上に出てゐないとする。すれば彼が舊式の方法に歸つてその労働者に交つて働くのが他人のためであらうし、結局に於ては彼自身のためであらう。恐らく彼の妻も亦た昔風に歸つて因襲の定め

る所により、農舎内外の輕微な任務に當るがよい。これらの任務は分別・判断を要し、また教育・教養と相容れぬものでもない。彼と之とは相合して彼女の生活の氣品を高めこそすれ低めることなく、その社會的地位の向上に對する眞實の要求權をも強めるであらう。今や自然淘汰の原理は峻嚴な作用によつて農業不適者を減ぼしつゝありと考ふべき若干理由がある。この不適者とは、困難な頭腦作業を營む才能なきに拘らず筋肉作業を營むを肯ぜぬ農業家である。彼等の地位に代らんとしつゝある人々は平均以上の天賦能力を有する人々である。その人々は近代教育の力を借りて労働者の身分を脱せんとしつゝある。その人々は模範的農場の通常劃一作業をよく經營し得る。その人々は己が労働者に出て働けと命じないで來て働けと招き寄せ、之によつて右の作業に新生命と新精神とを與へつゝある。巨大農場は別問題として、英吉利農業の近い將來は、一に繋つて右の如き主義によつて經營される小農場にある。一々の作物に多大の手入を要するため機械を使用し得ない場合には、小農場は必ず多大の長所を有する。併し科學的方法の近代的應用が盛んになつて來たため、逸品種

の花卉・果實を作る大農場が、數多の高給助手を用ひて收め得る技術的熟練の經濟は愈々重要な度を加へんとしつゝある。

九

小農地の面積は總面積の割合に高積得ぬ

併しそれは時に稀少性價値に達する

次に我々は地主が自身の利害關係上、如何なる程度迄農地の大きさを國民の實質的必要に適合せしめるかを考察したい。小農地 *small holdings* は大農地 *large holdings* に比して往々面積の割合に高價な建築物・柵を要し、地主の煩勞とその經營上の附帶失費とを大ならしめる。また若干の豊土を有する大農業家は瘦土をも利用し得るに反し、小農地は一般に良土 *good soil* (22) 以外では成功しないであらう。従つて小農地の一エーカー當りの總地代 *Gross rent* は常に大農場の總地代よりも高率ならざるを得ない。併しある主張によると、地主が農場を細分するには失費を要するから、その小農地の地代が高く支出に對する高い利潤の外に、なほ小農地再併合の蓋然に對する多額の保險基金を收め得ると思はなければ、農場細分の失費を負担しやうとはせぬものである。殊にその土地に

之は公益に
反する

既に定住者が多い場合にさうである。またその主張によると、小農地殊に二三
 エーカーの小農地の地料 *rental* は國內の多くの地方に於て無法に高い。地主
 は時に偏見に囚はれ、また絶大の權威を望むため、社會上政治上或は宗教上の問
 題について彼と一致せぬ者に對して土地を賣り又は貸すことを斷然拒否する
 ことがある。この種の害悪は常に少數の地域に限られてゐたに相違なく、また
 これらの害悪が速かに減じつゝあるは確かなやうである。併しそれが多大の
 注意を惹くは當然である。蓋し如何なる地域に於ても、社會は大農地を要する
 と等しく小農地をも要し、労働者分讓地 *allotments* と大園藝場とを要し、また一般
 に本業の餘暇に經營し得る手頃の小農地をも要するからである(22)。

(22) この良土といふ言葉の解釋は地方的條件と個人的欲望とによつて同じくない。
 都市或は産業地域に近い永久牧場 *permanent pasture* では、小農地の長所は恐らく極大
 に達しその短所は極小である。小耕作農地 *small arable holdings* に用ふる土地は輕土で
 あつてはならず、堅土でなければならぬ。肥沃なればなる程いゝ。殊に農地が非常
 に小であつて鋤を多く用ふる場合にさうである。小耕作者は土地の地勢が丘陵に
 富んで平坦でない場合に往々最も容易に地代を支拂ひ得ることがある。何となれ

ばかゝる場合には機械を用ひ得ざるによつて失ふ所が甚だ少ないからである。
 (23) これらは頭腦と手とをもつて屋外に作業する人の數を増す、また農業労働者の
 地位上進の踏石となる。之によつて農業労働者は抱負を實現する所を求めやうと
 して已むなく農業を棄てる要もなく、かくて最有能最剛健の農場少年が絶えず都市
 に流入する大弊害を阻止する。また生存の單調を破り、屋内生活の健全な轉換法と
 なり、性格の多面性を發揮せしめ、個人生活の配慮の上に空想・想像を働かしめる。ま
 た低級・粗野な快樂に對する反對誘引力となり、往々之なくしては離散すべかりし家
 族をして團聚せしめ、有利な條件の下に於ては労働者の物質的條件を著しく改善し、
 日常作業の避け難い中斷によつて生ずる積極的の損失・懊惱を軽減する。
 The evidence before the Committee on small holdings, 1909 (Cd 3278) は小農地保有者にとつて
 の所有の利害得失を極めて詳細に論じてゐる。明かに所有反對の意見に傾いてゐ
 る。

一九〇四年大英國には一乃至五エーカーの小農地が十一萬千、五乃至五十エーカ
 ーが二十三萬二千、五十乃至三百エーカーが十五萬、三百エーカー以上が一萬八千あ
 った。右報告書の第二附録を見よ。

最後に自作小農法は一の制度としてこそ英蘭の經濟狀態土地氣候及び英吉
 利人の氣象に適しないとは言ふが、なほ英蘭にはこの狀態に於て完全に幸福な

自作小農地
に人為的障
害を加へて
はならぬ

少數自作小農がある。またその以外にも自己の欲する場所に丁度恰好の小地面がありさへすれば、之を買入れてこの上に幸福に生活するだらうと思はれる少數の人々がある。これらの人々はその氣象から言つて、勤勉を苦にせず、貧しい生活を厭はず（但し何人をも主人と呼ぶ要のない場合に限り）、安静を愛し興奮を嫌ひ、土地に對して愈々愛著を感じ得る偉大な包容力を持つてゐる。これらの人々に對しては適當の機會を與へてその貯蓄を小地面に投下せしむべきである。彼等は自らの手をもつて適當の作物を栽培するであらう。如何に少なくとも、小地面の移轉に對して現在過重な法律的料金を課してゐるのを輕減すべきである。

産業組合 co-operation は農業上に於て恐らく成功し、大規模生産の經濟と小所有の歡喜、社會的利得とを兼ねる觀があると言つていい。産業組合は相互信頼、確信の習性を要する。不幸にして田舎人中の最剛健、最大膽従つて最も信頼するに足る人々は常に都市に流入して、農業家といふものは因循な人種となつてゐる。併し丁抹・伊太利・獨逸——最後に——愛蘭は卒先して運動を起し、酪農産物の

農業上に於ては組合を興すに多き前途も益あり、望むべきである。

處理、バター・チーズ製造、農家所要品の購入及び農家生産物販賣の上に於ける組織的組合の前途は甚だ有望のやうである。大英國も彼等に追隨しつつある。さりながらこの運動の範圍は狭く、耕地そのもの、上の作業には殆んど觸れてゐない。

産業組合が一切耕作制の長所を多く集めてゐる如く、愛蘭のコテイアール制 cottier system は往々一切耕作制の短所を集めてゐる。併しこの制の最も恐るべき弊害とその原因とは略ぼ一掃され、今となつては該問題の政治的分子が重大となつてその經濟的分子は陰に隠れて了つた。従つて吾々はこの問題を論外としなければならぬ(24)。

(24) 十九世紀の前半英吉利立法者は印度及び愛蘭に英吉利制土地耕作を強行しやうと企て、誤謬を犯した。之は通常リカードの地代理論の罪であるとされてゐるが、リカードの地代理論はその罪の大部分を負ふべからざるものである。この理論はある時に於て土地から生ずる生産者餘剰量の決定原因を問題とするものである。英吉利人が英蘭に在る英吉利人用として書かれた著作に於てこの餘剰を地主取得分と見ても大した害はなかつた。抑も耕作共同出資體は愛蘭の場合には耕作者と

地主とから成り、ベンゴールの場合には政府と各等級の耕作者とから成つてゐた。英吉利立法者は之を無視してベンゴールの徴税員及び愛蘭の地主に對して一耕作共同出資體の全財産を専有する便宜を與へた。之は法制の誤りであつて經濟學の誤りではない。蓋し徴税員は多くの場合出資體の眞正出資者に非ずして、その役員の一に過ぎなかつたからである。併し今は愛蘭政府のみならず印度政府にも、一段賢明・正當な觀念が行はれつゝある。

一〇 正常價格・正常農作如何を決する困難。耕作者が改

良を施しその果實を收める自由。建築物空地その他に關する公私の利害衝突。

英吉利制度は競争的農業であるが、耕作には競争が容易に上るが、用途は競争に於て容易に競争作用をせぬ。

英吉利制土地耕作の愛蘭に於ける失敗は同制の困難を明らかに曝露した。その困難は同制に固有の困難であるが、たゞ同制が英吉利人の營利習性と性格とに添つてゐたため英蘭ではその困難が陰に隠れてゐただけである。これらの困難中の主なものは次の事實から生じて來る。即ち同制の眞髓は競争的な所にありながら、農業の状態は英蘭に於てさへも自由競争の全幅の作用に對し

正常價格・正常農作如何を決する困難。

て強い抵抗を與へるといふ事實である。先づ第一に、競争の作用の基礎となる事實を確知する上に特殊の困難がある。吾々はすぐ前で精密な農場簿記帳の困難を述べた。之に加へて農業者が何程の地代を支拂へば收支償ふかを計算する場合に、正常農作・正常價格如何を決する困難がこの計算を妨げる。蓋し季節の順・不順は周期をなして循環するものであつて、その確かな平均を取るには長年月を要するからである(25)。その長年月の間には産業環境は恐らく激變してゐる。地方的需要、遠い市場へ彼等自身の生産物を賣出す便宜及び遠隔の競争者が彼の地方的市場へ生産物を賣出す便宜も悉く一變してゐるかも知れぬ。

(25) Tooke and Newmarch, History of Prices, Vol. VI, App. III, 參照。

地主が何程の地代を受くべきかを決する場合にはこの困難の外に更に一の困難に會ふ。それは國內諸地方に於ける農業者の能力標準が同じくないことから起つて來る。一農場の生産者餘利或は英吉利地代 English rent は農場生産物が耕作失費—農業者の正常利潤を含む—に超過する高であつて、この場合農

正常農業者の熱心・企業心に地心・標準に於ける差異が生ずるに由つて困難を生ずる。

業家の能力・企業心はその場所に於けるその種類の農場に正常なものと假定してゐる。今吾々の問題とする困難はその場所に於けるといふ言葉を廣く解釋すべきか狭く解釋すべきかを決することにある。

今一農業家の能力が彼自身の場所の標準以下であり、彼が唯一の得意とする所は狡猾な取引を爲すことにありとし、彼の總生産物は僅小であつて彼の純生産物は割合の上に於て一層小であるとする。かゝる場合に地主がこの農場を一層適任な耕作者に移すは社會一般の利益である。この適任者は右の人よりも高い賃銀を支拂ひ遙かに多い純生産物を收め、幾分高い地代を支拂ふであらう。之に反して正常能力・企業心の地方的標準が低い場合がある。この場合には地主はその地方的標準の高い他の地方から農業家を入れて高い地代を收め得ないではない。併し抑も彼がその地方的標準に在る農業家の支拂ひ得る以上に高い地代を取立てやうと努めることは、倫理的見地から見て明かに正しくないだけでなく、地主の營利的見地から見ても結局に於てその利益とはならないのである(26)。

倫理的分子的
と經濟的分子的
子と混在する
密に混在する

(26) この種の困難は實際に於ては妥協によつて解決されてゐる。この妥協は經驗に根據を持つてをり、また「正常」といふ言葉についての科學的解釋にも合致してゐる。地方的耕作者が非凡能力を示す場合に、地主が外來耕作者の招致をもつて農業家を威嚇し、正常地方農業家はその土地によつて到底支拂ひ得ない高い地代を食ふならば、人は地主を目して強慾だと思ふであらう。之に反して一農場の耕作の引受手がなくなつた場合に地主が外來耕作者を入れれば、人は地主の行動を機宜に適したものと考へるであらう。この外來耕作者はその地方に好模範を示しその能力・熟練之は嚴密に言へば例外的ではないが、なほその地方の標準以上である―に基く純餘利を地主と略ぼ折半する。印度の拓殖官 Settlement Officers が同等の良地を精力的種族の耕作する場合と無精力種族の耕作する場合とについて探つた處置を参照ありたい。之については原著六四二頁(譯書分冊四、二八〇頁)の註に一言した。

この問題と密接に關係する一問題がある。それは耕作者が成功した場合にはその企業に對する單なる正常利潤以上に何程かを留保するといふ諒解の下に、耕作者自らの危険に於てその土地の自然的可能能力を開發する自由如何に關する問題である。微細の改良だけについては、この困難は大部分長期耕作權 long lease によつて除かれる。長期耕作權は蘇格蘭に於て著しい効果を擧げた

耕作者が改良を施しその果實を收める自由

が、また獨特の短所もある。人が屢々言ふ通り、『英吉利耕作者は耕作権を持たぬ場合にすら常に何等かの耕作権を持つてゐる』。また『徹頭徹尾英吉利式な耕作制にすら分益農法 *metayage* の俵がある』。季節と市場とが耕作者にとつて順調な場合には、彼は地代の全額を支拂ひ、地主をして地代引上げの考を起さしめるやうな要求を地主に向つて發することを避ける。總てが順調でない場合には、地主は一には同情から一には營利の問題として地代を一時安くし、平生ならば農業家に支出させる修繕失費その他を自ら負擔する。即ち地主と耕作者とは名目地代 *nominal rent* を變更せずとも互に譲つて時には與へ時には受けてゐる點が多いのである(27)。

(27) Nicholson, Tenants' Gain not Landlords' Loss, ch. X. 參照。

慣習は英吉利耕作者の行つた改良の報償を常に一部分保障して來た。また立法は近時慣習と平行に進み、更にそれ以上に進歩した場合さへもある。耕作者は自ら機宜に適した改良を行つて土地收穫を増加した場合に、この増加を理由として地代を引上げられることはない。之は今日に於ては實際の上で保障

されてゐる。また解約に當つてはその改良の未消費價值を裁定によつて定め、之に對する賠償を請求し得るのである(28)。

(28) 一八八三年の農地條例 Agricultural Holdings Act of 1883 は *ハーシー Pusey* 氏委員會の稱揚した慣習を施行した。併し同委員會はその施行を提案した譯ではなかつた。多くの場合改良は一部地主の失費により一部耕作者の失費によつて行はれる。前者は材料を支給し後者は勞働を支給する。その以外の場合には地主自ら改良の眞の擔當者となつて失費と危険との全部を負擔し、利得の全部を收めるのが最も良い。一九〇〇年の條例は之を認めてゐる。またこの條例は一には運用の簡便を計るため、ある種の改良の賠償を請求し得るは地主の承諾を経て改良を施した場合に限ると規定してゐる。排水施設を施す場合には耕作者はその希望を地主に通達せねばならぬ。すれば地主は自らその危険を負擔し之から生ずる福利の一部を收める機會を得ることとなる。施肥及びある種の修理その他については耕作者は地主に相談しなくてもいい。たゞこの場合には裁定員が耕作者の支出に對し賠償を要せずと認める危険があるだけである。

一九〇〇年の條例によれば裁定員は眠れる「土壤の固有可能力」を呼び覺したために生ずる價值を控除し、『新規耕作者にとつてその改良の價值を公正に表はす』高を賠償として與ふべきこととなつてゐる。併しこの控除の項は一九〇六年の條例に

よつて削除された。地主の利益は既に十分保障されてゐるからである。即ちかゝる眠れる可能力を呼び覚ます若干の場合については地主の承諾を要すとの規定があり、またその以外の場合については自ら危険を冒す機会を與へてあるから、この兩者によつて地主の利益は十分保障されてゐるのである。

最後に都市の空地に關する公私の利害關係について一言したい。ウェーイクフィールド Wakefield 及び米國經濟學者は、人口の疎らな新開地域が新來拓殖者の到來する毎に如何に富裕の度を加へ行くかを教へた。その反對の眞理として、人口稠密な地域は人が建築物を新築し或は舊建築物を高くする毎に貧しくなる。空氣日光の缺乏、老幼屋外清遊の缺如、小兒の健全な遊戯の缺如は、續々として諸大都市に流入しつゝある英蘭の最優秀者の精力を消盡せしめる。空地に無計畫の建築を許すことによつて吾々は營利的見地から見ても重大な過を犯しつゝある。些々たる物的富のために吾々は一切の富の生産因素たる精力を空費しつゝある。吾々は本末を轉倒して目的——物的富はこの目的のための一手段たるに過ぎぬ——を犠牲にしつゝあるのである(29)。

(29) 之については第五編第七附錄に更に詳論しておいた。

第十一章 分配總觀

- 一 以上十章の要點。以上十章は第五編第十五章で辿つた一の連續の絲を横斷する別個の連續の絲を辿り、各種の物的・人的生産要因・要具の正常價值支配原因間の統一を確立した。

茲に以上十章の論究を要言したい。この論究は吾々の當面の問題の完全なる解決たるには未だ甚だ遠い。蓋しこの問題は外國貿易、信用、雇傭の變動及び多くの形態に於ける聯合行爲共同行爲の影響に關する諸問題を藏するからである。さは言へこの論究は、分配・交換を支配する最基本的・最持久的影響の廣大な作用を包括する。第五編末尾の梗概に於て、吾々は一の連續の絲を辿つた。即ち需要供給均衡一般理論を種々の時の期間に適用するに當り、この諸適用を一貫し連結する一の連續の絲である。その時の期間には一面に短期がある。

以上五章の要點を掲げて一編の論を續ける。第一章の別個の連續の絲を辿る。

生産費が價值に何等の直接影響を及ぼし得ざる程に短かい期間である。他面には長期がある。生産要具の供給がこれら要具に對する間接需要——この需要はこれら要具の生産する諸貨物に對する直接需要から派生する——に相當良く適合し得る程に長い期間である。本編に於て、吾々は別個の連續の絲を取扱つて來た。即ち各種の時の期間を連結する絲を横斷する別個の連續の絲である。この連續の絲は各種の物的・人的生産要因要具を連結し、これらの要因要具——その外面的特性には重要相違點はあるが——の間に基本的統一を確立するのである。

第一に、賃銀その他の努力收入 earnings of effort は資本利子と多くの共通點を有する。蓋し物的資本と人的資本との供給價格支配原因の間には一般的一致があり、人をしてその子の教育の内に、人的資本を蓄積せしめる動機とその子のためにする物的資本の蓄積を制する動機とは相類似するからである。一方には資力豊富にして基礎確實なる工業企業或は商業企業を子に譲るために作業し待望する父がある。他方には子が徐々として徹底的醫學教育を修める間之を

資的物の・正人
供給の・格常
の一般性は決
に原・因はそ
に著し・る類
似點があ
る

補助し最後には子のために収益の多い醫業を買ひ與へんとして作業し待望する父もある。彼と之との間には連續的推移がある。更に子を長く就學せしめ後に熟練職業を修得する間暫らく殆んど無給で作業せしめんために作業し待望する父もある。蓋し走り使の如き職業は少年に對して比較的高い賃銀を提供するものであるが、それは將來の立身出世に至る道でないから、子が早くから自立を強ひられてかゝる職業に就くを防ぐためである。右第二の父とこの父との間にも亦た同様の連續的推移がある。

尤も社會が現在の如く構成されてゐる限り、若年者の能力といふ人的資本を開發するために多くを投下すべき人は恐らくその兩親以外に存せぬは眞である。また多くの最優秀能力は、之を開發し得る者がその開發に何等の特殊利害關係を有せざるがために、永遠に未開發の儘に終ることの多いのも眞である。この事實は實際上に於ては極めて重要である。蓋しこの事實の結果は累積的だからである。併しこの事實は決して物的・人的生産要因の根本差別を生ぜしめるものでない。蓋し他面に、優良地の優良耕作を爲すべき人が之を爲す便宜

但し重要な
相違點があ
る

を有せぬため多くの優良地の劣等耕作が行はれる事實があつて、この二つの事實は類同するからである。

三二〇

更に人間は徐々に衰へる。両親が子の職業を選ぶに際しては原則として人生一代全體を先見せねばならぬ。故に需要の變化が供給の上にその全幅の結果を現はすに要する時は、物的生産要具の大多數の種類の場合に於けるよりも人的要因の場合に於て長いのである。殊に労働の場合に於て然りである。この場合に需要供給の正常適合を生ずる傾向を有する經濟諸力が全幅の作用を現はすには殊に長い期間を要する。即ち大體に於て、雇主にとつての或る種労働の貨幣費用は結局に於て該労働の實質生産費に相當良く一致するのである(1)。

(1) 第四編第五章・第六章・第七章・第十二章及び第六編第四章・第五章・第七章参照。

二

企業家は各

一方人的生産要因の能率と他方物的要因の能率とは互に秤量され、この能率

種の奉仕を階級
量しもつて秤
代用原理を
實現する

はその貨幣費用と比較され、各要因は他の要因に比較して貨幣費用の割合に能率多い限り充用される傾がある。企業の一主要機能はこの代用の大原理の自由作用を容易ならしめることにある。企業家は機械と労働との奉仕、更に熟練労働不熟練労働の奉仕、増用職工長支配人の奉仕を不斷に比較しつゝある。それは一般に公共の福利となるが時には之に反することもある。彼等は不斷に新生産要素を用ひて新配合を工夫し實驗し、彼等にとつて最有利の方法を選択しつゝある(2)。

(2) 第五編第三章三・第六編第七章二参照。

即ち殆んど總ての労働階級の能率はその費用に比較され、この能率は不斷に一或はそれ以上の生産部門に於て他の若干階級の能率と互に秤量され、この後者の各々はまた更に他の労働階級と比較秤量される。この競争は先づ第一には『垂直的』である。それは各種の労働團が等級を異にしつゝ同一生産部門に用ひられ、言はゞ同一垂直壁に圍まれつゝ雇用分野を得んとする争である。併し同時に『水平的』競争は常に一面かもし一層單純な方法で働く。蓋し第一

に各生産業内部に於ては成年者が企業から企業へ移動する自由が大であり、第二に一般に両親はその近隣地方に於て自己と同等級の殆んど如何なる生産業にもその子を入れ得るからである。現在に於てすらある労働等級に於ける労働は同等級の労働者の子によつて多く補充されるといふ事實があるに拘らず、各種労働等級間に於て奉仕と報酬とが密接に適合して實效的平衡を實現するは、右の如き垂直的・水平的競争の結合によるのである(3)。

(3) 第四編第六章七、第六編第五章二参照。

即ち代用原理の作用は主として間接的である。液體を入れた二個のタンクを一本の管で連結すれば、高所にあるタンクの中の管に近い液體は、粘著性を持つてゐてもなほ且つ、他のタンクに流入するであらう。液體は一のタンクの他端から他のタンクの他端へ流入しはしないが、而かも右の如くして二個のタンクの一般水準は一致する傾があるであらう。もし數多のタンクを管で連結すれば、タンクの中には直接連絡せぬものがあつても、總てのタンクの液體は同一水準に歸する傾があるであらう。同様に各種生産業、否労働等級は直接に

代用原理は
結局に於ては
徹底する

は互に連絡なく、一見互に競争するに由ないかの觀を呈する場合に於ても、代用原理は間接の経路によつて各種生産業間、否労働等級間に於て能率と所得とを適合せしめんとする不斷の傾がある。

三

不熟練労働者から熟練労働者に至り、更に之より職工長に至り、部長に至り、利潤の分配に與る大企業總支配人に至り、個人大企業の副出資者に至り、最後にその主腦出資者に至る間、少しも連續性の切斷はない。株式會社に於ては取締役から企業究極の主要危険を負擔する普通株主に至る。一種の反對極點とも言ふべきである。かくの如き連續性あるにも拘らず、企業者はなほ且つある程度迄別種の産業階級を成すものである。

蓋し各種生産因素を互に秤量する代用原理が主として作用するはこれら企業者の意識的作用力によるのであるが、他面企業者については之を行ふ作用力なく、彼等自身の競争の間接的影響に待つ外ないからである。故に代用原理は

併し企業家
自身は作業
に於ては
代用原理は
如きは
の如き
組織を
せぬ

非凡天賦能力から生ずる所得

人の所得中、非凡天賦能力の所有による部分はその人の天與の無償の恩惠である。抽象的見地から見れば、その以外の自然無償の賜——土地の固有性質の如き——の地代に稍や似てゐる。併し正常價格を論ずる場合には、寧ろ自由拓殖者が新地の耕作から收める利潤或は更に眞珠取りの獲物と同じ種類のものと見るべきである。甲拓殖者の地所は豫期以上に優良なることあり乙拓殖者の地所は豫期以下に劣等なることがある。眞珠取りの一回の潛水の多大の獲物は獲物なき他の數回の潛水を補ふ。一人の辯護士或は技師或は商人がその天賦の天才によつて得る所得は他の多數者の比較的失敗と合せ考ふべきである。これらの多數者はその若かつた頃には恐らく成功者と同様に有望であり同様の高價な教育を受け高價な生活發足點を得たのであるが、その生産上に致した奉仕はこの費用の割合に成功者の如く大でなかつたのである。最有能の企業家は一般に最高利潤を得る者であり同時にその作業を最も安價に營む者である。もし社會がこの有能企業家の作業を劣等企業家に委ね、劣等企業家がこの作業を一層安價に營まうと企てるならばそれは空費である。恰かも貴重なダ

イアモンドを賃銀の安い——併し——不熟練な細工人に與へて細工せしめるに等しい。

四 各種生産要因は雇用競争者ともなるが同時に互に雇用の唯一源泉である。資本増加は如何に労働の雇用分野を大ならしめるか。

各種生産要因は互に雇用の唯一源泉である

本編第二章の見地に歸つて、各種生産要因相互間の二重關係を再論したい。一面に於て彼等は往々雇用競争者である。甲要因が費用の割合に乙要因よりも能率大なれば甲は乙に代用される傾があり、之によつて乙の需要價格を制限する。他面に於て彼等は悉く互に他の要因の雇用分野を成してゐる。一要因の雇用分野なるものは、他の諸要因によつて與へられなければ存せぬものである。國民分配分は一切要因の結合生産物であり各要因の供給と共に増大するが、この分配分は同時に各要因に對する需要の唯一源泉である。

資本増加は如何に労働

即ち物的資本が増加すればその結果資本は新用途を求めに至る。その際、

時に少数生産業に於て筋肉労働の雇用分野を減ずることもあらうが、なほ大體に於て筋肉労働及び他の一切生産要因の需要を非常に増加するであらう。蓋し一切要因の需要の共通源泉たる國民分配分を著しく増加するからである。また物的資本の雇用競争の増加は利率を引下げ、従つて資本労働一充用分 *margin* の結合生産物は以前よりも労働に有利に分割されるに至るからである。

この新労働需要の一部分は、從來收支償ひ得なかつた新企業の發生といふ形態をとつて現はれるであらう。他面一層高價な新機械の製作者からも新需要が起るであらう。蓋し機械が労働に代用されると言ふ場合には、長い待望と結びついた甲種の労働が短かい待望と結びついた乙種の労働に代用されることを意味するのであつて、この理由のみによつても既に資本を労働一般に代用するは不可能だからである。但し地方的に他地方からの資本移入による場合は例外である。

さりながら資本増加が労働に與ふる主なる福利は、労働の新雇傭を生ずるに由るに非ずして、土地労働資本(或は土地労働・待望)の結合生産物を増加し資本(或は待望)の一定量がその報償として要求し得る生産物取得分を減少するに由ることは依然として眞である。

五

一労働者團の數或は能率の増大は一般に他の労働者を利する。併し數の増大は彼等自身を害し能率の増大は彼等自身を利する。この増大は彼等自身の労働と他種労働との限界生産物を變化し、之によつて賃銀を左右する。正常限界生産物の評定には多大の注意を要する。

一産業團の作業の供給の變化が他種労働の雇用分野に如何なる影響を及ぼすかを論究するに當つては、その作業の増加がその團員の數の増大から生じたか或は能率の増大から生じたかの問題を提起する要はなかつた。蓋しこの問題は他種労働の直接に關する所でないからである。何れの場合に於ても國民分配分は同様に増加する。何れの場合に於ても競争の結果彼等自身は同様の

一の労働者團の能率が増大するに當り、賃銀は増え、労働者の數は増加する。この結果、他種労働の需要は減少する。

賃銀は増加する

程度に限界利用の低い用途に就くの已むなきに至り、之によつて一定種作業の一定量の代償として要求し得る結合生産物取得分は同様の程度に減少するであらう。

併しこの問題は該産業團の團員にとつては致命的に重要である。蓋しその變化が彼等の平均能率の十分の一の増大であるとするれば、能率が變化せずして數が十分の一増大する場合に十一人の得べき總體所得と同じ所得を十人で得ることになるからである(5)。

(5) 例へば該團の作業の供給が十分の一増加したためこの一團は限界用途 marginal uses の低い作業に就くの已むなきに至り、之によつて一定量の作業の賃銀が十三分の一減少したと假定する。すればこの變化が數の増大によつて生じた場合にはその平均賃銀は十三分の一減少することになる。之に反してこの變化が能率の増大によつて生じた場合には賃銀は十六分の一増加することになる。(一層精密に言へば従前の $\frac{11}{10} \times \frac{39}{10} = 1 \frac{19}{100}$ となることになる)。

かくの如く各労働者團の賃銀が他團の數と能率とに依存することは一般原則の一特殊場合である。一般原則とは即ち環境 environment (或は時運 Conjuncture)

環境が賃銀の種及びその他の影響

は正常能率の労働者の純生産物の正常賃銀の支配に近く参加する

(rate) が少なくとも人の精力能力と對等の力をもつて純生産物—彼の賃銀は競争の影響の下に不斷に之に近づく—の支配に参加するとの原則である。

ある労働者團の正常賃銀は純生産物に近づく。この純生産物を評定するには、生産物を販賣しても辛うじて正常利潤を収め得るのみでそれ以上を収め得ない限度迄生産が押し進められてゐるものと推定して之を評定せねばならぬ。また正常能率の一労働者—この労働者の生産増加高は正常能力・正常好運・正常資力を有する一雇主に正常利潤を與へそれ以上を與へぬ—について評定せねばならぬ。(正常能率以上又は以下の労働者の正常賃銀を求めるとはこの純生産物に或る物を加減せねばならぬ)。評定の時は正常繁榮の時及び各種労働の供給が相對的に適切なる時を選ばねばならぬ。例へば建築業が例外的に沈滞せるか或は例外的に繁榮せる場合、或は煉瓦積工或は大工の供給が不足し他面他種建築職工の供給が過多となつて建築業の發展が阻害される場合がある。かかる場合は、煉瓦積工大工の何れについても純生産物と正常賃銀との關係を評定するに便宜な場合ではないのである(6)。

(6) 貨銀と労働の限界純生産物との關係については第六編第一章・第二章、殊に二八―三二頁(第六編第一章七後半)及び七〇―六頁(第六編第二章七)を見よ。この點はなほ第六編第十三章殊に四〇九頁註―第六編第十三章九註(12)―に論究した。眞正の一代表的限界を求むる必要については第五編第八章四五を見よ。その所で論究した通り(第五編第八章四註(9)分冊三、一七五―七頁)この限界に達した場合には一労働者團の供給が他團の貨銀に及ぼす影響は既に考量されてゐる。また一個人労働者が一國諸産業の一般經濟環境に及ぼす影響は無限小であつて彼の純生産物と貨銀との關係を評定する上には無關係である。生産高の急増が理論上多大の經濟を生ずべき場合に於てすらこの急増に障害の存すること及びかゝる場合に『限界』といふ言葉を用ふるには殊に注意を要することは第五編第十二章及び同編第八附録に一言した。

第十二章 經濟進歩の一般影響

一 新國に於ける資本・労働雇用分野の豊饒性は一には市場への交通便宜に依存する。その市場とはその財を賣り且つその所要品の現在の供給を受けるためにその將來の所得を擔保し得る市場である。

ある地が労働資本に對して提供する雇用分野 field of employment は三つの事情に依存する。一はその地の自然的資源である。二はこの資源を利用する力である。この力はその地の知識の進歩と社會組織・産業組織の進歩とに基く。三はその地に有り餘る物を賣り得る市場への交通便宜である。この最後の條件の重要な度は往々過小視されるが、諸新國の歴史を見ればこの條件は極めて重要である。

新國が舊世
普通に人の言ふ所によると、良土が豊富で無地代であり氣候が不健康でない

資本・労働
はの雇用分野

界への良好な交通便を有せぬ場合には常に必要ない

所に於ては、必ず實質労働收入と資本利子とは高からざるを得ないといふ。併し之は單に部分的にのみ真である。初期のアメリカ殖民者は非常に苦しい生活をした。自然は殆んど無償で彼等に木材と肉類とを與へた。併し彼等は殆んど生活の快適品と奢侈品とを持つてゐなかつた。今日に於てすら一殊に南米及びアフリカには一自然の恩恵が豊かな地でありながら世界の他の部分との交通が開けてゐないために労働資本の入つて來ない地がある。之に反してアルカリ性砂漠のたゞ中にある鑛業地でも、外部の世界との交通が開けた曉には資本・労働に對して高い報償を提供するかも知れぬ。或は更に不毛の海岸にある貿易中心地の如きも同様であるが、もしその中心地が自己の資源にのみ依頼するとすれば僅かな人口を一而かも極貧の状態で一養ひ得るに過ぎまい。また蒸氣交通が発達して以來、舊世界は新世界の生産物に對して無上の市場を提供したから、北米、濠洲とアフリカ、南米の一部とは資本労働に對して未曾有の最豊饒の大雇用分野となつたのである。

舊國は新國

併し何れにしても諸新國の近代的繁榮の主因は舊世界の提供する市場にあ

が將來の所得を擔保する市場を提

その結果た
る新國への
資本流入は

る。その市場も現物として引渡す財の市場ではなくして、遠い將來に於て財を引渡す約束の市場である。少數の殖民者は非常に廣大な豊土に永久財産權を取得した。彼等は彼等自身の時代中にその將來の果實を收めたい。然るに彼等は直接に之を收め得ないため間接に之を收める。そのためには舊世界の既成財を受ける代償として約束を賣るのである。その約束とは彼等以後の時代になつてその土地が生産する財の遙かに多い量を支拂ふといふ約束である。彼等は何等かの形式で非常に高い利率をもつて舊世界に對し彼等の新財産を擔保に入れるのである。英吉利人その他の人々で現在享樂の手段を蓄積した人は一右の將來に於ける約束は彼等が本國に於て爲し得るよりも大なる約束であるから一争つてこの手段を右の約束と交換する。資本の大河は新國に流入し資本の渡來は新國の賃銀率を非常に高める。この新資本が濾過されて邊境に浸み込むのは極めて徐々である。即ちこの邊境には資本が甚だ稀少であり資本を熱望する人が甚だ多いため、資本は長い間往々月二歩の利子を收め、それから漸次下つて年六歩となり恐らく五歩とさへもなる。蓋し殖民者は企業

日給賃銀を

非常に高め

心に富んでをり近い將來に於て多大の價值を有するに至る私的財産所有證書
を取得し得るのであるから、獨立企業者—もし可能ならば他人の雇主—になら
うとし、之がためには貸銀收得者を高い貸銀によつて吸引し、この貸銀は大部分
舊世界から擔保その他の方法によつて借入れた貨物をもつて支拂はれるから
である。

併し労働は
能率高く従
つて高價で
ない

さりながら新國の邊境に於ける實質貸銀率を精密に評定するは困難である。
労働者は一粒選りの人々であつて天賦の冒險性を持ち、勤勉・不屈・企業的である。
働き盛りの人々であつて病氣といふものを知らぬ。彼等が行ふある種の努力
は平均英吉利労働者の堪へ得る以上であり、平均歐洲労働者の堪へ得るよりも
遙かに以上である。一人も弱者がないから彼等の間には貧者はない。もし弱
る人があれば、彼は已むなく人口稠密な何れかの地に引退する。そこでは収入
は少ないが、右よりも安靜・安樂な生活が可能である。彼等の収入は貨幣で計算
すれば非常に高い。併し彼等は多くの快適品・奢侈品—人口稠密の地に住んで
ゐれば無償或は安い價格で求め得べきもの—を非常に高く買はねばならぬか

或は全く之を缺く外ない。さりながらこれらの物の多くは人爲的欲望を満す
のみである。誰一人之を有せず誰一人之を期待せぬ所に於ては容易に割愛し
得る。

時の経過に
つれて傾向
は遞減作用
を起さぬ
は現はれぬ
が、

人口の増加につれて最優良の位置にある土地は既に占有されて了ふから自
然が耕作者の限界努力 *marginal effort* に對して與へる土地生産物の收穫は遞減
する。之は貸銀を稍や低下せしめる傾を持つ。併し農業上に於てさへ收穫遞
増法則は不斷に收穫遞減法則と戦ひつゝあつて、最初顧みられなかつた土地の
多くも念を入れて耕作すれば豊かな收穫を與へる。同時に道路・鐵道の發達と
多様の市場及び多様の産業の發達とは無数の生産經濟を可能ならしめるに至
る。即ち收穫遞増傾向と收穫遞減傾向とは—時には一が強くなり時には他が
強くなつて—略ぼ平衡を保つのである。

もし労働と資本とが同一率で増加し、また—總てを綜合した結果—生産法則
として收穫不變法則が行はれるとすれば、一資本充用分と一労働充用分との間
に分割さるべき報償に變化はないであらう。即ち從來と同じ割合に於て協働

作業する資本と労働との報償は變化しない。従つて賃銀或は利子には必ずしも變化あるを要せぬ。

さりながらもし資本が労働よりも著しく速かに増加するとすれば、利率は恐らく低下するであらう。この場合には賃銀率は恐らく資本の一定量が受ける取得分を犠牲として高まるであらう。併しなほ資本の總體取得分は労働の總體取得分よりも速かに増加することもある(1)。

(1) 例へば資本量 c が労働量 l と協働して生産物 $4p$ を收め、その内 p が資本の利子となり残り $3p$ は労働の賃銀となると假定する。(労働には幾多の等級があつてその内には経営作業も入つてゐるが、今はその總てをその共通標準に引戻して一日一定能率の熟練労働をもつて表はす。上記第四編第三章八を見よ)。今労働量が二倍となり資本量が四倍となり、他面この要因の各々の一定量の絶對的生產能率は變化しないものと假定する。すれば $4c$ が $2l$ と協働して $2 \times 3p + 4p = 10p$ を生産するものと期待していふ。さて利率即ち資本のある量(経営作業その他を除外する)に對する報償率が元來の高三分の二に低下し、 $4c$ はもはや利子として $4p$ を受けずして $8 \frac{2}{3}p$ のみを受けると假定する。すれば一切種類の労働の受ける分として残る高はもはや $6p$ ではなくて $1 \frac{1}{3}p$ となるであらう。資本各量の受ける量は減少し、労働各量の受ける總

體量は $\frac{2}{3}$ の比率で増加し、労働の受ける總體量は $\frac{1}{3}$ といふ右よりも低い比率で増加するであらう。

かゝる事項については利子を遊離するのが最もいふ。併し利子を取扱はずして利潤を取り(資本といふよりは寧ろ)資本家の取得分と雇用労働者の取得分とを對照して差丈ないことは勿論である。

併し貨物についての生産法則として收穫不變法則が行はれると否とを問はず、新土地所有證書については收穫は急速に遞減し生産法則としては收穫遞減法則が行はれる。外國資本の流入は――全量に於ては前と同じではあらうが――人口に比して少なくなる。賃銀はもはや舊世界からの借入貨物によつて主として支拂はれざるに至る。これ即ち一定能率の作業によつて收得し得る生活必需品・快適品・奢侈品が續いて下落する主な理由である。併し貨幣をもつて測定する平均日給賃銀を低下せしめる原因はなほこの外に二つある。蓋し文明の快適品・奢侈品の増加につれて、初期の拓殖者程に堅固な性格を持たぬ移民が流入して平均労働能率は一般に低下し、またこれらの快適品・奢侈品の多くは直接に貨幣賃銀の中に入らずして貨幣賃銀に附け加はるからである(2)。

資本流入は相對的に緩慢となり賃銀は低下する傾向を持つ

(2) 吾々は前に收穫遞増傾向は全體に於て收穫遞減傾向と平衡を保つとの結論に達したが、その際吾々は右の快適品・奢侈品を考量に加へてゐた。吾々が實質貨銀の變化を辿る場合にはこれらをその全幅の價值によつて計上すべきである。多くの歴史家は常に共通消費物たりし物のみについて種々の時代の貨銀を比較した。併し場合の性質から言つて、これらの物こそは即ち收穫遞減法則の適用ある物であり人口増加につれて稀少となる物である。従つてかくして得た見解は一面的でありその一般結果に於て人を誤り易い。

二 十八世紀の英蘭の外國貿易は英蘭の快適品・奢侈品

を増加した。その必要品を著しく増加するに至つたは漸く(十九世紀の)近年である。

英蘭現在の産業問題の十八世紀の産業問題である

英蘭現在の經濟状態は大規模生産の傾向と財并びに勞働の大取引の傾向との直接結果である。この二つは古くから發達しつゝあつたものであるが、十八世紀には二重の刺戟を受けて發達した。一は機械的發明であり、二は多量の同型財を輸入する海外消費者の増加である。それから初めて機械製轉換部分

machine made interchangeable parts といふものが生じ、各産業部門が使用する特殊機械を製作するための特殊機械が初めて應用された。それから初めて地方化産業と大資本とを有する工業國に於て收穫遞増法則の與へる全幅力が現はれた。特に多額の資本が結合されて或は株式會社或は特許會社或は近代的トラストを生じた場合にさうであつた。それからかの綿密な「格付け」grading が始まつた。之は遠い市場で賣る財の格付であつて、既に物産市場株式取引所に於ける國民的―否時には國際的―の役機的團結を生んでをり、その將來は來るべき時代の人々が取扱はねばならぬ若干の最重要實際問題の源である。この點は之よりも永續的な生産者―産業企業者たると勞働者たるとを問はぬ―間の團結と少しも違はぬ。

近代的運動の基調

近代的運動の基調は非常に多數な仕事の單型化 reduction to one pattern である。有力な作用がその作用を合せその影響を廣大な地域に及ぼすに當つて之を妨害する各種の摩擦の減少である。また新方法・新動力による運輸の發達である。十八世紀のマカダム式碎石道路と進歩した海運とは地方的團結・獨占を打破し、

之よりも廣い地域に及ぶその以外の團結・獨占の發達を助けた。吾々の時代に於ては同様の二重傾向が海陸交通の擴張され安價となる毎に、また印刷・電信・電話によつて生じつゝある。

三

十八世紀の英國は、民主主義の分配に於て、奢侈品の影響を蒙つた。

十八世紀に於ては今日と同様、英國の實質國民分配はその輸出品についての收穫遞増法則の作用に依存する所が大であつた。併しその依存の様式は非常に變化した。その當時英國は稍や新工業方法の獨占到近づきつゝあつた。英國はその財の各相を賣つて—兎に角その財の供給が人為的に有限であつた場合には—諸外國の多量の生産物と交換したかも知れなかつた。併し—には大量財の遠距離輸送の時が未だ熟してゐなかつたため—英國の極東・極西からの輸入品は主として富者の快適品・奢侈品であつた。英吉利労働者にとつての必要品の労働費用 *Labour-cost* を低下せしめる上に殆んど直接の結果を及ぼさなかつた。元より間接にはその新貿易は鐵器・衣服その他英吉利労働者の消

今日の英國は、今日の貿易の必要を大に與へる。

費した英吉利工業品の費用を低下せしめた。何となればこれらの海外消費者用品の大規模生産は英吉利労働者にとつても之を安くしたからである。併しその新貿易は英吉利労働者の食物費に殆んど何等の結果をも及ぼさずして、この食物は收穫遞減傾向の下に高まる儘に放任されてゐた。この傾向はもはや狭苦しい村落生活の古い慣習的制限の存せぬ新工業地方に人口が急増したために作用を始めたものである。暫くすると佛國大戦役と數次の凶作とはこの食物費を歐洲未曾有の最高點に高めたのである。

併し漸次外國貿易の影響は吾々の重要食料品の生産費の上に現はれ始めた。米國人口が大西洋岸から西部に擴がるにつれて肥沃な—そしていやが上にも肥沃な—小麥土壤が耕作されるに至つた。運輸經濟は殊に近年に於て著しく増加した。ために耕作の邊境に在る農場との距離は増大しつゝも小麥一クオーターの全部輸入費用は迅速に減少した。かくて英國は層一層の收約耕作の必要から救はれたのである。リカードの時代には小麥畑は荒涼たる丘面の上に迄逼ひ上りつゝあつたが、その丘面は元の牧草地に歸つた。今日の農耕者は

土地がその勞働に對して豊かな收穫を與へる所に於てのみ作業する。もし英蘭が自身の資源だけに依頼せねばならなかつたとすれば、農耕者は層一層と劣等な土地を耕さねばならず、既に十分耕されてゐる土地を更に不斷に耕しこの苦心によつて一エーカー當りの生産物を一或は二ブッシュル増加せしめるを希望せねばならなかつたであらう。恐らく一平均年間に於て、今日丁度收支償ふのみなる耕作即ち「耕作限界に於ける」耕作によつて生ずる生産物は、之をリカードの時代に比すれば二倍であり、假りに英蘭が現在の人口をもつて自身の全食料を生産せざるを得ないと假定した場合に比すれば正に五倍である。

四

英蘭が製造工業の進歩から得た直接利得は一見して思ふよりも少なかつた。之に反して新運輸手段から得た直接利得は一見して思ふよりも大であつた。

英蘭が近時

工業技術の進歩する毎に英蘭が後進諸國の多様の欲望を満す力は増進した。

かの工業改良
から得た利益
は一見して
思ふより少
なかつた

ために後進諸國は自用の手製品を作ることを止めてその精力を原料の生産に轉じ、この原料をもつて英蘭から工産物を買入れるのを好都合とした。かくの如くして發明の進歩は英吉利特産物の販賣分野を擴大し、英蘭は層一層と自己の生産を收穫遞減傾向の強く現はれぬ條件にのみ限り得るに至つた。併しこの好運は長續きしなかつた。米國獨逸その他の諸國は英蘭の行つた改良に追隨し、後に至つては之に優先するに至つた。英吉利特産物は殆んど總てその獨占價值 monopoly value を失つて了つた。即ち米國に於て一噸の鐵をもつて買入れ得る食物その他の原料の量は、米國に於て一噸の鐵を新過程によつて製するため、資本勞働量の生産物に當るのであつて、この生産物以上たり得ない。従つて右原料の量は英蘭及び米國の製鐵勞働能率の増進につれて減少した。この理由あるがために、その外に諸外國が多く英吉利品に重い關稅を課したといふ理由もあつて、英蘭の外國貿易額の大なるにも似ず、工業技術上の發明の進歩は英蘭の實質國民分配分を期待程に、假りに右の事情がなかつたとして期待し得る程に増加しなかつたのである。

英蘭が衣服・家具その他の自國用品を安價に製し得るは決して僅かな利得ではない。併し工業技術上の改良と言つても英蘭と他の諸國とに共通なものである。かゝる改良は英蘭が自國資本・勞働の一定量の生産物をもつて諸外國から買入れ得る土地生産物の量を直接には増加しなかつた。英蘭は十九世紀の工業進歩から多大の福利を收めたが、その福利の全體の—恐らく—四分の三以上は、その工業進歩の間接影響によるのである。即ちその進歩が人と財との輸送費、水燈火の費用、電氣・報道の費用を安價ならしめた間接影響によるのである。蓋し現代に於ける最有力の經濟事實は工業の發達に非ずして運輸産業の發達にあるからである。これこそは即ち總體の大きさに於ても個々の力に於ても最も迅速に發達しつゝあるものである。同時にそれは最も憂ふべき問題を起しつゝあるものである。即ち大資本は經濟自由の力を轉じて經濟自由を破壊する傾向を生じつゝある。併し他面に於てこれこそは即ち同時に英蘭の富を増加するに與つて最も力ありしものである。

五 穀物・肉類・住居燃料・衣服・水燈火・報道・旅行の勞働價値の變化。

進歩が諸物
の正當な及ぼ
したる影響
に及ぼす
第一に文明
生活の主要
要件に對し
る影響

即ち新經濟時代は勞働と主要生活要件との相對價値の大變化を伴つた。これらの變化の多くは、その性質として十九世紀初頭に於ては到底豫想し得ないやうな變化であつた。當時知られてゐたアメリカは小麥栽培に適してゐなかつた。その長途の陸上運送費は禁止的であつた。小麥の勞働價値 Labour value — 即ち小麥一ベック譯者註五を譯者註四買入れるための勞働量—は當時その最高點にあつて今日はその最低點にある。農業賃銀は一般に一日小麥一ベック以下であつたやうである。但し十八世紀前半に於ては約一ベック、十五世紀に於ては一ベック半或は恐らく之よりも少しく多く、之に對して今日は二或は三ベックに達してゐるやうである。ロイヂアリス Rosens 教授の推算は中世については之よりも少し高い。併し教授は順境にある一部人口の賃銀を全體の代表的なものとして考へたやうである。中世に於ては相當豐作の後でさへも小麥の品質は

今日の通常小麦の品質に劣つてゐた。凶作後の小麦の多くに至つては腐敗しかけてゐて今日なら何人も口にしまい。また小麦をパンにするにはマノリア *Manoria* の領主に屬する製粉所で高い独占料金を收めねばならぬ場合が多かつたのである。

人口が非常に稀薄な地では如何にも自然は草を供し従つて家畜飼料は殆んど無償である。南米では乞食も馬に乗つて食を乞ふて歩く。さりながら中世の英蘭の人口は常に稠密であつて、肉類—品質は悪いにも拘らず—に高い労働價值を與へるに十分であつた。蓋し牛の—その重量は今日に比すれば約五分の一に過ぎなかつたが—骨格は非常に大であつて、その肉は主として最も粗惡な大肉片のある部分にあり、冬の間は殆んど餓死の状態にあつて夏草を食して迅速に肥大したため、肉は多分の水分を含み料理中にその重量の大部分を失つたからである。夏の終りには之を屠殺して鹽積にした。その鹽がまた高かつた。富者と雖も冬の間は殆んど新鮮な肉を味はなかつた。一世紀前に労働階級が喰べた肉は非常に僅かであつた。然るに今日はその價格は當時よりも稍

肉類

や高いに拘らず、労働階級は恐らく英吉利史上の如何なる他の時代に於けるよりも—平均に於て—肉を多く消費してゐる。

住居

次に家賃に移ると、都市の土地地代 *ground-rents* は外延的にも收約的にも高まつた。蓋し都市の標準によつて土地地代を拂はねばならぬ家屋に住む人々は増加しつゝあり且つその標準が高まりつゝあるからである。併し本來の家賃 *house rent proper* 即ち全部家賃から土地の收益價值の全額を差引いた残額は、同様の設備について言へば如何なる前の時代に比しても恐らく—よし高いとしても—殆んど高くない。蓋し建築に用ひられる資本の收める資本運轉利潤率は今日は低くなり、建築材料の労働費用 *labour cost* は餘り變つてゐないからである。また高い都會家賃を支拂ふ者はその代償として娛樂その他近代都市生活の利益を得ることを忘れてはならぬ。これらの利益は全部家賃よりも遙かに大なる利得であるから多くの人は之を棄てやうとはせぬであらう。

木材の労働價值は十九世紀初頭よりは低いが中世よりは高くなつた。併し泥壁・煉瓦・石壁の労働價值は餘り變化なく、之に對して鐵—硝子は言はずもがな

の労働價値は著しく低くなつた。

世間では一般に、本來の家賃が高くなつたと信じてゐるが、之は實に吾々祖先の住居の實狀を完全に知らないのに基因するやうである。近代技術工の郊外住宅の寢室設備は中世上流社會の寢室設備よりも遙かに優等である。當時の労働階級には薄い藁の外には寢床はなかつた。その藁は惡虫の惡臭を放つて濕つた土間にあつた。之とても人間が裸體で人間と家畜との間に在つた頃には、體裁のために襤褸を纏つた頃に比すれば恐らく不健康ではなかつた。この襤褸には殆んど常に長い間の塵芥が溜つてゐて不潔を極めた。併し今日の都市の最貧階級の住居は身體精神の兩者を破壊すること及び吾々の現在の知識資力をもつてしてはこの状態を續けしめる原因もなく遁辭もないことは否定し得ないのである(3)。

(3) さりながら過去の害悪は通常想像されてゐるよりも大であつた。例へば一八八五年の住宅調査委員會に於ける故シアフツペリー Shaftesbury 卿及びオクテトピアヒル Octavia Hill 嬢の顯著な報告を見よ。倫敦の空氣は煙に満ちてゐる。併しその空氣は科學的衛生の行はれる以前——當時は相對的に人口は少なかつたにも拘らず——に

比すれば恐らく當時程不健康ではない。

燃料

燃料は草と同じく人口稀薄な場合には自然無償の賜である。中世の農業労働者 cottager は——常にではなかつたが——一般に僅かの柴を集め得た。彼等は之を小屋の内で焚いてその周圍に詰め寄つて暖を取り、小屋には煙突がなかつたから熱は逃げて行き得なかつた。併し人口増加につれて燃料の缺乏は強く労働階級を壓迫した。石炭が熔鐵用としてのみでなく家庭用燃料として直ちに木材に代つたからいゝが、さもなければ英蘭の進歩は全然止まつてゐたかも知れぬ。今日石炭は安價となつて、比較的の貧者さへも屋内の暖を保ち得るに至り、蒸せるやうな不健康な空氣の中に生活しなくなつたのである。

これ即ち石炭が近代文明に與へた大奉仕の一つである。もう一つの大奉仕は安價な下著を供することである。この下著なくしては寒冷な氣候に住む國民の大眾が清潔となるは不可能である。之は恐らく英蘭が自國用品製作用機械の直接應用によつて收めた福利中の主要なものである。もう一つの——之に劣らぬ——重要な奉仕は大都市に於てさへも豊富な水を供することである(4)。

衣服

水

もう一つは石油の助けを借りて安價な人工燈火を供することである。之は人の作業の一部に必要な許りでなく—之よりも重要なのは—人の夜間の餘暇の善用に必要である。これら一類の文明生活要件は一面に石炭から生じ他面に近代的運輸手段から生じたものであるが、なほこの一類中に加へねばならぬものがある。それは右に述べた通り、蒸氣印刷、蒸氣郵送、蒸氣旅行便宜による安價、徹底的な通信手段、思想傳達手段である。これらの諸作用力は、人を無力ならしめる程に温暖でない氣候を持つ諸國に於て—電氣の助けをかりて—大衆の文明を可能ならしめつゝある。また國民全體—單にアセンズ Athens フローレンス Florence 或はブリュージュ Bruges のやうな一都市でなく—一大國—否ある點に於て文明世界全體—の眞の自治と統一的行動とに進む途を開きつゝある(5)。

(4) 幼稚な施設も高地から二三の共同噴水井戸に水を導くであらう。併し隅々迄水を供給するといふことは—水が流れ來るといふ點でも水が流れ去るといふ點でも共に—清潔・衛生の上に根本的效果を持つものであつて、之は石炭によつて動かす蒸氣ポンプと石炭によつて作る鐵管とがなければ不可能であらう。

(5) 第一編第一附錄殊に六を見よ。

進歩が主要
生産要因の
影響に及ぼ
したる

英蘭の農業地
に於ては
その時に
農産物の
價值が低
下したる

六

進歩は英蘭の土地—都會地・農業地を通過して—の勞働價值を高めた。たゞ進歩は物的要具の大多數の種類の價值を低下し、資本の増加は資本の比例所得を減少したが全部所得を減少しなかつた。

國民分配分は國內の一切生産要因の總體純生産物であると同時に一切生産要因に對する支拂の唯一源泉である。この分配分が大なれば大なる程—他の事情等しい限り—各生産要因の取得分も愈々大となるであらう。一要因の供給増加は一般に該要因の價格を低廉ならしめてその以外の要因を利用するであらう。以上は既に吾々の明かにした所である。

この一般原理は殊に土地の場合に當嵌まる。ある土地が一市場に物を供給してゐる場合に、その土地の生産性が增加すれば、その結果は先づ最初はこの同一市場のために土地以外の生産要因を所有する資本家・勞働者を利用するであらう。近代の新運輸手段が價值に及ぼした影響の中では土地の歴史に見るやう

な顯著な例は外にない。土地の價値はその土地の生産物を賣却し得る市場との交通が改善される毎に高まる。その價値はその土地自身の市場に一層遠い地から生産物が入つて來る交通便宜の生ずる毎に低下する。倫敦近縣が優良道路開通の結果英蘭の遠い地方も倫敦への食料供給上に競争し得るに至りはせぬかを恐れたのは餘り古いことではなかつた。今日となつては印度米國の鐵道と蒸氣タービンを動力とする鋼鐵船とによつて食物が輸入されるため、英吉利農場の差別利益は若干の點に於て減少しつゝある。

併し國民の繁榮を促進する事情は總て結局に於て土地の地主の繁榮をも促進する。この點はマルサスが主張しリカードが認めたと通りである。十九世紀初頭に於ては英蘭は未だ食物を輸入し得なかつたから、數次の凶作が英吉利國民を襲つた際には地代が非常に急速に騰貴したのは眞である。併しかゝる事情に原因する騰貴は――場合の性質上――それ以上に著しく進み得なかつた筈である。十九世紀中葉には穀物自由貿易が採用され、續いてアメリカの小麥畑が擴大したから、都會地・農業地を通算すれば土地の實質價値は急速に高まりつゝ

併し農業地都會地を
通算すれば
さうでない

ある。即ち都會地主・田舍地主を通算して一切地主の總體地代によつて買入れ得る生活必需品・快適品・奢侈品の量は増加しつゝあるのである(6)。

(6) スターチ W. Sturge 氏の(測量協會で一八七二年十二月に試みた有益な講演に於ける)推算によると、英蘭の農業(貨幣)地代は一七九五年と一八一五年との間に二倍となり、その後一八二二年迄に三分の一低下し、その時以後は交互に高低しつゝある。その高は地代が最高に達してゐた一八七三年頃には五千萬或は五千五百萬磅であつたに對し今日は約四千五百萬或は五千萬磅である。一八一〇年には約三千萬磅であり、一七七〇年には千六百萬磅、一六〇〇年には六百萬磅であつた。(Giffen, Growth of Capital, ch. V. 及び Porter, Progress of the Nation, Sect. II. ch. I. 參照)。併し英蘭の都會地の地代は今日は農業地の地代よりも遙かに大である。地主が人口の増大及び一般進歩から受ける全幅の利得を評定するには、今日鐵道・鑛山・船渠その他の所在地となつてゐる土地の價値を算入せねばならぬ。かくて一切を通算して穀物條例撤廢當時に比較すれば、英蘭の土地の貨幣地代は二倍以上、その實質地代は恐らく四倍になつてゐる。

七

進歩は生産

かく産業環境の發達は全體に於て土地の價値を高める傾がある。併しこの

要具の價值を低落せしめることがある。繁榮が突發すれば、如何にもある生産業に於ける現存要具量は暫くの間非常に高い所得を收め得る。併し無限に増加し得る物は長く稀少性價值 scarcity value を保持し得ない。この種の物が例へば船舶・熔鑄爐・織維機械の如く耐久であれば、改良の迅速な進歩によつて恐らく非常に減價するのである。

さりながら鐵道・船渠の如き物の價值は結局に於て主としてその位置に依存する。その位置が良ければ、その産業環境の進歩はこれらの物の純價值を高めるであらう。その要具を時勢の進運に伴はしめるために生ずべき經費を考量に加へておいてすら然りである(7)。

併しその數地人の價值が算入されうればさうでない

(7) 勿論例外がある。經濟進歩は他の形式をとるかも知れぬ。即ち新鐵道が敷設されて若干既存鐵道の運輸の多くを奪ひ去る如き、或は船舶の大きさが増大して遂に入口の淺い船渠に入り得ぬに至る如きである。

八

それは資本の供給を大に増加した

政治算術 Political Arithmetic は十七世紀に於て英蘭に始まつたと言つていい。その時以來、人口一人當りの蓄積富の高は不斷に且つ略ぼ著實に増加し來つたのを知る(8)。

富の増殖は人が將來の爲めに捨てる現存の犠牲心を促した

人間は依然としてなほ稍や延期の忍耐を持たぬとは言へ、將來に於て安樂その他の享樂を得るために之を捨てる犠牲心を漸次増大して來た。人間は『望遠鏡的』才能を習得した。即ち將來を實感し將來を明白にその精神の眼前に現前せしめる力量を増加した。人は一層慎重となり自制心を増し、従つて一層將來の不幸・福利——吾々はこれらの言葉を廣い意味に用ひて人間精神の最高・最低の愛情を含めてゐる——を高率で評定するやうになつた。人は一層非利己的となり、従つて家族の將來の資を確保するため一層作業し貯蓄するやうになつた。そして一層晴れやかな時代が來る徵候が既に仄かに見えてゐる。その時代とは即ち、人が一般に作業心・貯蓄心を持つて一層高尚な生活を營むための公共富・公共機會を増加するに至る時代である。

た業ん作くた
心と業長イ
はすを業時
衰る爲間
へ作さのし

かく人間は古い時代に比すれば、將來の福利のために現在の不幸を嘗めんと欲する度を増加した。併し今日吾々が積極的快樂—現在のものたると將來のものたるとを問はぬ—を得るために行はんと欲する力作量を長く増加し行き得るや否やは疑はしい。數代に亘つて西洋の産業は著實の度を増加した。休日は減少し作業時間は増加し、人は任意により或は必要によつて作業外の快樂を求めること愈々少なくなつた。併しこの運動はその極大點に達し今や衰へつゝあるやうである。最高級の作業は別として、一切等級の作業に於て人は以前よりも一層休養尊重の念を増しつゝあり、過度の緊張から來る疲勞に對して愈々耐忍を失ひつゝある。以前の人は現在の奢侈品を得るために甚だしい長時間の作業といふ『非貨物』discommodityを不斷に増加せんことを欲したのであるが、今は恐らく全體に於て以前程に之を欲しなくなつた。これらの原因があるから人は遠い將來の必要のために以前の如き勤勉心を持たなくなるかも知れぬ。然るに將來を實感する力量は之よりも更に速かに増加し、恐らく—但しこの點は一層疑はしいが—少量の蓄積富の所有に基く社會的差別を願ふ念

近時の利率
變動

が同様に強くなつたため、人の勤勉心は依然變らないのである。

一人當りの資本の増加は資本の限界利用を遞減せしめる傾を持つた。従つて新資本投下についての利率は—一齊にはないが—低落した。中世の大部分に於ては利率は一割であつたとの説がある。併し十八世紀前半には三步に低落した。その後多大の産業的、政治的資本需要があつたため再び高まつて、大戦争中は相對的に高かつた。この政治的排け口が無くなつた時には—當時は金の供給が非常に少なかつたから—低落した。併し十九世紀の四分の三に入つて高まつた。それは新らしい金が豊富となり、鐵道と新國開發とのために大いに資本の必要が起つた際である。一八七三年以後は平和時代ではあり且つ金の供給が衰へたため利子は低落したが、今日は再び高まりつゝある。一には金の供給増加の結果である(9)。

(9) 上記第六編第六章七を見よ。

九 各種産業階級の收入變化の本質と原因。

習得能力の
相対的減少
の傾向がある

一般覺醒の増進と對少年の責任感の發達とは、増加しつつある國富の多額を物的資本としての投下から轉じて人的資本としての投下へ向けた。その結果として習得能力の供給は大いに増加し、それはやがて國民分配を著しく増加し國民全體の平均所得を高めた。併しこの供給増加は、從來これらの習得能力が持つてゐた稀少性價値を著しく奪つてこの能力の收入を—絶對的にでは無いが—一般進歩に比して相對的に減少せしめた。またこの増加によつて、古く熟練職業に數へられ今なほ熟練職業と言はれてゐる多くの職業も賃銀については不熟練勞働に伍するに至つた。

その著しい例は筆書である。多くの種類の事務所作業のためには高級な精神的・道徳的素質を非凡に兼備してをらねばならぬは眞である。併し筆寫事務員の作業を爲すことは殆んど何人にも容易に教へ得る。恐らく相當に物を書き得ない男女はやがて英蘭には殆んどなくなるであらう。誰でも物を書き得るに至れば、從來殆んど一切筋肉作業よりも高い賃銀を收めてゐた筆寫作業は不熟練勞働に伍するに至るであらう。事務員作業の中には判斷をも責任をも要

せぬものがある。この種類のものに比すれば技術工作業中の優良な種類は事實に於て人間を一層教育し報酬も多いであらう。また原則として技術工がその子のために爲し得る最善事は之を養育して手頃な作業を徹底的に營ましめ、之によつてこの作業に關聯する機械的・化學的その他の科學的原理を理解せしめ、その作業に於て何等かの新改良を行はんとする精神に入らしめることにある。もしその子が優秀な天賦能力を持つてゐるならば、彼は世界に於ける高位に登るのであつて、その望は技術工のメンチからする方が事務員の机デスクからするよりも遙かに多いのである。

更に一新産業部門は往々單に親しみが無いといふ理由によつて困難なことがある。一旦道がよく踏み固められた曉には通常の才ある男子否女子少年さへも營み得る作業にも、偉大な力量・熟練を持つ人を要する。その賃銀は最初は高いがその作業に慣れて來ると低下する。之がために平均賃銀の騰貴は過小視されるに至つた。生産業中には一二代前には比較的新らしかつたが今日はこれら生産業の開拓者よりも遙かに實質能力の低い人に營まれてゐるものが

有る職業に
比較的に
對する傾向
が下にある

あり、典型的一般賃銀運動と思はれてゐる多くの統計はこの種の生産業から取つたものだからである(10)。

(10) 第四編第六章一・二及び第九章六参照。生産業の進歩するにつれて機械は改良され、一定の仕事に費む緊張は必ず減少し、従つてその仕事の賃銀は迅速に低下する。併し同時に各労働者の擔當する機械の速度・分量は著しく増加するから、一日作業に伴ふ全部緊張は以前よりも増加するであらう。この題目については雇主と被備者とは屢々意見を異にする。例へば織維工業で時間賃銀が高まつたのは確實である。併し被備者はその行ふ緊張が比例以上に増加したと主張する。この點は雇主と反對してゐる。この論争では賃銀は貨幣で評定されてゐた。併し貨幣購買力の増加を考量に加へれば、實質能率賃銀 real efficiency wages の高まつたことは疑ない。即ち體力・熟練・精力の一定量の力作の受ける報償は以前よりも貨物支配力を増したのである。

かくの如き變化の結果は熟練職業——この言葉が今日適切に用ひられてゐると否とを問はぬ——と呼ばれてゐる職業に於ける雇備者數を増加する。かくの如く高級生産業に於ける労働者數が不斷に増加する結果、一切労働の賃銀平均は各生産業の代表的賃銀の平均よりも遙かに速かに高まつたのである(11)。

(11) 一の例で之を一層明かにしたい。もし甲等級が五百人あつて一週十二志を得、乙等級は四百人で二十五志を得、丙等級は百人で四十志を得るとすれば、千人の平均賃銀は二十志である。もし暫くの後甲等級の三百人が乙等級に進み、乙等級の三百人が丙等級に進み、各等級の賃銀は靜止的であるとすれば、千人全體の平均賃銀は約二十八志六片となるであらう。もし各等級の賃銀率がある場合、一割低下したとしても、全體の平均賃銀は依然約二十五志六片であり、即ち二割五歩高まつたこととなるであらう。これらの事實を無視すると重大な誤謬を生じ易い。ギッフエン Giffen 卿の指摘した通りである。

技術工賃銀

中世に於ては偉大な能力を有する一部の人々が生涯技術工の地位に止まつて美術家となつたこともあるが、なほ一階級としての技術工の地位は今日よりも不熟練労働者に近かつた。十八世紀中葉の新産業時代の初頭に於て技術工は古い美術的傳統を多く失ひ、而かも未だ近代熟練技術工のやうに工具を技術的に操縱することも習得してをらず、困難な作業を精密に營む上に於ても迅速確實でなかつた。然るに十九世紀初頭に變化が起つた。觀察者は、熟練労働と不熟練労働との間に生じつゝ、あつた社會的溝渠を見、また技術工の賃銀が騰貴して通常労働の賃銀の約二倍に達したのを見て驚いたのである。蓋し高度熟

十九世紀初頭、熟練労働に於ては、不熟練労働に比し、賃銀が相対的に高まつた。

練勞働—殊に金屬産業に於て—の需要の大増加は勞働者及びその子の中の最も性格強固な人々を刺戟し、これらの人々を迅速に技術工階級に吸収したからである。丁度その當時技術工の従前の排外性は破れ、技術工はもはや以前の如く出生による貴族性を眞價による貴族性程に尊重しなくなりつゝあつた。かくの如く技術工の素質が高まつたために、技術工は長く通常勞働賃銀率よりも遙かに高い賃銀率を維持し得たのである。併し漸次一部の單純な熟練業は新味を失ふにつれて稀少性價値を失ひ始めた。之と同時に傳統的に不熟練業中に數へられてゐた一部の業に在る者の能力に對して不斷に需要が増加し始めた。例へば土方及び農業勞働者に託する高價複雑な機械は段々増加した。その機械は従前熟練業にのみ屬すると思はれてゐた程のものであつて、これら二つの代表的職業の實質賃銀は速かに高まつた。近代的觀念が農業地方に普及した結果、農業地方に生れた最有能の兒童は畑を棄て、鐵道或は工場場に行き或は都市に出で、巡査となり或は馭者或は運搬夫となつたが、もしさうなつてゐなかつたらば農業勞働者賃銀の増加は右よりも一層著しかつたかも知れぬ。

併し今日はこの傾向は逆になつた

畑に残された者は以前よりも優良な教育を受け—恐らくその平均天賦能力は劣つてゐるが—その父達よりも著しく高い實質賃銀を收めてゐる。

熟練責任職業中には多大の體力を要し多大の不快適を伴ふものがある。例へば製鐵所の主任火夫及び展鐵工の如きである。これらの職業では賃銀は非常に高い。蓋し時代の風潮として、高級作業を營んで高い賃銀を容易に收得し得る者は、非常に高い報償を受けない限り勞苦に服するを拒むからである(12)。

(12) 右は賃銀の進化についての簡單な説明であるが、之を補ふにはシュモラー教授 Schmoller, Volkswirtschaftslehre, III. 7 (Vol. II, pp. 239—316) の概論がいゝ。この概論が殊に勝れてゐるのは、その視野の廣大なこと、進歩の物質的・心理的分子を注意深く同位に置いて取扱ふ點とである。なほその第二卷後半を見よ。

次に老年男子青年男子及び女子少年の相對的賃銀の變化を考察したい。産業條件は迅速に變化するから、長い間の經驗は一部生産業では反つて不利益となり、多くの生産業に於ては迅速に新著想を發し新條件に順應して自己の

老年男子の相對的賃銀は低落了

習性を改めるに比すれば遙かに價值が少ない。人は恐らく五十歳を過ぐれば三十歳以前程の収入を得ない。この點を辨へてゐる技術工は不熟練労働者の例に倣はうとする。不熟練労働者は自己の賃銀の減少する以前に家族失費の減少を望むため、常にこの願望に刺戟されて自然に結婚を早める傾向があるのである。

少年少女の賃銀も高まつた

之と同種の第二の—而かも一層有害な—傾向は少年の賃銀が両親の賃銀に比して相對的に高まる傾向である。機械は多くの男子を排除したが多くの少年を排除しなかつた。慣習上の制限は少年を一部の生産業から除外してゐたが、その慣習上の制限も衰へつゝある。これらの變化は、教育の普及と合して殆んど一切の他の方面に良結果を及ぼす反面に惡結果をも及ぼしつゝある。即ち少年—少女さへも—は之によつて両親を無視し自己の計算に於て生活發足を爲し得るに至りつゝあることこれである。

女子の賃銀も高まつた

女子の賃銀も同様の理由によつて速かに男子賃銀に比し相對的に高まりつゝある。之は賃銀が女子の才能を開發する傾がある限りに於ては非常な利得である。併し女子が賃銀に引かれて眞の家庭を作る義務を怠り兒童の性格能力といふ人的資本に女子の努力を投下する義務を怠る限りに於ては有害である。

一一 例外的能力の收入。

例外的天分は増加しつゝある

中等能力—如何に周到に訓練されてゐても—の收める所得は相對的に減少するが、この相對的減少は多くの非凡能力者の收める所得の増加によつてその勢を強めた。中等の油繪が今日の如く安く賣れる時は未だ曾てなかつた。また一流の名畫がかく迄高く賣れる時も未だ曾てなかつた。平均能力平均好運を有する企業家は今日如何なる以前の時よりも低い利潤率を得てゐる。他面天分と好運とによつて例外的に恵まれてゐる人の參加し得る作業は非常に範圍が廣く、彼は未曾有の速度をもつて巨萬の富を成し得るのである。

この變化の原因は主として二つである。第一は富の一般増加である。第二は新交通便宜の發達であつて、之がため一旦支配的地位に登つた者はその建設

二つの原因の結果である

的或は投機的天分を未曾有の程度に大規模に且つ一層廣大な地域に亘つて企業に用ひ得るに至つた。

その一は殆ど単獨に始る自由職業に於て

この第一の原因こそは—殆んど單獨に—一部の辯護士をして非常に高い料金を得せしめる所以である。蓋し富裕な依頼人の名譽或は資産或は兩者が脅された場合には、その依頼人は最優秀者の奉仕を得るために如何なる價格をも殆んど高きに失するとは思はぬからである。またこの第一の原因こそは例外的能力を有する騎手・畫家・音楽家をして非常に高い價格を得せしめる所以である。これら一切の職業に於て人が現代に於て收めつゝある最高所得は世界始まつて以來の最高所得である。併し人の音聲が届く人數に限りがある限り、如何なる歌手が一萬磅—十九世紀初頭ビルリントン Billington 夫人は一音^{ソング}樂^{シーズン}季節内にこの収入があつたと言ふ話である—以上に収入を増加しても、それは到底現代に於ける企業指導者が自らの一萬磅以上に収入を増加したには比すべくもないのである。

之に反して

蓋し米國その他に於ける現代の企業家中には一流の天分を持つて好運に恵

企業所得に於ては兩原因とも全幅的作用を及ぼす

まれた人々があり、右の二原因は協働してこれら企業家の掌中に絶大の勢力と富とを集めたからである。如何にもこれらの利得の大部分は競争場裡に敗れた競争投機者の破滅から來た場合もある。併し主として偉大な建設的天分の無類の節用力が自由に新らしい大問題に働きかけたために生じた場合もある。例へばグンダービルト一家の創始者は紐育中央鐵道系統の渾沌状態を救済したが、之は恐らく彼自身が蓄積した以上を合衆國民のために節約したのである(13)。

(13) さりながら注意しておかねばならぬ點がある。それはこれらの利得の一部が職業團結形成の機會に因由することもあるといふ點である。少數の有能・富裕・不敵な人々は工業の一大部類或は一大地方の商業・運輸を自己の利益のために搾取しやうとして職業團結を劃策する。この勢力の中で政治状態殊に保護關稅に依存する部分は消滅するかも知れぬ。併し米國は面積廣大でありその状態は非常に變化するから、英吉利風の大株式會社を鈍重・著實に經營してゐては、少數の富裕資本家が活氣ある嶄新な計畫を立て迅速・果斷の實行力を有するに比すればその敵でない。これら資本家は大企業にその資力を投ぜんと欲し、また投ぜざる力ある點に於て英蘭の資本家の比ではない。米國の企業生活状態は變轉極りないから、自然淘汰はこの目的

のために多大の人口中から最優秀の人物を第一線に引出し得る。そしてこの人口中の殆んど各人は生活に入るに當つて生涯の中に富裕にならうと決心するのである。企業と企業好運との近代的發達は英吉利人にとつて異常の興味と教訓とである。併し企業生活條件が舊世界と新世界とで本質的に違ふことを不斷に念頭に置ておかぬとその教訓を讀み過るであらう。

一二 進歩は一般に考へられてゐる以上に労働賃銀引上げの力があり、また自由労働の雇傭の中斷性を恐らく増加せずして反つて減少した。

進歩は急速に労働階級の條を改善し、大に多數の件を改め、つゝある

併しこれらの好運は例外である。社會大衆の間に教育が普及し、慎深い習性が普及し、新企業方法は小資本投下の安全な機會を提供するため、中位の所得は利益を受けつゝある。中産階級の所得は富者階級の所得よりも急速に増加しつゝあり、技術工の収入は自由職業階級の収入よりも急速に増加しつゝあり、活力ある健康體の不熟練労働者の賃銀に比してさへもそれ以上に急速に増加しつゝある。之は所得税、家屋税報告、貨物消費統計、政府株式會社の上級下級被傭

者俸給記録等の悉く示す所である。最富者の總體所得は英蘭の總體所得の大部分を占めてはゐるが、大部分と言つても今日は以前程の大部分ではない。之に反して米國では土地の總體價值は急速に高まりつゝあり、労働人口の高級な緊張は移住民の低級な緊張に領域を犯されつゝあり、大ファイナンシアは絶大の勢力を得つゝある。ために財産から生ずる總體所得は労働から生ずる總體所得に比して相對的に増加しつゝあること、及び最富者の總體所得が最も急速に増加しつゝあることも眞たり得るかも知れぬ。

近代産業に於ける雇傭の中斷性は、いかに容易に誇張され易い

賃銀の騰貴に伴つて已むを得ざる離業のために無爲に費す時間が増加すれば、賃銀増加もその福利の一部を失ふことは之を認容せねばならぬ。雇傭の中斷性は一大害惡であつて、世の注意を惹くのは當然である。併しこの中斷性は實質以上に大であるかの觀を呈する。之には二三の原因がある。

一大工場が操業を半減するとすれば、その風評は近邊一帶に傳はり恐らく新聞は之を全國に傳へる。併し一獨立労働者―否一小雇主でさへも―が一ヶ月に僅か數日の作業しかせぬとしても、之を知る人は極く僅かである。その結果

近代に於ては産業休止がありさへすれば即ち古の産業中止に比して相對的に重要であるかの觀を呈し易い。古に於ては一年契約によつて雇はれてゐた労働者もあつたが、彼等は自由ではなく人格的折檻によつて作業に従つてゐた。また中世の技術工が繼續的雇傭を得てゐたと考ふべき確かな理由はない。今日歐洲に見る雇傭の中斷性で最も根強いものは、西部歐洲では最も中世的な方法を用ひてゐる非農業的産業にあり、東部及び南部歐洲では中世的傳統の最も強い産業にある(14)。

(14) 著者の實見した一例を茲に擧げたい。パレルモ Palermo には技術工とその眷屬者との間に半封建的聯絡がある。大工或は服屋は一或は數多の屋敷を定めてそこに雇傭を求め、相當よく仕事をしてゐる限り彼は實際上競争から保障されてゐる。市況沈滞の大波もない。新聞には殆んど離業者困窮の記事がない。離業者の状況は時から時へ殆んど變化しないからである。併しパレルモの最好況時に於ける離業技術工の割合は英蘭近年の最不況沈滞時の最中に於けるその割合よりも大である。雇傭の中斷性についてはなほ下記第六編第十三章一〇に數言を費した。

一年契約によつて雇はれる被傭者の割合は多くの方面に於て著々と増加し

つゝある。之は一部生産業の多くに於ては一般原則となつてゐる。例へば最も急速に發達しつゝある運輸業に關係した生産業即ちある點に於て十九世紀後半の代表的産業——十九世紀前半に於ては製造工業であつた——である。たゞ發明の速度、流行の變轉、分けても信用の不安定は確かに近代産業に攪亂的分子を導入するには違ひないが、なほやがて明かにする通り、他の諸影響は之と反對の方向に強く働いてゐるから、全體に於て雇傭の中斷性が増大しつゝありと考ふべき確かな理由はないやうである。

第十三章 進歩と生活程度との關係

一 活動程度・欲望程度と生活程度・快適程度。快適程度の増進は人口増加の制限によつて一世紀前の英蘭の賃銀を激増し得た筈であるが、新國から容易に食物原料を求め得たためこの方面には殆んど何事も爲す要がなかつた。

活動と欲望

吾々は第三編で欲望と活動との關係を考察したが、その際の思想の方向を先づ初めに少しく進めておきたい。吾々は第三編に於て、經濟進歩の眞の基調は新欲望の發達に非ずして寧ろ新活動の發達にありと考ふべき理由あるを知つた。よつて茲に現代の吾々に殊に緊要な一の問題を若干研究したい。即ち—生活様式の變化と收入率との關係如何、その一は如何なる程度迄他の一の原因と見るべきか、また如何なる程度迄他の一の結果と見るべきかの問題これである。

生活程度と活動程度を意味する

快適程度は賃銀の増進が活はるる進歩の主として活動する程度による

る。

茲に生活程度 standard of life と云ふ言葉は欲望に適合せる活動程度 standard of activities を意味する。即ち生活程度の増進は知力・精力・自重心を増加し、支出に關する細心・判斷を増し、飲食慾を満すのみで身心の強力を與へぬ飲食物を廢せしめ、肉體上・精神上不健全な生活法を棄てしめる。社會全人口の生活程度の増進は國民分配分を著しく増加し、各等級各生產業に歸すべきこの分配分取得分を著しく増加するであらう。一生產業或は一等級の生活程度の増進はその能率を増進し従つてそれ自身の實質賃銀を増加し、國民分配分を少しく増加し、他の生產業或は等級は之によつて能率高い割合に少ない費用をもつて前者の助力を受け得るに至るであらう。

併し幾多の學者の説いた所によると賃銀に影響を及ぼすは生活程度の上進に非ずして快適程度 standard of comfort の上進である—この快適といふ言葉は單なる人爲的欲望の増進を聯想せしめこの欲望は恐らく粗野な欲望を主とするかも知れぬ。快適程度の一般的改善ある毎に多くは生活様式の改善を生じ

一層高級な新活動への路が開かれるは眞である。他面に於て従前生活必需品をも生活高稚品をも有しなかつた人々は、快適の上進によつて恐らく活力精力を若干増進し得る。彼等が快適といふものについて例へ如何なる粗野な物質的な見方をしやうとも問ふ所でない。即ち快適程度の上進は恐らく生活程度の若干増進を來すであらうし、その増進を來す限りに於ては國民分配分を増加し、國民の生活條件を改善する傾がある。

さりながら現代及び前代の一部の學者はこの點以上に突き進んで單なる欲望増加が賃銀を高める傾があると暗に言ふに至つた。併し欲望増加の唯一の直接結果は國民を従前よりも困窮ならしめることである。もし欲望増加が活動増加その他によつて生活程度を上進する間接可能結果を無視すれば、欲望増加は労働供給の減少による外賃銀を高め得ない。即ち以下この點を一層精細に考へて見たい。

二

極端な形式に於ける賃銀の假定的基礎

既に述べた通り、もし食物輸入の容易でない一國に於て人口が數代に亘つて高率の幾何級數關係で無障害に増加するならば、自然の與ふる資源によつて作業する労働資本の全部生産物は各時代の人間の養育養成費を辛うじて償ふに過ぎぬこととなる。國民分配分の殆んど全部が労働に歸し資本家或は地主に殆んど之を與へぬと假定してすらかなほ且つ然りである(1)。もし分配取得分がこの水準以下に下れば人口増加率は必然減少せねばならぬ。人口の扶養養育失費が節減され、その結果能率の低下、従つて國民分配分の減少、従つて所得の減少とならぬ限り然らざるを得ぬ。

(1) 第六編第二章二・三を見よ。なほ第四編第四章、第五章、第六編第四章。

快適程度の高賃銀の上進が、市場の非世界的な稀薄な歴史に於ける非世界的な歴史

併し事實に於ては急激な人口増加の制限は恐らく之よりも早く起るであらう。何となれば一般人口は恐らくその消費を單なる必需品に限らぬからである。また家族所得の一部が生命と能率との維持を殆んど利する所ない満足に費消されることは殆んど確實である。即ち生命と能率とに必要なる以上に多少とも上進した快適程度を維持することは或る時期に於て必然人口増加の制